

No.56 >>> Contents

●年頭所感 一般財団法人 大日本蚕糸会 会頭 小林芳雄	1
●一般財団法人 大日本蚕糸会から	平成 29 年度 (第 73 回) 蚕糸功労者表彰式を挙行	2
●提携トピックス	養蚕を始めて..... 群馬県富岡市 高橋直矢	6
	養蚕に取り組んで..... 株式会社とみひろ 養蚕事業部 現場担当 湯澤亜沙子	8
●蚕糸絹トピックス	「シルクサミット 2017in 富士吉田」を開催して	
 農業・食品産業技術総合研究機構 生物機能利用研究部門 新産業開拓研究領域 カイコ機能改変技術開発ユニット 笠嶋めぐみ	10
	第 56 回実りのフェスティバル	
 一般財団法人 大日本蚕糸会 ジャパンシルクセンター	15
●シルク遺産を訪ねて③⑤	わが国人造絹糸の発祥地..... 東京産業考古学会 理事 平井東幸	16
●蚕糸・絹業史のひとコマ	外国に知られた養蚕集落・八丈島の天蚕織物..... シルク博物館 元部長 小泉勝夫	20
●シルク豆辞典	上杉鷹山と米沢織	
 東京農工大学農学部蚕学研究室 准教授 横山 岳	24
●研究・技術情報	色の表現..... 一般財団法人 大日本蚕糸会 蚕糸科学研究所 研究員 花之内智彦	28
●蚕糸・絹業団体情報	日本シルク学会の紹介..... 日本シルク学会 会長 高林千幸	32
●イベント情報		35
●一般財団法人 大日本蚕糸会から	平成 29 年度第 3 次分の純国産絹マーク使用許諾状況	37
	純国産絹マーク使用許諾者及び絹製品名一覧 (H29- 第 3 次)	41
	一般財団法人 大日本蚕糸会活動日誌	48
	第 6 回蚕糸絹業提携確立技術・経営コンクールの出品を募集	49
●蚕糸絹関係博物館一覧		50
●蚕糸絹関係機関ホームページ一覧		53
●統計資料 (統計資料の詳細は統計資料目次をご覧ください。)		55

年 頭 所 感



一般財団法人大日本蚕糸会
会 頭 小林 芳雄

明けましておめでとうございます。本年も、我が国の蚕糸絹業の発展のため、皆様から大日本蚕糸会に対して期待される役割が果たせるよう努力してまいりますので、宜しくお願い申し上げます。

本会は、平成 20 年度から 28 年度まで政府の支援のもとに進められてきた「蚕糸・絹業提携支援緊急対策事業」の終了を受けて、これを引き継ぐ対策の検討を行ってきました。平成 30 年度からは本会独自の事業として、新たな蚕糸絹文化の振興のための諸対策を講じてまいります。

基本的な方針としましては、従来 of 事業でうたわれた“蚕糸絹業の連携による高品質な純国産ブランドの確立”との目標を改めて確認し、提携グループが市場ニーズに即して活動を活発化できるように必要な支援をいたします。また、純国産絹マークなどを通じた純国産製品への消費者理解を高める方策を追究していきたいと考えます。一方で、政府の財政的支援が終了したことから、これからは本会の独自財源のみで運営していくことになります。有限であり、かつ先人から継承した貴重な資産を費消していくことから、精一杯効率的に、かつ、できるだけ持続性が保てるように心がけてまいる考えです。

市場開拓による絹需要の拡大が今後とも重要な課題であります。昨年秋には遺伝子組み換え技術により新たな機能を付与されたカイコについて、いよいよ群馬県の農家での一般飼育が行われ、収穫される段階に至りました。緑色蛍光を発するシルクとしての製品特徴を活かせるよう、京都の企業がインテリア素材として商品化に取り組んでいるところです。市場の開拓・ブランド化と併せて実用的な飼育・生産が一体的に進められていることに、今後の我が国シルク産業の新しい展開のモデルが示されるのではとの期待をしております。

本年は「明治 150 年」と云われます。1868 年に明治の時代が始まり、我が国シルク産業は殖産興業の一翼を担い経済発展に寄与してきました。明治 25 年に創設された本会のこれまでの軌跡や役割に改めて思いをいたし、我が国シルク産業・文化の持続的発展のために努力して参りたいと考えます。併せて、地域の伝統産業・文化としての役割をもつ蚕糸絹業の振興のために、各地域の地方自治体を始めとした関係機関のご支援を引き続きお願い申し上げます。

平成 29 年度（第 73 回）蚕糸功労者表彰式を挙行



第 73 回を迎える一般財団法人大日本蚕糸会主催の平成 29 年度「蚕糸功労者表彰式」は、去る平成 29 年 11 月 16 日(木)東京都千代田区内幸町・帝国ホテル 2 階孔雀南の間において、総裁常陸宮正仁親王殿下御臨席のもと、盛大に挙行了。本表彰式では、恩賜賞 1 名、蚕糸功績賞 2 名、蚕糸功労賞 17 名・1 団体、蚕糸有功賞 15 名、貞明皇后記念蚕糸科学賞 1 件、蚕糸絹文化学習教育奨励賞（蚕を学ぶ奨励賞）1 こども園・1 小学校が栄えある表彰を受けられました。

1. 恩賜賞

大澤 正 明
現 群馬県知事

2. 蚕糸功績賞（2名）

河原畑 勇
元 九州大学農学部教授
草野 洋 一
前 一般財団法人大日本蚕糸会常務理事

3. 蚕糸功労賞（17名・1団体）

福 島 県	関 根 實
茨 城 県	鈴 木 要 至
茨 城 県	生 天 目 勲
群 馬 県	甘 楽 富 岡 蚕 桑 研 究 会
群 馬 県	岩 崎 佳 治
埼 玉 県	島 田 一 雄
長 野 県	西 谷 務
長 野 県	丸 山 直 子
岐 阜 県	所 弘 子
(国研) 農業・食品産業技術総合研究機構	米 村 真 之
(一社) 日本絹人織織物工業会	田 村 直 之
(一社) 日本絹人織織物工業会	大 塚 誠
(一社) 日本絹人織織物工業会	服 部 正 毅
(一財) 伝統的工芸品産業振興協会	木 村 泰 士
中央蚕糸団体	大 野 美 也 子
中央蚕糸団体	佐 藤 秀 明
中央蚕糸団体	稲 吉 昇 一
中央蚕糸団体	武 居 正 和

4. 蚕糸有功賞（15名）

宮城県	遠藤忠
宮城県	遠藤良一
宮城県	佐藤徳助
宮城県	遠藤正悦
福島県	長谷部豊
福島県	松本治介
茨城県	篠原三男
茨城県	野中潤一
群馬県	田村瑠璃子
愛知県	海野久栄
京都府	蓬萊信之
京都府	種池正秀
(国研) 農業・食品産業技術総合研究機構	橋本好二
(一社) 日本蚕糸学会	西川和弘
中央蚕糸団体	浅井優助

○平成29年度（第60回）貞明皇后記念蚕糸科学賞

「カイコのBt毒素に対する抵抗性遺伝子の発見」

国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構生物機能利用研究部門

宮本和久

山本公子

和田早苗

石原産業株式会社アニマルヘルス事業本部

渥美省吾

○平成29年度（第5回）蚕糸絹文化学習教育奨励賞（1こども園・1小学校）

「蚕を学ぶ奨励賞」

群馬県 Bambini（バンビーニ）ピッコロ園

埼玉県 児玉郡神川町立青柳小学校

（敬称は略させていただきました）



恩賜賞を受賞された大澤正明様



蚕糸功労賞を受賞された方々



茶会場での蚕糸功績賞を受賞された方々

養蚕を始めて

群馬県富岡市
高橋直矢

養蚕を始めてみて

養蚕を始めて3年半が経ちました。幸いなことに富岡製糸場の世界遺産登録と私の就農が重なり、テレビや新聞など様々な媒体で養蚕後継者として取り上げていただき、養蚕という仕事を微力ながら発信することができたのではないかと考えています。取材の中で「なぜ大学卒業後すぐに養蚕を継ぐことを決意したのか」という質問が多くありました。記者の方のほとんどは、養蚕を珍しい仕事のように感じていたのかも知れません。両親は養蚕をはじめ水稲、原木椎茸、玉ねぎを生産する農家で、養蚕は家業のひとつであり、幼い頃から触れ合ってきたとても身近なものです。私にとって家業を継ぐことは自然なことであり、特別な位置づけはありませんでした。大学卒業後すぐに就農したのは、生きた教科書である両親から、座学ではわからない農業のあれこれを学びたいと思ったからです。養蚕に関する取材を通じて、全国的に若年の後継者が少なく、養蚕農家が減り続けている現状を痛感すると同時に、注目されることがなければ現状を知ることはなかったのではないかと考えています。

我が家の養蚕は私が就農するまでは年2

回、就農から昨年までは年4回、今年は5回飼育しました。私は17回経験したことになりますが、この道50年近い父やそれ以上のベテラン農家さんたちは、毎회가1年生だと仰っています。私の地域の養蚕の時期は春蚕期（5月20日～6月18日頃）、夏蚕期（7月1日～27日頃）、初秋蚕期（7月28日～8月22日頃）、晩秋蚕期（9月11日～10月10日頃）、晩々秋蚕期（9月30日～10月28日頃）となっており、気候が違うのはもちろん、同じ季節でも前年とまったく違う天候になることもあり、毎회가1年生という言葉の重みを痛感しました。また、作業も力仕事が多く肉体疲労を感じない日はありませんでした。夏場の桑採りは早朝からでも汗だくになります。雨が降っても桑を採りに行くので、最近の秋の長雨には本当に手を焼いています。養蚕とは、お蚕という生き物と自然を相手に行う我慢比べなのではないかと思っています。

4年目のいま、思うこと

養蚕はいま、変化の時期にあるのかもしれませんが。ここ何年かで養蚕が注目を集めた裏で、農家の減少、養蚕道具の製造中止、桑園

の獣害・農薬被害と養蚕を取り巻く環境が大きく変わりました。飼育技術を経験者から学ぶ機会は失われつつあり、道具の新品を入手することはほぼ不可能で、引退された方から譲ってもらうしかありません。となると、現行の飼育方法では道具の劣化などでそう遠くないうちに限界が来ることが考えられます。代用できるものを探して試してはいますがなかなか上手くいかないのが実際のところです。養蚕が見直されているいまだからこそ、従来の飼育方法と道具を活かしながら、新しい考え方で新しい養蚕のスタイルを創出していく必要があると思っています。

これから

私は養蚕を、農業として続けていきたいと思っています。文化や伝統といった表現をされることもあります。現在も続く産業の中のひとつとして、生業として生涯携わる覚悟です。一方で、先人たちの知恵を参考にしながら、前例にとらわれず、現代の新しい技術や道具を取り入れて、身体への負担の少ない長く続けられる養蚕の形を模索することが使命だと思っています。

養蚕を続けていく上で、良いことも良くないことも様々あるとは思いますが、お蚕の可愛らしさと繭の美しさを励みに、先輩農家さんに負けにくいぐらいの仕事をしたいと強く思います。



飼育室



上簇室



黄繭（ぐんま黄金）と白繭（ぐんま 200）

養蚕に取り組んで

株式会社とみひろ 養蚕事業部

現場担当 湯澤亜沙子

株式会社とみひろ・養蚕事業部の現場担当として、養蚕を立ち上げてから今年で3年目となりました。乱筆乱文にて大変恐縮ですが、実際に養蚕をしてみて感じたこと等を書かせて頂きます。

はじめに個人的な話になりますが、私は学生の頃にテキスタイルを選考しており、繭から糸を紡ぐ授業を通して、その繊細な美しさに魅せられ、以前から養蚕に興味を持っていました。

ただ、お恥ずかしい話ですが、当初の養蚕に関する知識と言えば、「桑を食べる」くらいでした。ぼんやりと、「桑は畑の脇や山手などに生えていて、ちょっと取ってきてあげる」、といった甘い想像をしていましたが、そんな訳は無く、最初は毎日驚き、戸惑いの連続でした。

一昨年の春、養蚕の立ち上げは、桑園の造成から始まりました。約30aの予定地には、大小200本以上の雑木があったため、地元の方々にも協力して頂いてそれらの伐採を行い、(一社)山形県蚕糸業会や、地元の指導員の方々、元農家の方々からご教示を受けながら、1年目は約800本、2年目は約600本の苗木を植えました。2年目は挿し木での苗木作りから、自社で行いました。力仕事も

多く、あちこち筋肉痛になりながら、繊細な絹素材の裏には、こんなに泥臭い仕事があったのだと驚きの連続でした。

一昨年に植えた桑の苗木は無事にすくすく育ち、今年の晩秋蚕に初めて収穫することができました。夏場の草取りや肥料散布、剪定など苦勞して世話を続けて来た桑の葉を、お蚕様達が食べてくれるという事は、言葉にできない達成感がありました。

お蚕様の飼育は、最初は町内に残っていた桑畑をお借りし、一昨年の晩秋蚕約13,000頭からはじめました。まず驚いたことは、「お蚕様はとてもデリケートな生き物である」ということです。暑さ寒さに弱く、病気にかかることもあるので、温湿度管理や、道具や部屋などの消毒が必要であること。「虫だから丈夫なのだろう」という感覚とは大きなギャ



H29年造成桑園

ップがありました。

飼育で最も驚いた事は、「こんなに桑をたくさん食べるのか！」ということです。1日毎に、目に見えて大きくなっていくお蚕様。

現在約 25,000 頭ずつ飼育している弊社では、最盛期で、一日約 200kg の桑を収穫します。桑採りの作業をしていると、日に日に、手足の筋肉がついていきました。ただ、元農家さんに言わせると、「これくらい、少ない量だよ。昔、この十倍も飼ったよ」とのことでしたので、また驚きました。

また、多量のお蚕様を飼育するには、その成長を一定に揃える必要があることも知りました。いかに全てのお蚕様に、平均して桑を食べさせるか、また桑の供給のタイミング等は、知識だけでなく、経験を重ねる必要があるなど感じました。

絹素材の印象から、最初は優雅なイメージだった養蚕ですが、気力・体力・知識・経験など様々な事が必要な、大変な仕事とわかりました。

初心者の私には、驚いてばかり、大変なことの多い養蚕ですが、その分、とてもやりがいがあると感じています。大変さに応じるように、日に日に育っていく様子を見ることは、他に味わうことのできない喜びを感じます。毎日必死に食べるお蚕様を見ていると、とても愛おしく感じてきます。無事に成長し、繭になっていく時間は、疲れも消えていくようなとても充実した時間です。

最初は、見よう見まね、訳も分からない中での作業でしたが、段々、「寒いから食いつきが良くないな」「もう一回り大きくなったら脱皮かな」など、お蚕様の様子が少しずつ

見えるようになり、「次はここをもっと丁寧にしてみよう」「ここを質問しておこう」と考えながら、楽しく取り組めるようになってきました。

また、飼う毎に、「繭が他に無い、とても美しい素材だ」ということを強く実感しています。お蚕様が繭を造り上げていく姿は、毎回、新鮮に感動してしまいます。



H27 年上蒔

養蚕を通し、養蚕のやりがい、素晴らしさを実感すると同時に、養蚕農家さんが身近な場所から消えている現状も知りました。養蚕所のある白鷹町では、以前ほとんどの農家さんが養蚕飼育をされていたとの事ですが、今では一軒も無くなってしまいました。養蚕に関連した文化も、知る人がどんどん減っていることを知り、とても残念に感じています。

このタイミングで、養蚕に携わることができたことは、大きなご縁だと思えます。養蚕はとても大変な仕事ですが、唯一無二の美しい素材を育てることができる、とても貴重な仕事だと感じています。私達世代、さらに次の世代へと、この養蚕の文化が続いて行くことを願い、その一灯となれるよう、養蚕に取り組んでいきたいと思えます。

「シルクサミット 2017in 富士吉田」を開催して

農業・食品産業技術総合研究機構

生物機能利用研究部門 新産業開拓研究領域

カイコ機能改変技術開発ユニット

笠嶋めぐみ

本年度の開催地は、山梨県富士吉田市。富士山を望む富士北麓・東部地域（郡内地方）では、富士の湧水を利用した繊維の染色の歴史があり、現在では、カーテン、ネクタイ、紳士服裏地、婦人服、ストール、洋傘、座布団など多様な織物の産地として知られています。これらの織物産業のルーツとなったのは絹織物「甲斐絹」です。甲斐絹とはどのような絹織物なのか、一度姿を消してしまった甲斐絹をいかに復刻させたのか？今回の富士吉田開催では、甲斐絹の歴史を紐解きながら未来にかけける絹・織物産業に焦点を当てました。「甲斐絹の再生とシルク産業の活性化を目指して」というサブテーマを掲げ、シルク産業と地域の活

性化に奮闘する富士吉田市の取り組みをテーマに講演が行われました。

平成 29 年 11 月 6～7 日、富士 Calm 大研修室にて開催した今回のシルク・サミットでは、約 120 名の参加があり、一日目は基調講演が 1 課題、特別講演が 1 課題、研究活動報告が 5 件ありました。また、二日目は（株）榎田商店、山梨県産業技術センター富士技術支援センター見学の後、富士浅間神社にて能の鑑賞を行いました。

基調講演は、山梨県産業技術センター富士技術支援センター繊維技術部主任研究員五十嵐哲也氏による演題「幻の絹織物『甲斐絹』と郡内織物産地の振興」です。甲斐絹は、明治から昭和初期にかけて、山梨の代表的な織物として山梨県の経済を支えた織物です。絹の染色に適した軟水が豊富に得られる山梨県で育まれた絹織物産業の歴史は古く、江戸時代中期には、郡内（富士北麓・東部地域を指す）の絹織物の需要が増え、「郡内」という名前が全国に認知されるようになりました。井原西鶴（1642-1693）の「好色一代女」の中にも、郡内縞というこの地方で織られた着物が登場して



基調講演者・五十嵐哲也氏

います（主人公のひとり、八百屋お七の着物）。西鶴の他の作品にも度々登場するので、当時から大変人気であったことがうかがえます。甲斐絹はそのような織物文化を背景に生まれ、非常に高い技術に裏打ちされた織物です。軽く、薄い生地でありながら絹独特のコシがあり、玉虫のように輝く光沢があることが特長です。この薄い生地に、細かなかすり、先染めなどさまざまな技法によって奥行きある絵柄や模様が表現されています。講演のなかで紹介していただいた江戸時代の甲斐絹は、羽織の裏地として用いられたもので、墨絵のような繊細な絵柄が印象的でした。江戸時代、奢侈禁止令による贅沢で華美な衣装が禁止されたことから、裏側のお洒落を楽しむ文化が生まれ、「裏勝り」と呼ばれる見えないおしゃれの文化が広まりました。甲斐絹は、様々な技法や凝った意匠で人々のおしゃれニーズに対応し、明治から大正にかけて大きく発展したそうです。近代、和装から洋装に服飾文化がシフトするにつれて、甲斐絹は姿を消してしまいます。しかしながら、この地域で培われた織物技術は、時代のニーズに合わせてさらに進化します。現在では、ネクタイ地、洋傘地、袖裏地などの織物が、全国シェアの頂点を占めるようになりました。この変化しながらも織物産業を牽引し続けることができたのは、脈々と受け継がれてきた高い織物技術が根付いていたからです。このように長きにわたり、ニーズに合わせた織物を提供し、人々の暮らしを支えてきた郡内織物ですが、既製品をシーズ

ンごとに買い求める今の市場では、織物産地の名前が一般消費者の目には触れることはありません。「甲斐絹」「郡内織物」という産地の名前が薄れていることが問題でした。

そこで新たな試みとして、甲斐絹ミュージアム、インターネット（SNSなど）による情報発信など、産地の姿を伝える活動に力を注いでいるそうです。また、産地発のブランド商品の作出で産地をアピールする取り組みが紹介されました。このようなプロジェクトには、甲斐絹の失われてしまった産地と消費者との絆をもういちど取り戻そうという願いが込められているそうです。機織りという伝統産業を観光資源としても利用して、山梨県織物産地を世界にアピールする試みが紹介されました。

HP 甲斐絹ミュージアム (<http://www.pref.yamanashi.jp/kaiki/>) では、山梨県産業技術センターが所蔵する甲斐絹生地見本すべての画像を掲載しているそうですので、サイトをのぞいてみてはいかがでしょうか？

特別講演は、「甲斐絹を用いた山梨のあらたなる価値の創造について」と題して、株式会社甲斐絹座代表取締役前田市郎氏にお話をいただきました。「甲斐絹」を復活させるために、傘、座布団、ストール、ネクタイと専門分野が違う4人の職人たちが集まり結成されたのが甲斐絹座です。“座”の名前に相応しく、精錬、織り、製品化、さらに市場作りまで含めて甲斐絹の伝統を広める活動をしているそうです。甲斐絹座

の製品の特徴は、純国産の絹製品であることです。国産の繭から繰糸した生糸等を使用して国内で製織、染織、加工及び縫製された純国産絹製品のみが表示できる（一財）大日本蚕糸会が定めた純国産絹マークを使用許諾し、ジャパンプランドとして海外の展示会などを通じて海外販売にも力を注いでいるそうです。



手作業で作られる傘

研究活動報告は5題ありました。

平成25年に内閣総理大臣賞を受賞された富士川町の養蚕農家芦澤定弘氏に「養蚕に懸ける想い」と題してお話をいただきました。今年で64歳の芦澤氏は、これまでの人生を振り返りながら、「サラリーマンよりは自由があるだろう」と農業（養蚕）を始めた経緯を語っていただきました。養蚕と柿の栽培で安定的な経営ができるようになったそうです。また、養蚕は蚕期の切れ目があり（飼育しない時期がある）、サ

ラリーマンにはできない休暇が取れるところも魅力と、会場の笑いを誘っていました。実際には、苦しい時期もあり、「よさんか（止さんか）養蚕？と言われましたよ」と軽く言い流す芦澤氏には、苦しい時代を切り抜けてきた強さと自信が垣間見られました。最後に「懸ける思いという表題」について、未来に向かって希望を持ち、イメージしてビジョン化する・クリエイトするという事は、養蚕農家だけでできる事ではありませんが、この富士吉田には多くの機屋があり、これらの機屋が地域活性化を行ってくれることでしょうか、と次の講演を紹介する言葉で締めくくられました。

有限会社カシワギ代表取締役柏木幹弘氏に「甲斐絹の再生とシルク産業の活性化を目指して」という演題でご講演いただきました。有限会社カシワギは元禄時代（1688年）から大明見村おおあすみで続く甲斐絹の機屋で、創業当時から現在までの歴史に触れながら、最近の取り組みについて紹介がありました。大明見は元禄時代に谷村城主、秋元但馬守により殖産事業興隆計画の一環で作られた村で、治水事業とともに養蚕・絹織物産業を発展させました。有限会社カシワギでは、現在でも、富士川町を中心に生産される3,000kgの繭を利用して、スカーフ、布団、洋服等に加工し、直営店、百貨店で販売しているそうです。最後に未来に懸ける思いに触れ、繭を売り、商いを続けることに尽きる、と講演を締めくくられました。

次に、富士学苑中学・高等学校自然科学部の皆さんによる、演題「シルクってす

ごい」では、中学一年生の部員の皆さんに登壇してもらい、カイコを飼育した体験やカイコを使った研究について発表がありました。カイコの飼育体験や感想の他、遺伝子組換えカイコの作成方法や利用法についても詳しく調べて発表を行いました。例えば、カイコの可能性と題して、カイコのオスがメスのフェロモンに反応して羽ばたき行動を起こすという性質を、遺伝子工学の技術によって特定の物質に反応するように改変するとセンサーカイコ（麻薬探知など）を開発できることなどが、大変わかりやすく説明されました。小さな科学者たちが一生懸命講演する姿は会場を和ませていました。



富士学苑中学・高等学校自然科学部のみなさん

次に、富士吉田市産業観光部富士山課課長補佐勝俣美香氏による「ハタオリのマチ・富士吉田市における地場産業（織物）を活用した観光の推進」という演題で、地域活性化を行う富士吉田市の取り組みについて紹介いただきました。インターネットによる情報発信に力を注ぎ、織物産地をアピールしているそうです。また、テキスタイルデザイナーの方を通じて東京造形大学

テキスタイルデザイン専攻の学生とのコラボ事業「フジヤマテキスタイルプロジェクト」を立ち上げて、産地発のブランド商品の開発が進められていることが紹介されました。昨年度には、富士吉田市による「ヒトとイトがいきかうマチ」を目指し、情報発信プロジェクト「ハタオリマチのハタ印」などのプロジェクトがスタートして街をPRする活動が行なわれているとのことでした。

最後に農研機構 遺伝資源センター北杜研究調整監小瀬川英一博士による「農研機構におけるカイコ遺伝資源とその利活用」という演題がありました。農研機構では、現在、カイコの様々な品種を遺伝資源として飼育して保存しています。この蚕種の保存事業は、1800年代にフランスにおいて微粒子病が発生し、養蚕が壊滅状態となり、蚕種製造が間に合わなくなることがありました。それを補うべく、日本から蚕種を輸出したのですが、この時に輸出されたカイコは雑多であったので、品質が安定しないなどの問題がありました。そこで日本政府は優良品種の育成と蚕品種の保存を行ってきたのが始まりです。これらの保存されている古い蚕品種を利用して古代絹の復元も行われています。緞おどしと呼ばれる日本の昔の甲冑に使われていた組紐の断面を見ると、古代絹は織度のばらつきがあるなどの特徴がありました。そのような特徴から、現存するカイコの中で比較的、似たものを選定して復元を行っていることが紹介されました。



古代の甲斐絹

講演後は、同会場で懇親会が行われ、シルク製品の販売や農研機構が開発した高染色性シルク素材の試作品の展示なども行われました。サミット2日目の「榎田商店」の見学では、傘生地作成とその生産工程について学びました。多くの手仕事を経て生産される地域ブランドの傘は、織の魅力が堪能できるハイセンスなデザインで、購入される参加者も多数おられました。地元が多様な産業技術を支える山梨県産業技術センター富士技術支援センターでは、染色や機械織りの技術指導なども行いながら、甲斐絹の保存も手がけられています。非常に貴重な江戸時代の甲斐絹のコレクションの一部を見学しました。光の角度によって色調が変化する光沢のある布は、今の技術では完全に再現することが難しく、当時の織りや染色方法について復元するための研究も続けられているそうです。

時代とともに変革しながら伝統を受け継ぎつつもニーズに合わせた商品を開発してきた郡内織物。今後は、地域活性化や観光産業ともコラボして、もう一度、織りの産地として名前を取り戻し、新たな展開を見せてくれることでしょうか。今回は、シルク

の新しい未来を切り開くためのブランディングのヒントが散りばめられたシルク・サミットでありました。このような地域の特色について焦点を当て、ビジュアルだけを追いかけるのではなく、そこに根付く人々の思いと文化に裏打ちされたクリエイターたちをご紹介できることが、このシルク・サミットの魅力であり、今後もそのようなサミットを開催すべく、お手伝いを続けたいと思います。

今後も、シルク産業に関わる情報発信を目的としてサミットを開催していく予定です。次回は、どのようなサブテーマでの開催でしょうか？事務局一同、来年も皆様のご来場をお待ちしておりますので、どうぞお誘い合わせの上、次回サミットへ足をお運びください。

■問い合わせ先：

農研機構 新特性シルク開発ユニット内
シルクサミット事務局

〒305-8634

茨城県つくば市大わし 1-2

TEL：029-838-6101

E-mail：silksummit@naro.affrc.go.jp

第 56 回実りのフェスティバル

一般財団法人 大日本蚕糸会

平成 29 年 (2017) 11 月 10 日 (金) ~ 11 日 (土) に、東京都豊島区池袋サンシャインシティで、平成 29 年度第 56 回農林水産祭「実りのフェスティバル」が開催されました。ジャパンシルクセンターは、この行事に昭和 60 年 (1985) 以来参加しています。例年どおり、養蚕・蚕糸のパネル、繭・生糸、生きた蚕の飼育・上簇及び座繰り繰糸機 (体験用) の展示、ネクタイ、ショール、絹石鹸等の販売を行いました。今回の企画展示は、今年から始まった遺伝子組換えカイコの農家飼育に関する展示を広

報することとし、「光る繭」と「遺伝子組換えカイコの实用飼育の流れについて」展示しました。今年度は、秋篠宮同妃両殿下のご視察になり、弊社安藤副会頭がこれらの展示についてのご説明を申し上げたところ、大変興味をお持ち頂きました。

来場者は、カイコを懐かしがったり、興味津々で生きたカイコに触れて楽しんだり、座繰りを体験して喜んでいました。多くの質問もあり、シルクへの関心を高めることができました。



ご視察される秋篠宮同妃両殿下



遺伝子組換えカイコの説明

わが国人造絹糸の発祥地

— 山形大学・秦^{はた}教授記念室が伝える遺産 —

東京産業考古学会

理事 平井東幸

この連載の最後に、レーヨンを取り上げるのは如何なものかとの、お叱りを受けることを覚悟しながら、わが国で初めて人造絹糸＝人絹（artificial silk）の開発に成功した、山形大学工学部に収蔵展示されている人絹関係の史料をご紹介します。これらは、わが国の化学繊維工業揺籃期のまことに貴重なものであり、（公社）日本化学会の「化学遺産」にも認定されている。その展示室がある旧米沢高等工業学校本館は明治時代に建設された国の重要文化財である（写真1）。

秦^{はた}逸三教授記念室の貴重な展示品

記念室は、平成12年の山形大学工学部

創立90周年を記念して米沢工業会が整備を行った際に元の図画教室に秦逸三教授記念室が新設された（写真2）。

展示品は次表の通りであり、とくに研究室遺留の人絹糸は現存するわが国最古のビスコース繊維と考えられている。このほか、ガラス製の紡糸ノズル、実験器具類が「化学遺産」に認定されている、いずれもわが国の化学繊維発祥を証する貴重な産業文化財だ。

なお、以上に関しては、（一社）米沢工業会（山大工学部同窓会）発行の『重要文化財 旧米沢高等工業学校本館』（16p）に詳しい。



写真1：旧米沢高等工業学校本館
（写真：米沢工業会の許可を得て筆者撮影、以下同様）

展示品の概要	
名称	説明
ガラス製紡糸ノズル*	ガラスの瓶に収納
実験器具*	木製4点
人絹糸*	研究室時代の遺留品
同上*	米沢工場初期の製品
紡糸実験装置	研究室時代の遺留
木製紡糸機模型	米沢工場初期
レーヨン製造プラントの模型	帝人(株)から寄贈
文献	秦教授の特許、直筆書簡、履歴書類等
書籍	『創立一五周年記念 人絹工業概観図』(帝国人造絹絲株式会社、昭和8年)等、数百点
その他	米沢工場の認証マーク、人絹チョップラベル等

(注) *印は、「化学遺産」に認定



写真2 秦教授記念展示室の内部



写真3 秦研究室の遺留品
左が瓶に入ったガラス製紡糸ノズル、右が人絹糸



写真4 米沢工場初期の人絹糸

重要文化財の旧米沢高等工業学校本館

同校の歴史を振り返ると、全国で7番目の高等工業学校として明治43年開設され、現在は山形大学工学部である。当時の建物で唯一保存されている本館は木造2階建、建築面積1,306㎡で正面全長が94メートルと大規模な建築で、ルネッサンス様式を基調とし、中央正面の両脇には、小塔型の角屋（階段室）、正面玄関の車寄せ等をしつらえて、中央部正面の意匠がとくに美しい。設計は文部省建築課中島泉造、昭和48年に重要文化財に指定された壮麗な明治期の木造建造物。全館が開学以来の歴史を示す展示場になっている。

内部でとくに見るべきところとしては、2階の校長室や会議室（天井の漆喰装飾が美しい）、1階西端の階段教室（理化教室）を初め、各教室は、黒板、教卓、教壇などを含めて当時のまま保存、また、上げ下げ式の窓、階段の手すり、床のリノリウム、建築金具類も当時のものが使われている。

わが国人絹製造の発祥地

日本化学会の「化学遺産」は2010年に始まったが、初年度に認定されたなかに「ビスコース法レーヨン工業の発祥を示す資料」がある。上記の山形大学に保管されているノズル、実験器具、人絹糸、および帝人岩国工場に保存されている紡糸機模型である。同会ホームページでは、「ビスコース法レーヨンは1901年にドイツで、1904年にイギリスで工業化されたが、日本では、鈴木商店の金子直吉の支援のもと、

米沢高等工業学校教授秦逸三と大学同窓の久村清太くむらせいたの共同研究によって紡糸に成功し、1916（大正5）年に米沢に設立された東レザ一分工場米沢人造絹糸製造所において初めて工業化された。この事業はやがて現在の帝人株式会社につながっていった。本認定化学遺産はこの最初期の研究および米沢工場での工業化を示す」との説明がある。わが国で開発されたレーヨン製造の初期の資料として重要である。まさに、ここは、わが国レーヨン工業の発祥地であるとともに、「大学発ベンチャーのフロントランナー」（米沢工業会の山崎理事長）であろう。因みに、米沢の市街地を望む小高い丘の上にはわが国人造繊維発祥の地を顕彰する石碑が建っている。帝人(株)は、5年毎に碑前祭を行っている。2018年には、創立100周年を迎える同社は創業の地・米沢で記念祝賀会を開催するという。

以上、この連載を、絹を模して人造の絹糸を開発した大正初期の遺産で終えることにする。セルロース繊維である人絹は、本絹には到底太刀打ちできない。あくまで代用品である。ただ、このセルロース繊維からナイロン、ポリエステル、アクリル等のその後の多様な化学繊維開発の嚆矢こうしとなったことは記憶にとどめたい。

今回の取材では、米沢工業会の山崎洋一郎理事長に大変お世話になりました。貴重なお話を頂き、館内をくまなく案内下さり、各種資料の提供も頂き、深く感謝致します。

米沢工業会（山形大学工学部同窓会）

○見学問合せ先：米沢工業会

電話：0238 - 22 - 7866

○開館時間：平日 11：00～16：00

○見学には事前予約が必要（見学無料）

○所在地：山形県米沢市城南4丁目3-16

○アクセス：JR米沢駅から徒歩約25分、南米沢駅から徒歩5分

連載を終えて

今回で、35回にわたるシルク遺産の連載を終了させて頂くことになりました。

お陰様で、80近いシルク関係の施設のうち、主要なものは、ほぼご紹介することができました。

一連の取材を通じて、全国各地に貴重なシルク関係の施設と文物が自治体、大学や企業によって文化財として大切に保存され、しかも教育のみならず、生涯学習や観光資源としても活用されて、地域活性化に大きく貢献している背景には、大日本蚕糸会のサポートがあったこともうかがわれました。蚕糸絹業は明治以降のわが国の経済発展の原動力であっただけに、これらのシルク遺産は、わが国の伝統的産業と文化を示す何よりの文化財であり、未永く保存活用されていくことを関係者の一人としてお願い致します。

シルク博物館

元部長 小泉勝夫

その3 外国に知られた養蚕集落

養蚕業は古くから全国各地で盛んに行われてきたので、それぞれの地域に養蚕集落が形成されてきた。

各農家は汗にまみれて蚕を飼育し生活を支えてきた。決して綺麗ごとで語ることでできる仕事ではなかったはずである。生活を支えるためには家族総員で、集落によっては一族総員で一生懸命に取り組んできた。

このような養蚕集落の中から、世界にその名を轟かせたところがある。すでに養蚕業は行われなくなっていたが、1995（平成7）年12月、ユネスコの世界遺産に岐阜県大野郡白川村の白川郷（荻町集落）と富山県南砺市の五箇山（相倉集落、菅沼集落）の集落が「白川郷・五箇山の合掌造り集落」として登録され、世界に一躍その名が知られるようになった。

白川郷の荻町集落は1976（昭和51）年に文化財保護法に基づいて重要伝統的建造物群地区に選定されたので、早くから国内に合掌造りの養蚕集落として知られていた。

一方、五箇山の相倉集落と菅沼集落は世界遺産の登録を受ける前年になって重要伝統的建造物群地区に選定された。

これら集落は岐阜県から富山湾へ流れる庄川の上流や中流の谷間にあり、豪雪地帯で知られた地域である。これら集落ではアワ、ソバ、ヒエを栽培し、養蚕や和紙漉き、蚕糞・雑草などを使った塩硝（火薬などの原料となる硝酸カリウム）作りなどを行って生計を支えてきた。

これら集落は耕地が狭かったので、相続によって土地の細分化することを避けるた



写真1 展望台から望む白川郷の合掌造り集落

め、結婚できるのは長男だけで、一つの屋根の下に、家族ばかりでなく、傍系の親族や使用人たちまで30～100人近い人数で生活をしていたといわれている。

合掌造りの家屋は非常に大きい。理由は同居人が多いことばかりでなく、養蚕を行う上からも広い飼育場所が必要であった。二階、三階などの上層階は蚕の飼育や上蔭場所に使用した。二階以上の上層階の床は板張りではなく、竹箆^{たけす}であったので、隙間から一階の^{いろり}囲炉裏の煙が上層階まで吹き抜けていく構造になっていた。蚕を飼育する上で、適度な気流が流れるように工夫されていた。この煙による気流は茅屋根を保護する役目も兼ね備えていた。白川郷の全ての合掌造りの建物は写真1からも分かるように、妻が一方向の南北に向いて建てられ



写真2 庄川にかかる橋を渡る観光客の列



写真3 荻町の合掌造りの民家



写真4 白川郷内の合掌造りのみやげ店

ている。これは十分な日当たりを受け、南北に吹く風で茅屋根を乾燥させ長期保存に努めると共に、この風を上層階にまで取り入れ、蚕の良好な飼育環境になるように心がけていた。

ところで筆者は、この白川郷を平成29年6月に訪ねてみた。ここに示した写真は、その時に撮影したものである。

展望台から眺めた白川郷は昔とあまり変わらない集落(写真1)のように見えた。ところが、駐車場から合掌造りの集落に入る庄川に架かる橋上は、写真2のように観光客で溢れんばかりの行列にビックリした。集落に入って合掌造りの建物を見て歩くと、外国からの観光客が多く、合掌造りの多くの建物は、みやげ屋、喫茶店、旅館などの大看板を出しており、閑静な農村の景観は薄れ、観光地化してしまっていた。写真3のような昔ながらの合掌造りの姿を撮影できる場所は少なく、世界遺産の保護と観光地化対策、ここの住民の生活保障など大きな課題が見え隠れしているようであった。

その4 八丈島の天蚕織物

我々が日ごろ手にする天蚕の飼育技術書には、「東京都の八丈島では古い時代、天蚕の織物を織っていた」とだけ記している。これ以上の詳しい説明をしたものが少ないので、染織をどのような方法で行っていたのか、その内容が良く分からない。

そこで江戸時代の正徳年代（1711～1716年）に大坂（明治になって大阪と改める）の医師寺島良安によってまとめられた百科事典（図入り）といわれる和漢三才図会に八丈島の天蚕が記述されているので、ここに取りあげてみた。

和漢三才図会^{みん}は明国（現：中国）の王圻^{おうき}の三才図会にならって、天・地・人の三部門に分けて漢文で解説を行った書で、105巻81冊にのぼる大著である。この巻第二十七「絹布類」の中に「八丈絹」と題して、次のように天蚕の織物について説明している。そこで天蚕に関する記述部分を次に取り出してみた。

「△ 按 伊豆^ノ 南海^ニ 有^レ 島^ノ 名^ク
八丈^ト 嶋^ト 土人^ヲ 以^テ 山繭^ヲ 織^ル 絹^ヲ
甚^ニ 稠^ク 強^ク 其色^ヲ 経^テ 年^ヲ 不^レ 変^セ
又^テ 染^レ 之^ヲ 不^レ 染^ル 最^モ 為^ス 希珍^ト
如^ハ 今^ハ 以^テ 常^ニ 綿^ヲ 織^ル 之^ヲ 其^ノ 色^ヲ 黄^ク
或^ハ 赤褐^ク 而^{シテ} 多^ク 黒糸^ヲ 縞^ス 也^ト …」

この読み方は次のようである。

「^{あん(しらべ)} 按 伊豆の南海に島有り 八丈島
と名づく 土人^{やまゆ} 山繭を以て絹を織る 甚
だ^{こまやか} 稠 ことさらにぞ その色 年を経て
変せず また これを染めて 染まらず
最も希珍となす^{じょこん} 如今は 常の綿を以て
これを織る 其の色 黄あるいは赤褐 し
かれども 多く黒糸の縞なり…」

漢文記述なので、これを現代文に読み替えると、およそ次のような内容である。

「調査結果： 伊豆の南の海に島があり、八丈島と名付けられている。この土地の人は、山繭（天蚕）を用いて絹を織っている。非常にこまやかな織物である。ことさらに、織物の色は年月を経ても変わらず、また、これを染めても染まらない。まことにまれにみる珍しい織物である。今は常日ごろ用いている木綿で織物にしている。その色は黄色あるいは赤褐色に染めているが、しかしながら多くは黒縞の織物である…」

このように八丈島では山繭の糸を用いて織物を織っていた。天蚕の織物は長い年月を経ても変色しないことや染色しても染まらない特徴のあることを記している。また、その後発達した木綿織物にまで言及し、島内に産する植物を用いて黄色、樺色（鶯色ともいう）や黒色にそれぞれ染色し、縞柄に織った八丈縞についても説明をしている。



写真1 天蚕5齢幼虫



写真2 天蚕繭



写真3 天蚕糸

染織関係の専門書で「八丈絹」について調べてみると、すでに室町時代から良質な平織絹織物として知られ、年貢として織物を納めていたとある。当初は白紬であったが、徳川三代将軍家光（1604～1651年）の時に樺染にするように命じられた。その後、刈安染^{かりやすぞめ}の黄紬となり、江戸中期には黄、樺^{とび}（鳶色）、黒の三種類が染織されるようになったと記されている。

このように天蚕や木綿織物ばかりでなく通常の絹織物も古くから染織されていた。

和漢三才図会や染色関係の専門書等の記述から、古い時代に行われていた八丈島の天蚕や絹・綿を用いた染織の概要を説明したが、少しは分かっていただけではないだろうか。

なお、写真1～3は八丈島で飼育した幼虫や繭、生糸ではない。あくまでも天蚕をイメージしていただくために、神奈川県内で飼育した幼虫や繭、生糸の写真を掲載したまでであることをお断りしておく。

上杉鷹山と米沢織

東京農工大学農学部蚕学研究室

准教授 横山 岳

成せば成る 成さねば成らぬ
何事も 成らぬは人の 成さぬ成けり

江戸時代後期の米沢前藩主の上杉鷹山^{うえすぎやうざん}が次の藩主とその近侍^{へきしよ}に示した壁書（天明5年1785）の中の有名な和歌である。読み仮名は同じだが、「為せば成る」「なせば成る」「成せばなる」等々のヴァージョンがある。上記に示した「成せば成る」は国宝に指定されている上杉家文書の上杉鷹山書状のものである（上杉鷹山の直筆）。米沢城址内上杉神社（山形県米沢市丸の内1の4）で壁書のコピーを色紙にしたものをお受けできる（図1）。同僚の歴史学の高橋美貴教授に読んでいただいたところ「なせはなる なさねはならぬ 何事も なさぬは人の なさぬ成りけり」、大変分かり易い平仮名で書かれているとのこと。多分、幼い10歳の世子に示したためだろう。原本は平仮名だが上杉鷹山や家臣たちが写しを取っている時に漢字で書いたためにいろいろなヴァージョンが出来てしまったようだ。

この和歌は素晴らしいと思うが、仕事がうまくいっていない時に上司にこれを言われると結構辛いだろう。上司に「何ででき

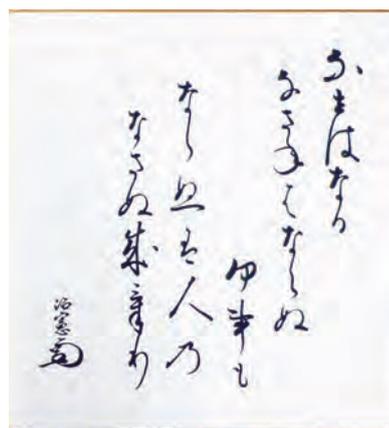


図1 壁書の色紙

ないの？ やらなきゃ。出来ないのは出来るまでやらないからだろ？」と言われたら、返す言葉はきっと見つからない。これを言われてやる気が起きるだろうか、再び取り組めるだろうか。上杉鷹山は言うだけでなく、自らこれを実践した人である。家臣が上杉鷹山についてきたというのは上杉鷹山に強いリーダーシップがあったのだろう。米沢城址に上杉鷹山の銅像と「なせば成る」の碑が立っている（図2）。道の向いにはNHKの大河ドラマ「天地人」の上杉景勝、直江兼続主従の銅像もある。

現在、上杉鷹山の詳細を知っている人は多くないだろう。戦前の修身の教科書では二宮尊徳と同じく、上杉鷹山を扱っていたので多くの人を知っていたが、戦後の教育では高校の日本史でも教えられてお



図2 上杉鷹山公像（米沢城址内）

らず、戦後は知名度が下がっている。アメリカ第35代大統領J.F. ケネディが、尊敬する日本人の政治家として上杉鷹山の名を挙げている。J.F. ケネディが来日時のこととされることがあるが、J.F. ケネディ大統領は来日していない。大統領就任した頃（1961年）の日本人記者のインタビューらしい。J.F. ケネディに「上杉鷹山」と言われて「誰？」という感じだったらしい。上杉鷹山は内村鑑三が「代表的日本人」（1908）の中で取り上げている一人である。この本は英文で書かれており（原題: Representative Men of Japan / Japan and the Japanese）、海外に向けて日本人の代表として上杉鷹山の他、西郷隆盛、二宮尊徳、中江藤樹、日蓮の生涯が紹介されている。残念ながら「成せば成る」の和歌については取り上げられていない。J.F. ケネディは多分、この本を読んで統治者としての上杉鷹山の姿勢に感銘を受けたのであろう。J.F. ケネディの長女キャロライン・ケネディ前駐日米大使が米沢を訪れた際（2014

年、9/27）、「父は『一人でも世の中を変えることができる』とよく話をしていた。しかし鷹山公ほど端的に言い表した人はいない。『Nasebanaru』。」とスピーチしている。J.F. ケネディ大統領は本当に上杉鷹山を尊敬していたのだろう。

米沢藩の殖産興業

米沢藩は陸奥国会津・出羽国庄内など120万石の大藩であったが、関ヶ原の合戦時に西軍に属したため置賜地方米沢30万石に削減され、さらにその後の藩主が急死した際に15万石に削減されている。領地が大幅に削減されているにも拘らず、120万石の時の藩士を召し抱えたままであった。会社の収入が1/8になってもリストラせずに社員がそのままという状態なので、当然、藩財政は悪化、藩士の生活は窮乏の一途を辿っていた。米沢藩の収支は2万両もの赤字で、借金まみれで商人に借りたお金を返す充ても無くなっていた。返せないでこれ以上誰からもお金を貸してもらえず、破産寸前に陥っていた（11万両の赤字だったとか）。また藩政も家老職が暗殺されるなど藩の運営が難しく、幕府に領地を返上することを考えるような状態であった。そんな中、^{うえすぎはるのり}上杉治憲は養子として第9代藩主となる（鷹山は隠居後の名前である）。藩に誇り高い伝統はあるが、頑固で保守的、金は無、重役がイガミ合う中、養子としてやってきた。私だったら、もうどうにもどうしようも無いだろう。手の打ちようが無いとだいたい「儉約令」を出す。無駄を無くすのは良いだろうが、無駄を無

くすのも限度がある。また、儉約、緊縮財政を行っていくと財政は硬直化し、皆うんざりしてきて、ますます手の打ちようのない状態になるのが普通である。上杉鷹山もまず儉約令を出した。そして儉約するだけでなく、藩内の産業を起すために数年がかりの16年計画を立て、それに必要な金額を算出した。商人達に単に借金をするのではなく、殖産の計画を示して借金を申し込み、借りることに成功。その金を元手に産業を興した。

織物、和紙、蠟燭ろうそくを生産するために、桑、楮こうぞ、漆うるしを植えることを計画し、それぞれ百万本植える事とした。百万本である。本気で産業を起す気が伝わってくる。これを計画していた竹俣当綱たけまたまさつなは樹養篇（安永4年1775）で桑百万本植えれば十年後には年間7,407両の利益が出ると計算している。このように単に緊縮財政ではなく、借金をしてでも新たな産業を興した。当然、新しい産業が計画通り進むばかりではないので、様々な困難が生じる。天明の飢饉も起こっている。その時に「成せば成る（計画通りやればできるはずだ）。」「成さねば成らぬ（私たちは藩を立て直さねばならな

い。」「成らぬは人の成さぬ成けり（出来る筈なのに出来ないのは我々の怠慢である）。」ということだろう。上杉鷹山は一生をかけて藩の財政を立て直すことに成功する。財政再建16年計画の倍の33年掛かったが、11万両もあった借金を返済して5千両の貯蓄ができるようになった。

米沢織の起源

殖産興業の一つに養蚕業と織物業がある。養蚕業を興すために桑苗作りから計画している。なんと百万本もの桑苗を作ろうとした。江戸時代の桑は現在の仕立て方と異なり、桑木に育てる必要があった。つまり苗を植えてから木にならないと本格的に収穫できない。現在の桑苗は「袋接ぎ」という接ぎ木の方法で大量生産が可能であるが、当時は桑の枝を土に伏せて、伏せたところから根を出させる方法、または桑の枝を泥団子で覆い、そこから根を出させる方法で桑苗を作成していたらしい。多分、枝を土に伏せる方法がとられたのであろうが、元となる桑樹、そしてその周りに枝を伏せる場所を確保する必要がある。それが百万本分となると気の遠くなるような苗作



図3 長井市の桑古木



図4 白鷹町の桑古木

りである。苗作りに数年、苗を植えてから数年、桑葉の収穫には十年位かかる計画であったろう。そして、収穫した繭から糸を取り、織物を作る。十年先には織物業を起すように織物が盛んな地域（越後）から技術導入をした。麻、絹の生産とそれを材料とした麻織物、絹織物の産業が米沢に根付くことになる。これが現在の米沢織の起源とされている。

漆の木については計画より時間がかかったが百万本以上苗木が作られた記録が残っている。残念ながら桑苗について実際に作成できた本数は分からないが、同じように百万本近く作ったのであろう。そのうちの2本が現存している。2本とも品種は“赤木”、上杉鷹山時代に植えられたので樹齢約240年の古木である。一本は長井市五十川にあり、市の天然記念物に指定されている。高さ約12mの桑の大木である（図3）。もう一本は白鷹町山口にあり、これは個人の所有となっている。春切りをしているため、樹高は約10mと若干低い。剪定だけでなく施肥も行われているため大きな葉をつけている（図4）。このお宅では平成初期まで養蚕をしており、この桑古木も使っていたそうである。図4の左奥の建物は以前使っていた蚕室である。

また、養蚕が盛んだったためであろう、1959年に合併で無くなってしまったが、このあたりはかつて蚕桑村であった。近くに駅名に「蚕」の字が入った蚕桑駅（フラワー長井線）がある（図5）。米沢駅から電車で小一時間の小さな無人駅である。駅名に「蚕」の字が付いているのはここと京



図5 フラワー長井線蚕桑駅

都の蚕ノ社駅^{かいこのやしろ}だけである。

残念ながら置賜地方に現在ほとんど養蚕農家が残っていないが、米沢織はいまだに盛んである。米沢城址から徒歩数分のところに米沢織物歴史資料館（米沢市門東町1-1-87）があり、米沢織を見学できる。また、すぐ近くに私営の原始布・古代織参考館（米沢市門東町1-1-16（要電話予約0238-22-8141））がある。糸商さんが集めたコレクションを見ることができ、昔の人が糸、布、服を如何に大切に、そして貴重なものとして扱っていたか実感できる。

「成せば成る」、皆さん今年も頑張りましょう。

【参考：文庫本で読むことができる上杉鷹山】
内村鑑三：「代表的日本人」岩波文庫
（翻訳：鈴木 範久、日本語で読む事ができる）
童門冬二：「小説 上杉鷹山」集英社文庫、人物文庫
藤沢周平：「漆の実のみのる国」文春文庫
（藤沢周平の遺作である）

■問い合わせ先：

東京農工大学農学部生物生産学科蚕学研究室
〒183-8509
東京都府中市幸町3-5-8
TEL：042-367-5681
E-mail：ty.kaiko@cc.tuat.ac.jp
HP：http://www.tuat.ac.jp/~kaiko

色の表現

—人の感覚と分光色差計—

一般財団法人大日本蚕糸会 蚕糸科学研究所

研究員 花之内智彦

はじめに

消費者が商品を購入するとき、視覚情報が全体の約八割を占めることが知られています¹⁾。きものの購入時においても、世代に関係なくデザインを重視するという調査結果があり²⁾、色彩が商品価値を決定する重要な要素の一つであることがわかります。製品を彩る色数はどれくらいあるのか試算結果をみると、能力の高いアーティストが使い分けることのできる色数は約100万色になるそうです³⁾。また、コンピュータ上でデザインした画像を布地にプリントするセーレン（株）のVISCOTEXの色見本は1万色に上るそうです⁴⁾。無数の色を扱う色彩設計では、微妙な色味になるとそれらの色に差があるのか判断できないときがあります。また、前回染色した布と今回染色した布で“微妙に色が違うような気がする”といった場合があります。

そこで、人間のあいまいな目視判定ではなく、分光色差計を用いて色を数値化した場合の数値の見方と色の違いの評価方法について紹介します。

色はどうして見えるのか？

光は電磁波であり、エネルギーを持っています。太陽光には、波長が短くエネルギーの大きい宇宙線（約 10^{-16}m ）から波長が長くエネルギーの小さい電波（ 10^8m ）までの様々な波長の光が含まれています。そのうち、人間の目で見ることのできる光は、波長380nmから780nm（nmは 10^{-9}m ）までの波長域の光（可視光線）です。物体に光が当たると、一部の光は物体に吸収され、残りの光が反射します。その反射光が目に入り、網膜にある視細胞を刺激し、我々は色として感じます（図1）。そのため、物体に当たって反射した光のうち、可視光線の各波長の光をどの程度含んでいる

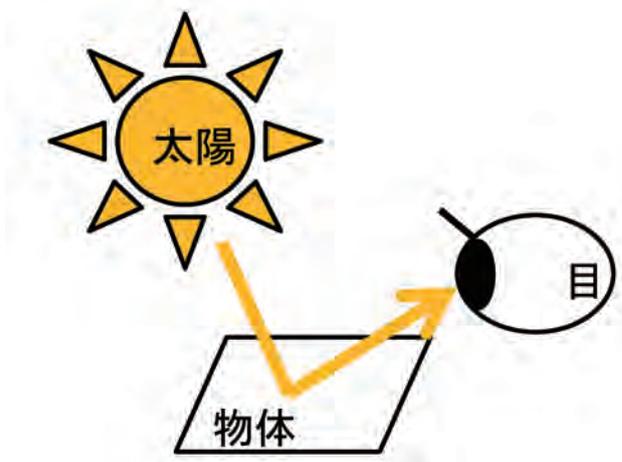


図1 色が知覚する仕組み

か（分光スペクトル）によって、色が決まります⁵⁾。一例として、染色糸の分光スペクトルを図2に示します。赤い染料で染色した糸（染色糸（赤））は600nm以降の反射率が高いことから、赤く見えます。同様に青い染料で染色した糸（染色糸（青））は400～500nmの反射率が高いので、青く見えます。染色で最も難しい黒色（染色糸（黒））は400～700nmの反射率が均一に低くなるのが特徴で、一部の波長の反射率が少しでも高くなると、青味の黒や赤味の黒というようになります。印刷物の色、洋服の色など身の回りの物体の色を物体色といい、LED光源や電灯などそれ自身が発光して見える色を光源色といいます。本稿では、物体色のみについて取扱うこととします。

色を見る

色を見る場合、以下の4点を考慮する必要があります⁶⁾。

- ①光源と方向：スーパーの肉売り場で赤味のさした美味しそうな肉を買って帰り、家の蛍光灯の下で見みるとおいしそうに見えないと感ずることがあります。光源が変わると色の見え方も変わることから、同じ光源でかつ同じ明るさの下で色を見る必要があります。また、つやのある物体については見る角度によって、色の見え方が変わります。
- ②試料の大きさ：面積の大きい色は小さい色に比べて明るく鮮やかに見えやすくなります。
- ③試料を置く背景：明るい背景の前に物を

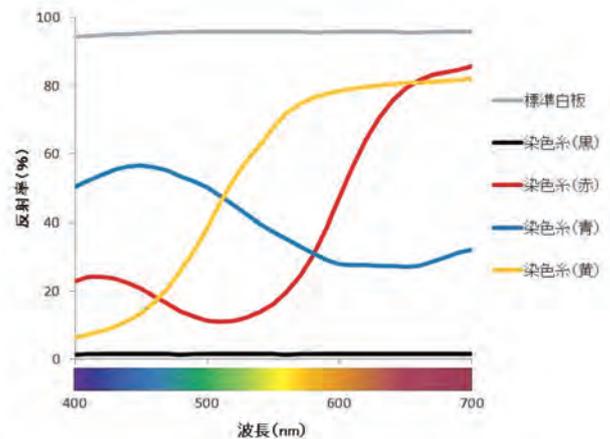


図2 染色糸の分光スペクトル

置くと、暗い背景の前に物を置くのに比べてくすんだ感じに見えやすくなります。

- ④観察者：人間の目の感度には個人差があり、また、加齢や体調によっても色の見え方が変わります。

正確に色を見るには、その条件の統一と観察者の熟練が必要になります。図3にあるような分光色差計を用いると、同じ条件で観察者の問題もなく、簡便に色を判断できます。また、色は人間の感覚であり、その情報を記憶することは難しいことから、過去に見た色と比較できません。測定機を用いると色を数値化できるので、過去に扱った色と比較できるようになります。



図3 分光色差計

色を表現する

色について、赤を例にすると、黄味がかかった赤、紫がかかった赤などその色名が表す範囲はかなり広いことがわかります。また、人によって、色の感じ方が違うことや表現方法が異なります。人に正確に色情報を伝えたり、利用するには数値化する必要があります。そこで、白、黒、赤、青、黄、緑など無数にある色をそれぞれの色に対応した座標に割り当てて数値化して色を表す方法を表色系といい、CIE 表色系、マンセル表色系など様々な表色系が考案され用いられています。その中の国際照明委員会(CIE)による CIE 表色系は分光色差計等の測定機の活用により、色を精度よく表示できることから、工業分野で主に用いられています。CIE が 1976 年に規格化した $L^*a^*b^*$ (エルスター・エスター・ビースター) 表色系は、 L^* 、 a^* 、 b^* の三種類の値で色を表します⁷⁾ (図 4)⁸⁾。この表色系では、 L^* 値が色の明るさを表し、0 ~ 100 までの値で表

します (100 が最も明るい)。 a^* 値は正の値が赤味、負の値が緑味の程度を表します。 b^* 値は正の値が黄味、負の値が青味の程度を表します。

色の違いを評価する

日常生活において、色を比較する機会は頻繁にあります。例えば、染色工場では、顧客の要求する色見本と同色に染色する必要があります。しかし、職人が染料を調合し染色するのですが、顧客の提示した色見本と同色にすることは非常に困難であり、微妙に色の違いが生じてしまいます。このような色の違いを色差と言いますが、どんなに熟練した観察者が色を比較しても目視判定では色差を感覚的にしか扱えません。また、淡色では色差を判別しやすいのですが、濃色になるに従い、色差は判別し難くなります。分光色差計を用いると色差がどの程度あるか、それが許容できるのかなど $L^*a^*b^*$ 表色系の L^* 、 a^* 、 b^* の三種類の値を使って色差 (ΔE^*ab) を計算し、定量的に評価することができます⁷⁾。得られた ΔE^*ab と人間の感覚との対応関係は、アメリカ国立標準局によって提案されています (表 1)⁵⁾。繊維製品の場合、 ΔE^*ab が 0.5 以内に入っていれば、同色とみなせます。

表 1 色差値と人間の感覚との関係

色差 (ΔE^*ab)	感覚的な表現
0-0.5	色差がほとんど認められない
0.5-1.5	色差がわずかに認められる
1.5-3.0	色差が相当に認められる
3.0-6.0	色差が著しい
6.0-12.0	色差がきわめて著しい
12.0 以上	まったく異なる色とみなされる

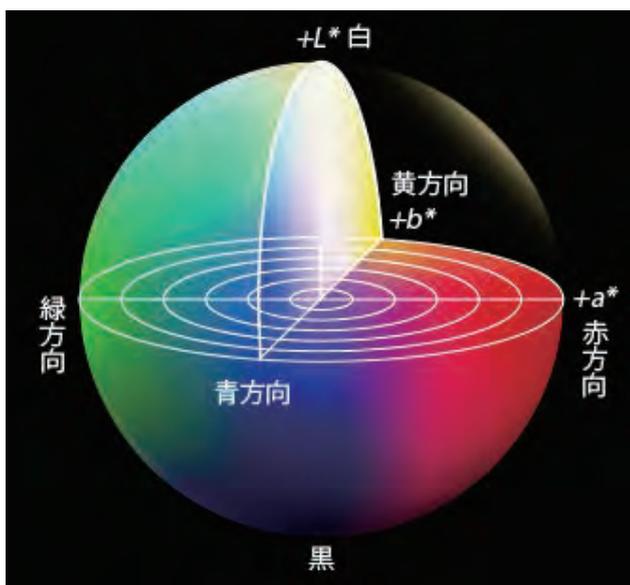


図 4 $L^*a^*b^*$ 表色系のイメージ図⁸⁾



(a) 淡色系

(b) 中色系

(c) 濃色系

図5 酸性染料 (C.I. acid Red 114) で染色した糸

測定事例

アルカリ精練した絹糸を赤系酸性染料を用い、3段階の染料濃度（①淡色、②中色、③濃色）で、90℃、30分間染色した糸の写真を図5に示します。染料濃度が高くなるに従い、赤くなるのがわかります。これを分光色差計で測色してみます。染料濃度が高くなるに従い、赤味を表す a^* 値および黄味を表す b^* 値はともに大きくなり、赤味だけではなく、黄味がかかる傾向の染料であることがわかります（表2）。

表2 酸性染料で染色した糸の測色値と色差 (ΔE^*ab)

	染料濃度 (%o.w.f)	L^*	a^*	b^*	ΔE^*ab
淡色系	0.5	55.97	57.04	17.09	-
中色系	1.0	50.59	60.39	24.37	9.7
濃色系	2.0	45.31	63.90	33.48	20.7

この色味の違いがどの程度であるのかについて、 ΔE^*ab を算出してみます。淡色系と中色系間および淡色系と濃色系間で比較したそれぞれの ΔE^*ab は、9.7 と 20.7 となりました（表2）。表1より淡色系に比べて、中色系は「きわめて著しく色に違いがある」、濃色系については、「まったく異なる色である」と判定されました。

このように、分光色差計の測定から得ら

れた L^* 、 a^* 、 b^* の三種類の値から染料濃度に対する色味の変化やそれらの色差を定量的に把握することができます。

おわり

色は感覚であり、また、人によって認識する色が異なります。さらに、人間の目の感度に個人差があるので、人の感度を基準にして繊維製品の色を合せていくのは困難です。そこで、分光色差計を用いて色を測定し数値化することにより、色の感覚を共有し、色を正確に取り扱うことができるので、繊維製品の色彩設計や色管理に利用できるものと考えます。

参考文献

- 1) 坪内一秋 (2002)：新版カラーリング技術、実教出版、pp.1-50.
- 2) 和装振興研究会 (2015)：和装振興研究会報告書、pp.18.
- 3) 寺主一成 (1991)：おもしろい色のはなし、日刊工業新聞社、pp.14-23.
- 4) 松田 豊 (1995)：色彩のデザイン、朝倉書店、pp.56-57.
- 5) 浅見博三 (1977)：色、“染色の科学（近藤一夫編）”、建帛社、pp.2-23.
- 6) 内田洋子 (2008)：表面色の観察方法“カラーテクノロジー（日本色彩学会編）”、朝倉書店、pp.104-118.
- 7) 坪内一秋 (2002)：新版カラーリング技術、実教出版、pp.7-39.
- 8) KONICA MINOLTA 色色雑学
<https://www.konicaminolta.jp/instruments/knowledge/color/part1/07.html>

日本シルク学会の紹介

日本シルク学会

会長 高林千幸

はじめに

「学会」は、自らの研究成果を公表し、その科学的・論理的妥当性をオープンに討議する場で、科学技術の発展や研究者相互の研鑽と交流を図る場と位置づけられています。

日本シルク学会は、野蚕・絹糸昆虫・桑・養蚕・製糸・織物、シルクタンパク質利用に至るまでのシルクに関する総ての分野を網羅し、特に実用研究・応用研究に重点を置いています。「より身近に、より現場に近い学会」を目指しています。

1. 日本シルク学会のあゆみ

本学会は、昭和 26 年（1951）にその前身の「製糸絹研究会」として発足し、製糸技術から絹製品に至るまでの分野を対象に「製糸絹研究発表会」を開催し、研究集録を発刊してきました。当時は戦後の復興期に当たり、蚕糸業を戦前のように再度復活させたいという気運の中で、横浜で行われた研究発表会では多くの発表が行われ、口角泡を飛ばし活発な議論がなされたと聞いています。

蚕糸業を再び蘇らせたいという、先人のこうした熱い想いと努力により、蚕糸業の

再生が図られました。しかし、生活様態の変化や海外からの繭や生糸の輸入により、昭和 50 年（1975）頃を境に生糸の生産量は年々減少し、シルク産業の構造や規模が大きく変化しました。こうした中で、本学会は「製糸技術研究会」の役割を認識しつつ、学会としての方向性を模索し、平成 13 年（2001）に「日本シルク学会」と名称と組織を変更し、再出発しました。

2. 本学会の目的

本学会は、日本学術会議協力学術研究団体に登録されている学術団体です。

製糸からシルク製品及び絹タンパク質利用に至るシルクに関する科学技術の向上と研究成果の普及を図り、シルクに関する科学・産業の発展に寄与することを目的としています。

3. 学会員の構成

学会員は、野蚕・絹糸昆虫・桑・養蚕・製糸・絹業などのシルク産業を背景とした関係者からなり、国や県の研究者・大学の研究者・シルク製造現場の技術者・消費者グループ・シルク販売担当者・アパレル関係・染織グループに至る幅広い層で構成さ

れています。

最近では、絹タンパク質利用による新規用途開発や遺伝子組換え繭の利用開発などシルクの非繊維利用分野の研究者・技術者が増えています。

平成 28 年度の正会員は 233 名・名誉会員 4 名・賛助会員 9 名で構成されています。本学会は、なるべく経費をかけずに効率的に運営するよう努めています。年会費は 2,000 円ですので、気楽に加入し交流を図って頂ければと思います。

4. 学会の活動

本学会は、年に一度、大会（総会および研究発表会）を（一財）大日本蚕糸会蚕糸科学研究所、大学や地方都市で開催しています。総会では、シルク産業の発展に寄与した研究や優れた技術開発に対し、日本シルク学会賞及び日本シルク学会研究奨励賞を贈呈しています、また、年に 1 回学会誌を刊行するとともに、大会において適時シンポジウム等を開催しています。



写真 1 第 60 回大会での「シルクシンポジウム 2013 –絹の未来への新たな風–」
(平成 25 年 5 月 30 日)

学会誌は、学術論文・技術論文・短報が主体ですが、総説・解説・資料・随筆などの発表分野も設け、電子ジャーナルとして J-STAGE で世界に向けて発信しています。これらは、日本シルク学会のホームページからご覧いただけます。

平成 29 年の活動として、3 月 1 日に日本シルク学会誌第 25 巻を刊行しました。その内容は学術論文 6 報の他、技術論文・短報・解説・資料・随筆それぞれ 1 報が掲載されました。学術論文では、フィブロイン・セリシンの構造的改変・遺伝子レベルでの改変・シルクの電子スピニング法などシルクタンパクに関するもの等が投稿されました。解説・資料等では地域でのカイコ学習活動や海外の蚕糸事情等の報告がありました。

今年の第 64 回研究発表会・総会は、平成 29 年 5 月 18～19 日につくばイノベーションプラザで開催されました。研究発



写真 2 日本シルク学会誌
表紙のロゴマークは公募の中から選考委員会で
決め、第 60 回大会で披露された

表は 21 課題で、野蚕・絹タンパク・遺伝子組換え・医療用素材・組紐・蚕室の環境制御等多岐にわたり活発な質疑・討議が行われました。また、今年は招待講演として元（独）農業生物資源研究所の小山朗夫氏から『国内の蚕糸業を支えた二大クワ品種「一ノ瀬」&「改良鼠返」』についての講演が行なわれました。これら二品種がわが国のクワの多くを占めていたこと、また「しんいちのせ」など新品種の育成も進み「一ノ瀬」系が最も普及していることの要因などが述べられました。

総会の席上、平成 28 年度の日本シルク学会研究奨励賞の授賞式が行われ、農研機構の高須陽子氏の「Ser1 遺伝子の短縮による繭層セリシンたんぱく質の改変」が授与されました。なお、平成 29 年度の学会賞授賞候補の該当者はありませんでした。

おわりに ー私の想いー

私は昭和 48 年（1973）に、当時、横浜で開かれていた製糸絹研究発表会で発表して以来、45 年にわたり製糸絹研究発表会および日本シルク学会でお世話になり、多くの会員の皆様からご指導を頂いてきました。私を育てて頂いた本学会に人一倍、愛着と誇りを持っている一人です。

学会をより身近なものとして気楽に参加でき、「シルクの未来と夢を語り合える学会」にしたい。これが私の本学会に対する想いです。

■問い合わせ先：

日本シルク学会 事務局

〒169-0073

東京都新宿区百人町 3-25-1

（一財）大日本蚕糸会 蚕糸科学研究所内

TEL : 03-3368-4891 FAX : 03-3362-6210

E-mail : silkgakkai@issst.org

<http://jssst.sakura.ne.jp/>

●純国産宝絹試作品展

純国産絹製品のPR・販売促進強化のため提携グループを対象にした純国産絹製品試作事業が展開されており、29年度は審査会を経て11社が選定されました。この11社が製作した打掛、訪問着、帯、祝法被、バッグ、コート等試作絹製品を集め、皆様の評価を頂く展示会です。

〈会期〉平成30年2月5日（月）～9日（金）
10：00～18：00（最終日は、16：00まで）

*純国産絹組紐ブレスレット製作体験

2月6日（火） 10：30～17：00

〈主催〉蚕糸・絹業提携グループ全国連絡協議会 Tel：03-5642-6527

〈会場〉ジャパンシルクセンター 〒100-0006 東京都千代田区有楽町1-9-4
蚕糸会館1階 Tel：03-3215-1212

●「美しいキモノ・アカデミー」冬の出張講座

—純国産宝絹の魅力と未来に繋ぐための次世代の新たな挑戦—

純国産宝絹試作品展の一環として開催される本講座は、(株)ハースト婦人画報社の協力を得て「美しいキモノアカデミー」の出張講座として開催されます。今回は、これからの和装伝統工芸品の担い手である若手二人（「銀座もとじ」2代目泉二啓太氏と「龍工房」3代目福田隆太氏）の対談を木下着物研究所木下勝博氏にコーディネートして頂きます。

〈会期〉平成30年2月9日（金）
13：00～14：30

〈主催〉蚕糸・絹業提携グループ全国連絡協議会 Tel：03-5642-6527

〈会場〉有楽町 蚕糸会館6階 会議室
〒100-0006 東京都千代田区有楽町1-9-4

●日本絹の里第80回特別展

繭クラフトと絹の作品展

本展では、繭の丸みや表面の凹凸など、繭の特性を活かして作るまゆクラフト作品を一般公募し、繭の優れた魅力を皆様にご紹介いたします。

また、伝統技法等により染織などの作品を創作している工芸作家と日本絹の里友の会会員の作品として、絹を用いた染色、織物、人形、刺繍などを展示し、より多くの方々に天然素材である絹の素晴らしさを知っていただく機会とします。

〈会期〉平成29年12月16日（土）～平成30年2月12日（月）
9：30～17：00 休館日 毎週火曜日、12/27（水）～1/5（金）※1/3 臨時開館

〈主催〉群馬県立日本絹の里

〈会場〉群馬県立日本絹の里 〒370-3511 群馬県高崎市金古町888-1
Tel：027-360-6300

●鍋、語る ～繰糸鍋の種類と変遷～

製糸用具の「繰糸鍋」には、素材・形・大きさに様々な特徴があります。製糸業を支えた繰糸鍋の改良の歴史をご覧ください。

〈会期〉平成30年1月25日（木）～5月中旬

9:00～17:00 休館日 水曜日（祝日の場合は開館） 祝日の翌日

12月29日～1月3日

〈主催〉岡谷蚕糸博物館 シルクファクトおかや

〈会場〉岡谷蚕糸博物館 〒394-0021 長野県岡谷市郷田1-4-8

Tel : 0266-23-3489

平成 29 年度第 3 次分の純国産絹マーク使用許諾状況

純国産絹マークの平成 29 年度第 3 次審査委員会を平成 29 年 11 月 17 日（金）に開催しました。今回は、19 者から申請があり、新規 2 者 3 品目、使用許諾されている者の 3 者が製品の追加 3 品目、履歴の追加 4 者 8 品目、数量の追加 13 者 33 品目の申請がありました。これらの申請を審査委員会で審査した結果、19 者 47 品目に対し、11 月 24 日（金）付けで純国産絹マークを使用許諾する旨通知しました。

純国産絹マーク使用許諾企業名 (表示責任者名)	表示対象 製品名	表示対象 数量	生産履歴の内容 (繭生産地・企業等)
(新規) 柳晋哉 代表者名：柳晋哉 (担当者：柳晋哉) 〒 154-0023 東京都世田谷区若林 5-29-19 TEL：03-3975-2917 表示者登録番号 223	先染反物 (作家作品)	15 反	企 画 絹の会 蚕 品 種 ぐんま 200 繭 生 産 前橋市大胡町養蚕農家 製 糸 碓氷製糸 (株) 撚 糸 自工房 染 織 自工房
	先染反物 (作家作品)	35 本	
(生産数量の追加) 柳崇 代表者名：柳崇 (担当者：柳崇) 〒 154-0023 東京都世田谷区若林 5-29-19 TEL：03-3975-2917 表示者登録番号 042	先染反物 (作家作品)	15 反	企 画 絹の会 蚕 品 種 ぐんま 200 繭 生 産 前橋市大胡町養蚕農家 製 糸 碓氷製糸 (株) 撚 糸 自工房 染 織 自工房
	先染反物 (作家作品)	35 本	
(生産数量の追加) 児玉京子 代表者名：児玉京子 (担当者：児玉京子) 〒 907-1541 沖縄県八重山郡竹富町上原 339-15 TEL：0980-85-6670 表示者登録番号 043	先染反物 (作家作品)	5 反	企 画 絹の会 蚕 品 種 ぐんま 200 繭 生 産 前橋市大胡町養蚕農家 製 糸 碓氷製糸 (株) 撚 糸 (株) 高三商店 染 織 自工房
(生産数量の追加) 手織り よおん 長嶺享子 代表者名：長嶺享子 (担当者：長嶺享子) 〒 904-0034 沖縄県沖縄市山内 3-12-18 TEL：098-933-1010 表示者登録番号 045	先染反物 (作家作品)	2 反	企 画 絹の会 蚕 品 種 ぐんま 200 繭 生 産 前橋市大胡町養蚕農家 製 糸 碓氷製糸 (株) 撚 糸 (株) 高三商店 染 織 自工房
	先染帯地 (作家作品)	15 本	
	先染ストール (作家作品)	40 枚	
(生産数量の追加) 祝嶺染織研究所 祝嶺恭子 代表者名：祝嶺恭子 (担当者：祝嶺恭子) 〒 902-0078 沖縄県那覇市識名 1-17-15 TEL：098-933-1010 表示者登録番号 046	先染反物 (作家作品)	8 反	企 画 絹の会 蚕 品 種 ぐんま 200 繭 生 産 前橋市大胡町養蚕農家 製 糸 碓氷製糸 (株) 撚 糸 (株) 高三商店 染 織 自工房
	先染帯地 (作家作品)	30 本	

(生産数量の追加) からん工房 深石美穂 代表者名：深石美穂 (担当者：深石美穂) 〒 907-0453 沖縄県石垣市字川平 1175 TEL：0980-88-2459 表示者登録番号 048	先染反物 (作家作品)	15 反	企 画 絹の会 蚕品種 ぐんま 200 繭生産 前橋市大胡町養蚕農家 製 糸 碓氷製糸 (株) 燃 糸 (株) 高三商店 染 織 自工房
	先染帯地 (作家作品)	37 本	
(生産数量の追加) アトリエ I T O 伊藤峯子 代表者名：伊藤峯子 (担当者：伊藤峯子) 〒 903-0815 沖縄県那覇市首里金城町 4-6 TEL：098-884-6321 表示者登録番号 193	先染反物 (作家作品)	7 反	企 画 絹の会 蚕品種 ぐんま 200 繭生産 前橋市大胡町養蚕農家 製 糸 碓氷製糸 (株) 燃 糸 (株) 高三商店 染 織 自工房
	先染帯地 (作家作品)	30 本	
(製品・生産数量の追加) 村江菊絵 代表者名：村江菊絵 (担当者：村江菊絵) 〒 152-0031 東京都目黒区中根 1-6-20 TEL：03-3717-7678 表示者登録番号 214	(製品の追加) 先染反物 (作家作品)	5 反	企 画 絹の会 蚕品種 ぐんま 200 繭生産 前橋市大胡町養蚕農家 製 糸 碓氷製糸 (株) 燃 糸 (株) 高三商店 染 織 自工房
	(生産数量の追加) 先染帯地 (作家作品)	20 本	
(新規) (株) 一声 代表者名：山本文之 (担当者：山本昭夫) 〒 600-8422 京都市下京区室町通綾小路下ル白楽天町 514 番地 403 号 TEL：075-741-6965 表示者登録番号 224	白生地 (表地)	30 反	蚕品種 春嶺×鐘月 繭生産 JA 前橋市管内養蚕農家 製 糸 碓氷製糸 (株) 製 織 戸田織物 精 練 丹後織物工業組合
(製品の追加) (株) すずのき 代表者名：高田陽一 (担当者：大田顕資) 〒 141-0031 東京都品川区西五反田 7-22-17 TOC ビル 3 階 TEL：03-5435-1010 表示者登録番号 201	白生地 (表地)	90 反	蚕品種 春嶺×鐘月、ぐんま 200 繭生産 JA 前橋市・JA 碓氷安中 管内養蚕農家 製 糸 碓氷製糸 (株) 製 織 (株) アシヨネ 精 練 丹後織物工業組合
(製品・生産履歴の追加) (株) ソーホー 代表者名：奥村尚司 (担当者：小島秀夫) 〒 600-8357 京都市下京区猪熊通五条下ル柿本町 606 番地 -1 TEL：075-353-8802 表示者登録番号 200	(生産履歴の追加) 先染反物 (表地)	48 反	蚕品種 ぐんま 200 繭生産 富岡シルクブランド協議会養蚕農家 製 糸 碓氷製糸 (株) 製 織 (株) アシヨネ
	(製品の追加) 先染帯地 (袋帯)	20 本	蚕品種 ぐんま 200 繭生産 富岡シルクブランド協議会養蚕農家 製 糸 碓氷製糸 (株) 製 織 小牧織物
	(生産履歴の追加) 白生地 (表地)	20 反	蚕品種 春嶺×鐘月 繭生産 J A 前橋市管内養蚕農家 製 糸 碓氷製糸 (株) 製 織 戸田織物 精 練 丹後織物工業組合
	(生産履歴の追加) 白生地 (表地)	20 反	蚕品種 春嶺×鐘月 繭生産 J A 前橋市管内養蚕農家 製 糸 碓氷製糸 (株) 製 織 (株) アシヨネ
	(生産履歴の追加) 白生地 (表地)	20 反	精 練 丹後織物工業組合

(生産履歴の追加) 万兵 (株) 代表者名：磯村辰生 (担当者：山村邦彰) 〒460-8616 名古屋市中区錦二丁目12番14号 TEL：052-231-7201 表示者登録番号 220	白生地 (表地)	60 反	蚕品種 春嶺×鐘月 繭生産 J A 前橋市管内養蚕農家 製糸 碓氷製糸 (株) 製織 谷勝織物工場 精練 丹後織物工業組合
(生産数量の追加) (株) JS 代表者名：柏木秀基 (担当者：柏木秀基) 〒403-0004 山梨県富士吉田市大明見 6-2-3 TEL：0120-2236-39 表示者登録番号 159	絹スカーフ	25,500 枚	制作企画 (株) 山桜 繭生産 山梨県内養蚕農家 製糸 松澤製糸所 製織 (有) カシワギ 縫製 高野縫製所
	絹ストール	300 枚	
	絹シャツ	150 枚	
	絹スカート地	20 枚	
	絹コート地	20 枚	
	絹ワンピース地	60 枚	
	絹ネックカバー地	1,000 枚	
	絹アームカバー地	500 枚	
	絹レッグカバー地	200 枚	
	絹布団	25 枚	
	絹布団カバー	80 枚	
(生産数量の追加) (有) 山田呉服店 代表者名：山田恒 (担当者：山田恒) 〒392-0004 長野県諏訪市諏訪 1 丁目 3-4 TEL：0266-58-0694 表示者登録番号 174	絹スカーフ	200 枚	制作企画 (株) 山桜 蚕品種 白麗 繭生産 芦沢定弘 製糸 松澤製糸所 製織 (有) カシワギ 縫製 高野縫製所
	絹布団	10 枚	
(生産数量の追加) (有) 山田呉服店 代表者名：山田恒 (担当者：山田恒) 〒392-0004 長野県諏訪市諏訪 1 丁目 3-4 TEL：0266-58-0694 表示者登録番号 174	白生地 (変りー越ちりめん)	15 反	繭生産 J A 信州諏訪管内牛山金一 製糸 松澤製糸所 製織 南久ちりめん (株)
(生産履歴・数量の追加) (株) 伊と幸 代表者名：北川幸 (担当者：北川幸) 〒604-8176 京都市中京区御池通室町東入竜池町 448-2 TEL：075-211-2361 表示者登録番号 035	(生産履歴の追加) 後染反物 (色無地)	90 反	蚕品種 松岡姫 繭生産 J A 前橋市管内養蚕農家 製糸 碓氷製糸 (株) 製織 白数織物 (有) 染色 (有) 高山染巧
	(生産履歴の追加) 白生地 (襦袢地)	50 反	蚕品種 松岡姫 繭生産 J A ふくしま未来管内養蚕農家 製糸 松岡 (株) 製織 河見保織物
	(生産履歴の追加) 白生地 (帯地)	220 本	蚕品種 松岡姫 繭生産 J A ふくしま未来管内養蚕農家 製糸 松岡 (株) 製織 奥田重之織物
	(生産履歴の追加) 白生地 (色無地紋意匠)	14 反	繭生産 J A ふくしま未来・ J A ひがしう管内養蚕農家 製糸 松岡 (株)・ 西予市野村シルク博物館 生糸 松岡姫・伊予生糸 製織 篠春織物 (株)

(生産履歴の追加) 田中種 (株) 代表者名：田中隆 (担当者：田中隆) 〒 541-0054 大阪市中央区南本町 2 丁目 1 番 14 号 タイヨウマ-ビル 3 階 TEL：06-6261-2091 表示者登録番号 060	真綿ふとん	10 枚	(詰物) 繭生産 J A ふくしま未来管内養蚕農家 真綿生産 (有) 関根商店 (側) 繭生産 J A 碓氷安中管内養蚕農家 製 糸 碓氷製糸 (株) 製 織 齋栄織物 (株)
	ふとんカバー	10 枚	繭生産 J A 碓氷安中管内養蚕農家 製 糸 碓氷製糸 (株) 製 織 齋栄織物 (株)
(生産数量の追加) 日本蚕糸絹業開発協同組合 代表者名：小林幸夫 (担当者：土井芳文) 〒 370-0006 群馬県高崎市問屋町三丁目 5 番地の 3 TEL：027-361-2377 表示者登録番号 021	裏地 (胴裏絹)	246 枚	制作企画 絹小沢 (株) 蚕品種 世紀二一・ぐんま 200 繭生産 J A 碓氷安中・ J A 前橋市管内養蚕農家 製 糸 碓氷製糸 (株) 製 織 (有) 長島織物 加工 キヌテック (株)
(生産数量の追加) (株) やまと 代表者名：田村裕二 (担当者：高原達也) 〒 151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷 5-27-3 TEL：03-3354-0345 表示者登録番号 059	白生地 (加賀友禅用)	120 反	蚕品種 ぐんま 200 繭生産 J A 前橋市管内養蚕農家 製 糸 碓氷製糸 (株) 製 織 江原産業 (株)
(生産数量の追加) 大門屋 代表者名：高橋弘直 (担当者：高橋弘直) 〒 912-0081 福井県大野市元町 9-22 TEL：0779-66-2185 表示者登録番号 128	白生地 (帯地) (牛首紬)	8 本	蚕品種 玉小石 繭生産 杉本英夫 製 糸 加藤機業場 製 織 加藤機業場

一般財団法人大日本蚕糸会から

純国産絹マーク使用許諾者及び絹製品名一覧 平成29年11月24日（H29-第3次）現在

表示者 登録番号	企業名	所在地	主な絹製品名
001	(株) 千總	京都市中京区	後染反物（振袖、訪問着、付下、色無地、色留袖、黒留袖、喪服）、胴裏
002	(株) 織匠田歌	京都市上京区	先染反物、後染帯地
004	(株) 丸上	東京都中央区	後染反物（色無地、小紋、付下、黒紋付）、後染帯地
005	(株) 坂本屋	茨城県土浦市	後染反物（色無地）、胴裏（灰汁浸け加工）
006	(有) 平原	福島県白河市	後染反物（色無地、黒紋付）
007	(株) 信盛堂	東京都清瀬市	後染反物（色無地、黒紋付）
008	(株) きものアイ	新潟県十日町市	後染反物（色無地）
009	(株) 上庵	岩手県北上市	後染反物（色無地、黒紋付）
010	(有) 樹（いづき）	秋田県横手市	後染反物（色無地、黒紋付）
011	(株) 銀座もとじ	東京都中央区	後染反物（作家作品）、後染帯地、先染反物（大島紬、結城紬、御召、作家作品）、先染帯地（織九寸帯、織角帯、作家作品）、白生地、和装小物（帯締、羽織紐）、八掛、胴裏
012	河瀬満織物（株）	京都市上京区	先染帯地
013	(有) 織匠小平	京都市北区	先染帯地
015	(株) 結華	静岡県清水町	後染反物（色無地、黒紋付）
016	(株) 絹回廊	東京都中央区	後染反物（色無地）
017	(有) 琴路屋	岩手県釜石市	後染反物（色無地、黒紋付）
018	(有) 大善屋呉服店	福島県会津若松市	後染反物（色無地、黒紋付）、後染帯地、白生地（表地）
019	丸善本店	福島県いわき市	後染反物（色無地、黒紋付）、白生地（表地）
020	呉服のささき	山形県天童市	後染反物（色無地、黒紋付）
021	日本蚕糸絹業開発協同組合 （絹小沢（株））	群馬県高崎市	裏地（胴裏（ぐんま羽二重、ぐんまレピア、ぐんま200、灰汁浸加工、トルマリン加工）、八掛、比翼地）、長襦袢地、後染反物（作家作品、紋付地）、白生地（世紀二一、上州絹星・ぐんま200、新小石丸）、後染帯地（（冬物・夏物）：うるし糸が5%を超えるもの）、寝衣（うぶ着、おくるみ）、和装小物（袱紗）
022	宮階織物（株）	京都市上京区	先染反物、後染反物
023	21世紀の絹を考える会	京都府城陽市	後染反物（色無地、訪問着）、先染帯地（袋帯（草木染、唐織））
024	碓氷製糸農業協同組合	群馬県安中市	白生地、マフラー
025	丸幸織物（有）	京都府京丹後市	白生地
026	織匠万勝	京都市中京区	先染帯地（袋帯、名古屋帯）、先染反物（御召類）、後染反物（色無地）、先染帯地（袋帯：金銀糸が5%を超えるもの）
027	(有) 織道楽塩野屋	京都府亀岡市	洋装品（マフラー、シャツ、ニット（ウォーマー、腹巻、手袋、靴下））

表示者 登録番号	企 業 名	所 在 地	主 な 絹 製 品 名
028	(株) 丸万中尾	滋賀県長浜市	後染反物(江戸小紋、小紋、付下、友禅、色無地)、後染帯地、白生地(表地)
029	(株) むらかね	青森県八戸市	後染反物(色無地、黒紋付)
030	(株) 高島屋	大阪市中央区	後染反物(振袖、七五三着物、色無地、訪問着、黒留袖)、白生地(長襦袢地、胴裏)、ニット(靴下)、風呂敷
031	(株) さが美	神奈川県平塚市	後染反物(黒紋付(冬用・夏用)、色無地)
032	(有) まるけい	静岡県富士市	後染反物(色無地、黒紋付)
033	(有) 特選呉服専門店後藤	青森県むつ市	後染反物(色無地、黒紋付)
034	(株) 小いけ	山形県鶴岡市	後染反物(色無地、黒紋付、小紋)
035	(株) 伊と幸	京都市中京区	後染反物(色無地、訪問着)、白生地(表地、胴裏、帯地)、白生地(表地(天蚕糸交織))、白生地(帯地(天蚕糸交織))、婦人用ブラックフォーマル地、長襦袢
036	(株) 四季のきものおおにし	東京都杉並区	後染反物(色無地、黒紋付)、後染帯地、白生地(表地)
037	(株) 和幸	埼玉県久喜市	後染反物(色無地、黒紋付)
038	(株) 栴屋高尾	京都市北区	先染帯地(袋帯)
039	(株) つるや	埼玉県川越市	後染反物(色無地、黒紋付)、白生地(表地)
040	(株) 越後屋	千葉県市川市	後染反物(色無地、黒紋付)
041	(株) 小倉商店	茨城県結城市	先染反物(結城紬)、先染帯地(結城紬)、白生地(結城紬)
042	染織家柳崇	東京都世田谷区	先染反物、先染帯地
043	染織家児玉京子	沖縄県竹富町	先染反物
044	草木染工房山村 山村多榮子	東京都八王子市	先染反物、先染帯地、先染帯地(金銀糸が5%を超える)、先染服地、ストール
045	手織りよおん 長嶺亨子	沖縄県沖縄市	先染反物、先染帯地、ストール
046	祝嶺染織研究所	沖縄県沖縄市	先染反物、先染帯地
047	(株) 龍工房	東京都中央区	帯締
048	からん工房 深石美穂	沖縄県石垣市	先染反物(紋紬、緋)、先染帯地
049	たわた工房	沖縄県那覇市	先染反物、先染帯地
050	山音(株)	京都市中京区	後染反物(色無地(変三越、駒紬))
051	やまと(株)	京都市下京区	後染反物
053	桜井(株)	京都市北区	先染帯地
054	有栖川織物(有)	京都市上京区	先染帯地
055	太田和(株)	京都市中京区	先染反物(結城紬)、先染帯地(結城紬)
056	(株) 岩田	京都市中京区	先染帯地
057	(有) 神原呉服店	千葉県銚子市	後染反物(色無地、黒紋付)
058	浅山織物(株)	京都市北区	先染帯地
059	(株) やまと	東京都渋谷区	先染帯地、先染帯地(金銀糸が5%を超えるもの)、白生地(加賀友禅用)

表示者 登録番号	企 業 名	所 在 地	主 な 絹 製 品 名
060	田中種 (株)	大阪市中央区	後染反物 (小紋 (変一越、紋意匠)、黒紋付、加賀友禅、色無地、すかし織着尺)、後染帯地 (九寸名古屋帯)、ニット (靴下、ネック&ボディ、ショルダー、アーム、タンクトップ、腹巻、手袋、ピロケース、肌襦袢)、真綿布団、ハーフケット、布団カバー
061	(株) 京扇	東京都中央区	後染反物 (色無地)、胴裏 (パールトーン加工)
062	(株) なごみや	横浜市都筑区	後染反物 (色無地、黒紋付)
063	丸池藤井 (株)	京都市中京区	後染反物 (色無地)、八掛
064	久保商事 (株)	京都市中京区	和装小物 (帯揚、半衿)
065	加賀グンゼ (株)	石川県小松市	胴裏
066	千切屋 (株)	京都市中京区	後染反物 (訪問着、付下)、後染帯地
067	荒川 (株)	京都市下京区	和装小物 (帯締、帯揚)
068	第一衣料 (株)	東京都中央区	後染反物 (色無地)
069	(株) 紅輪	川崎市宮前区	後染反物 (色無地)
070	装いの道 (株)	東京都千代田区	白生地 (帯地、表地)、胴裏 (トルマリン加工、灰汁浸加工、ぐんま 200、新小石丸)
071	(株) 高橋屋	岩手県一関市	胴裏 (灰汁浸加工)
072	おお又 (株)	大阪市旭区	胴裏 (灰汁浸加工)、ニット (靴下)
073	(株) 天野屋呉服店	栃木県小山市	胴裏 (ぐんま 200 (灰汁浸加工))、白生地 (表地)
074	(株) きもの潮見	愛媛県西条市	胴裏 (パールトーン加工)
075	(株) とみひろ	山形県山形市	胴裏 (酵素精練)
076	(株) 細安	福井県福井市	胴裏 (酵素精練)
077	京和きもの (株)	神奈川県厚木市	胴裏 (酵素精練)
078	(株) まるため	長野県長野市	胴裏 (トルマリン加工、パーリー加工)
079	(株) 小川屋	群馬県前橋市	胴裏 (トルマリン加工、灰汁浸加工)
080	(株) エムラ	山口県防府市	胴裏 (酵素精練)
081	(株) 荒井呉服店	東京都八王子市	胴裏 (酵素精練)
082	(株) 牛島屋	富山県富山市	胴裏 (酵素精練)、後染反物 (小紋)
083	(株) 谷呉服店	福岡県筑紫野市	胴裏 (酵素精練)
084	(株) 登美屋	岩手県北上市	胴裏 (パールトーン加工)
085	(株) 川平屋	愛知県豊田市	胴裏 (パールトーン加工)、後染反物 (小紋 (変一越、紋意匠))
086	丸専第一衣料 (株) (丸専きもの)	新潟県長岡市	胴裏 (パールトーン加工)
087	(株) 大丸松坂屋百貨店	東京都江東区	裏地 (胴裏、比翼地 (振袖用))、長襦袢地
088	西陣織工業組合	京都市上京区	マフラー、セーター、カーディガン、ショール、ネクタイ
089	(株) あきやま	宮崎県綾町	先染反物、洋装品 (ショール、マフラー)
090	藤井絞 (株)	京都市中京区	後染反物 (色無地)
092	(有) 結城屋	兵庫県洲本市	白生地 (表地)

表示者 登録番号	企 業 名	所 在 地	主 な 絹 製 品 名
093	(株) ウメショウ	岐阜県瑞穂市	白生地 (表地)
095	(有) カシワギ	山梨県富士吉田市	寝具寝装品 (冬用・夏用・合用薄絹ふとん、ブランケット)、洋装品 (スーツ地、ネクタイ、服飾品 (スカーフ、ストール、シャツ))
097	(株) 平田組紐	東京都豊島区	帯締、帯締 (金銀糸が5%を超えるもの)、羽織紐 (男物、女物)
098	(株) 菱健	京都市中京区	後染反物 (色無地)
099	西野 (株)	京都市上京区	帯締、帯締 (金銀糸が5%を超えるもの)
100	京商 (株)	鳥取県米子市	後染反物 (色無地、黒紋付)
101	(株) 猪井	新潟県長岡市	後染反物 (色無地)、後染帯地
102	(株) たちばな	新潟県新発田市	後染反物 (色無地)、後染帯地
103	(株) 丸富美	新潟県十日町市	後染反物 (色無地)
104	(株) 絹もの屋まつなが	新潟県三条市	後染反物 (色無地)
105	(株) 山正山崎	愛知県豊橋市	後染反物 (色無地、小紋 (変一越、紋意匠))
106	(有) こくぶん呉服店	福島県福島市	後染反物 (色無地)
107	(株) 染織近藤	岡山市北区	後染反物 (色無地、小紋 (変一越、紋意匠))
108	(株) 宮川呉服店	北海道湧別町	後染反物 (色無地、付下)
109	(株) 和らいふ	札幌市中央区	後染反物 (色無地)
110	(有) きものいなもと	大阪市天王寺区	後染反物 (色無地)
111	(株) 世きね	東京都中央区	後染反物
112	(株) 西陣まいづる	京都市上京区	先染帯地 (袋帯 (金銀糸が5%を超えるもの)、九寸帯 (金銀糸が5%を超えるもの)、紹九寸帯 (金銀糸が5%を超えるもの))
113	奥順 (株)	茨城県結城市	先染反物 (結城紬)、先染帯地 (結城紬)
114	りょうぜん天蚕の会	福島県伊達市	ショール (天蚕紬糸、天蚕ハイブリッド)
115	(有) 金屋	新潟県上越市	後染反物 (色無地)
116	(株) 鶴屋百貨店	熊本市中央区	胴裏 (酵素精練)、先染反物 (結城紬)
117	黄八丈めゆ工房	東京都八丈島	先染反物 (黄八丈)
118	京屋呉服店	長野県塩尻市	後染反物 (色無地)
119	(資) 車屋呉服店	横浜市南区	後染反物 (色無地、江戸小紋)、白生地 (表地)
120	宮崎 (株)	茨城県結城市	先染反物 (結城紬)
121	(有) 内海呉服店 きもの千歳屋	東京都世田谷区	白生地 (表地 (色無地、訪問着))
122	長島繊維 (株)	栃木県足利市	後染反物 (色無地、小紋、付下、訪問着)、後染帯地
123	(株) しょう美	広島市西区	後染反物 (色無地)
124	(資) 治田呉服店	群馬県富岡市	後染反物 (色無地)
125	(株) 丸十	大阪府東大阪市	後染反物 (小紋)、ニット (靴下)
126	(株) 竹田嘉兵衛商店	名古屋市緑区	胴裏 (酵素精練)
127	(有) 樋口屋京染店	埼玉県鴻巣市	白生地 (表地用 (紋意匠))

表示者 登録番号	企 業 名	所 在 地	主 な 絹 製 品 名
128	大門屋	福井県大野市	白生地(牛首紬)、後染帯地(牛首紬)、ショール(牛首紬)、先染反物(飯田紬)
129	(株)加藤萬	東京都中央区	和装小物(帯揚、半衿)
130	(株)しゃらく	愛媛県新居浜市	後染反物(小紋)
131	(資)山中商店	名古屋市中区	後染反物(小紋)
132	きもの処あだち	大阪府藤井寺市	後染反物(小紋)
133	西川産業(株)	東京都中央区	寝具寝装品(掛布団)
134	繭工房華美	宮城県塩竈市	寝衣(長肌着、短肌着)
136	(株)和想	鳥取県鳥取市	後染反物(小紋)
137	(株)高島屋呉服店	島根県益田市	後染反物(小紋)
138	富岡シルクブランド協議会	群馬県富岡市	ネクタイ、褌、マフラー(手織り)
139	(株)丸年呉服店	石川県金沢市	後染反物(小紋)
140	(株)染織館	徳島県徳島市	後染反物(小紋)
141	(株)京ろまん	奈良県奈良市	後染反物(小紋)、ニット(靴下)
142	五嶋(株)	東京都文京区	帯締
143	(株)わふくや	浜松市中区	長襦袢地
144	(株)布屋呉服店	静岡県富士宮市	胴裏(トルマリン加工)、後染反物(小紋(変一越、紋意匠))
145	(有)明石屋	東京都調布市	後染反物(色無地)、後染帯地
146	宮井(株)	京都市中京区	風呂敷
147	(株)ナカノ	大分県大分市	後染反物(小紋(変一越、紋意匠)、加賀友禅)
148	(株)芦田呉服店	京都府綾部市	後染反物(色無地、小紋(変一越、紋意匠))
149	(株)甲斐絹座	山梨県富士吉田市	ネクタイ、服飾品(スカーフ、ストール、トランクス)、パジャマ、袷紗
150	(有)さいとう呉服店	千葉県市川市	後染反物(色無地、付下)
151	(株)西松屋	兵庫県姫路市	後染反物(小紋(変一越、紋意匠))
152	(株)西尾呉服店	大阪市福島区	後染反物(小紋(変一越、紋意匠))
153	勝山織物(株)	京都市北区	先染帯地(金銀糸が5%を超えるもの)
154	(有)石川	群馬県みどり市	後染反物(型友禅、羽二重色無地)、先染反物(ジャガード織)
156	那覇伝統織物事業協同組合	沖縄県那覇市	先染反物、先染帯地、かりゆしウェア、ショール
157	(株)ふじや	福岡県朝倉市	後染反物(小紋(変一越、紋意匠))
158	きものおかだ	兵庫県香美町	後染反物(小紋)
159	(株)JS	山梨県富士吉田市	寝具寝装品(ふとん、ふとんカバー)、洋装品(スーツ地、コート地、スカート地、シャツ、ワンピース地)、服飾品(スカーフ、ストール、ネックカバー、アームカバー、レグカバー)
160	(株)マルシバ	東京都中央区	裏地(胴裏)、和装小物(袷紗)、ネクタイ
161	(株)みつわ	大阪府大東市	後染反物(小紋)
162	福純織物(株)	福岡市西区	先染帯地(本袋男帯、八寸名古屋帯)
163	(株)大谷屋	新潟市中央区	白生地(表地)

表示者 登録番号	企 業 名	所 在 地	主 な 絹 製 品 名
164	(株) 東京藤屋 (きものレディ着付け学院)	東京都品川区	白生地(表地)
165	(株) 染織こうげい	東京都中央区	白生地(表地)
166	近江真綿振興会	滋賀県米原市	寝具寝装品(布団、膝かけ)、ショール
167	(株) にしむら	兵庫県西脇市	後染反物(小紋(変一越、紋意匠))
168	(有) きものおおにし	大阪府東大阪市	後染反物(小紋(変一越、紋意匠))
169	(株) コノエ (そめの近江)	東京都豊島区	後染反物(小紋(変一越、紋意匠))、ニット(靴下)
170	(株) つたや	大阪府枚方市	後染反物(小紋(変一越、紋意匠))
171	(株) 京呉服小糸伸輔の店	熊本市東区	後染反物(小紋(変一越、紋意匠))
172	(株) マエノ	茨城県石岡市	後染反物(小紋(変一越、紋意匠))
173	(株) 本きもの松葉	大阪府富田林市	後染反物(小紋(変一越、紋意匠))
174	(有) 山田呉服店	長野県諏訪市	白生地(変り縮緬)、先染反物(大島紬)
175	(株) 呉服のながいけ	長崎県南島原市	後染反物(小紋(変一越、紋意匠))
176	(株) 京呉服平田	福井県福井市	後染反物(小紋(変一越、紋意匠))
177	(株) 布四季庵ヨネオリ	山形県米沢市	先染反物(置賜紬)、ストール
178	奄美島絹推進協議会	鹿児島県龍郷町	先染反物(大島紬)、先染帯地(大島紬)
179	(株) 宮坂製糸所	長野県岡谷市	先染帯地(八寸名古屋帯)
180	(有) シンセイ	長野県松本市	ニット(腹巻、靴下)
181	(株) 百花	横浜市中区	後染反物(小紋(変一越))
182	京呉服好一(株)	京都市北区	後染反物(小紋(変一越、紋意匠))
183	(株) パールトーン	京都市右京区	胴裏(パールトーン加工)
184	きもの専科まさ井	兵庫県三木市	後染反物(小紋(変一越))
185	マテリアル ロープ 鷹	東京都練馬区	後染反物(小紋(変一越))
186	(株) せんば呉服	兵庫県尼崎市	後染反物(小紋(変一越、紋意匠)、訪問着)、先染反物(絰着尺)、後染帯地
187	(株) 三越伊勢丹	東京都新宿区	白生地(表地)、帯締、羽織紐、帯締(金銀糸が5%を超えるもの)、ジャケット地
188	青山きもの(株) (青山きもの学院)	東京都港区	白生地(表地、夏物表地)
189	ニット青木(株)	東京都品川区	ニット(スーツ・パンツ、スーツ・スカート、ジャケット、アンサンブル、インナー)
190	渡豊工房	山形県山辺町	先染反物(綾御召(男物、女物)、市松綾御召(草木染め))、裏地(紬八掛)、先染ストール
191	(株) リンクピース	福岡市博多区	後染反物(小紋(変一越、紋意匠))
192	(有) 新宮(きもの宮下)	宮崎県宮崎市	後染反物(小紋(変一越))
193	アトリエITO 伊藤峯子	沖縄県那覇市	先染反物、先染帯地
194	遊生染織工房 築城則子	北九州市八幡東区	先染反物
195	染織家 杉浦晶子	愛知県高浜市	先染反物、先染帯地
196	(株) 夢工芸染の新井	東京都足立区	白生地(変り縮緬)、先染反物(大島紬)
197	(株) 嵯が野	埼玉県川越市	白生地(変り縮緬)、先染反物(大島紬)

表示者 登録番号	企 業 名	所 在 地	主 な 絹 製 品 名
198	(株) カインドウェア	東京都千代田区	ストール、ネクタイ
199	(株) 新田	山形県米沢市	後染反物 (ぼかし着尺)
200	(株) ソーホー	京都市下京区	白生地 (紋意匠無地縮緬・紋意匠縮緬)、後染反物 (本加賀訪問着)、先染反物 (大島紬)、先染帯地 (袋帯)
201	(株) すずのき	東京都品川区	後染反物 (訪問着・色無地)、白生地 (表地)
202	メーカーズシャツ鎌倉 (株)	神奈川県鎌倉市	ニット (肌着)
203	(株) 丸本岩崎	北海道函館市	裏地 (胴裏絹)
204	(株) 緒方商店 (きもの心おがた)	愛媛県八幡浜市	後染反物 (小紋 (変一越、紋意匠))
205	富士新幸 (株)	山梨県都留市	真綿布団
206	(有) 浅井ローケツ	京都市右京区	後染反物 (色無地・藍染)
207	(有) 呉服のうめね	北九州市小倉北区	白生地 (変一越)
208	(株) ADESSO (きもの工房一休)	神戸市中央区	白生地 (変一越)
209	森秀織物 (株)	群馬県桐生市	先染反物 (御召)
210	(株) 龍村美術織物	京都市中京区	先染帯地 (本袋帯 (金銀糸が5%を超えるもの))
211	(株) 長沼 (長沼静きもの学院)	東京都渋谷区	後染反物 (小紋 (変一越、紋意匠))
212	(株) 国際商事	東京都板橋区	ショール
213	窪田織物 (株)	鹿児島県鹿児島市	先染反物 (大島紬)
214	染織家 村江菊絵	東京都目黒区	先染帯地 (作家作品)、先染反物
215	片倉工業 (株)	東京都中央区	ニット (靴下)
216	村田捺染加工 (有)	群馬県桐生市	ストール
217	(株) 京のきもの綾錦	京都市下京区	後染反物 (訪問着、小紋、色無地)
218	あや工房	沖縄県西原町	先染反物 (首里織)、先染帯地 (首里織)
219	Noble Silk (株)	東京都中央区	ニット (インナー、パンツ、ひざ掛け、ジャケット)
220	万兵 (株)	名古屋市中区	白生地 (表地)
221	横山 (株)	京都市中京区	後染反物 (小紋・訪問着)
222	(株) カネヒサクリエーション	石川県金沢市	白生地 (表地)
223	柳晋哉	東京都世田谷区	先染反物
224	(株) 一声	京都市下京区	白生地 (表地)

一般財団法人大日本蚕糸会活動日誌 No. 56 (H29.10.1 ~ H29.12.31)

月日	活 動 内 容 等
10/ 6	平成 29 年度蚕糸絹文化振興対策事業第 3 回審査会 (東京都有楽町 蚕糸会館)
10/17	新対策事業に関する打合せ (群馬県)
10/20 ~ 24	東京シルクの会展示会 (ジャパンシルクセンター)
11/ 4 ~ 6	伝統工芸ふれあい広場・TOKYO への協力 (東京都)
11/ 6 ~ 7	シルクサミット in 富士吉田への参加 (山梨県)
11/ 6 ~ 7	千總純国産絹製品販売・商品開発グループ主催の養蚕農家研修会への参加 (山形県)
11/10 ~ 11	実りのフェスティバルへの協力 (東京都)
11/10 ~ 11	福島県蚕業技術員専門部会への参加 (福島県)
11/16	蚕糸功労者表彰式 (東京都 帝国ホテル)
11/17	純国産絹マーク審査委員会 (平成 29 年度第 3 次) (東京都有楽町 蚕糸会館)
12/ 4	伊勢神宮農事功労者表彰式への参加 (三重県)
12/ 7	蚕糸絹文化振興対策事業の事業説明会の開催 (東京都有楽町 蚕糸会館)
12/14 ~ 17	甲斐絹と山梨ハタオリ産地の“今”展示会 (ジャパンシルクセンター)

第6回蚕糸絹業提携確立技術・経営コンクールの出品を募集

第6回蚕糸絹業提携確立技術・経営コンクールを下記のとおり実施します。

なお、このコンクールは、平成30年度(第57回)農林水産祭参加の一環として実施します。積極的な参加をお願いします。

記

1 開催の目的

蚕糸絹産業や絹文化の維持継承とその活性化を図るため、高度な養蚕技術や経営手法を駆使して純国産絹製品の生産販売活動に携わっている蚕糸絹業提携グループ、養蚕農家又は農家団体を表彰し、その活動と成果を広く紹介して蚕糸絹業の発展に資する。

2 応募方法・応募先

応募は、出品財として蚕糸絹業提携グループ、養蚕農家又は農家団体の何れかを選択し、蚕糸絹業提携確立技術・経営コンクール事務局に直接郵送か、各県蚕糸主務課又は各県蚕糸絹文化活性化推進事業事務局を通じてご応募をお願いします。

3 応募期間 平成30年1月10日～平成30年3月15日まで

4 審査・表彰日 審査会 平成30年4月上旬
表彰式 平成30年5月中旬
表彰場所 東京都千代田区 蚕糸会館

5 表彰内容 農林水産大臣賞1点、農林水産省生産局長賞1点
一般財団法人大日本蚕糸会会頭賞3点

6 審査員 一般財団法人大日本蚕糸会事業審査委員会の審査員

7 主催者 一般財団法人大日本蚕糸会、中央蚕糸協会

(問合せ先)

〒100-0006 東京都千代田区有楽町1-9-4 蚕糸会館
一般財団法人大日本蚕糸会
蚕糸絹業提携確立技術・経営コンクール事務局

担当：廣瀬隆登、笥文平、菊池清

TEL：03-3214-3500

E-mail：kakei@silk.or.jp (笥文平)

kikuchi@silk.or.jp (菊池清)

蚕糸絹関係博物館一覽

名 称	〒	住 所	電 話
一般財団法人北海道開拓の村	004-0006	北海道札幌市厚別区厚別町小野幌 50-1	011-898-2692
ひこころの里「シルク館」	986-0782	宮城県本吉郡南三陸町入谷字桜沢 442	0226-46-4310
原始布・古代織参考館	992-0039	山形県米沢市門東町 1 丁目 1 - 16	0238-22-8141
米沢織物歴史資料館	992-0039	山形県米沢市門東町 1 丁目 1 - 87	0238-23-3525
夕鶴の里資料館 語り部の館	992-0474	山形県南陽市漆山 2025 - 2	0238-47-5800
松ヶ岡開墾記念館	997-0152	山形県鶴岡市羽黒町松ヶ岡 29	0235-62-3985
公益財団法人致道（ちどう）博物館	997-0036	山形県鶴岡市家中新町 10 - 18	0235-22-1199
酒田市美術館	998-0055	山形県酒田市飯森山三丁目 17 - 95	0234-31-0095
かわまたおりもの展示館	960-1406	福島県伊達郡川俣町大字鶴沢字東 13 - 1	024-565-4889
結城市伝統工芸館	307-0001	茨城県結城市大字結城 3018 - 1	0296-32-7949
紬の里	307-0001	茨城県結城市結城 2515	0296-32-8002
本場結城紬郷土館	307-0000	茨城県結城市浦町 116	0296-32-2121
本場結城紬染織資料館「手緒里」	307-0001	茨城県結城市結城 12-2	0296-33-3111
佐野市郷土博物館	327-0003	栃木県佐野市大橋町 2047	0283-22-5111
おやま本場結城紬クラフト館	323-0023	栃木県小山市中央町 3-7-1 ロブレビル 1F	0285-32-6477
足利織物伝承館	326-0814	栃木県足利市通 3-2589	0284-22-3004
足利まちなか遊学館	326-0814	栃木県足利市通 1-2673-1	0284-41-8201
足利織姫神社	326-0817	栃木県足利市西宮町 3889	0284-22-0313
那須野が原博物館	329-2752	栃木県那須塩原市三島 5 - 1	0287-36-0949
高崎市歴史民俗資料館	370-0027	群馬県高崎市上滝町 1058	027-352-1261
群馬県立歴史博物館	370-1293	群馬県高崎市綿貫 992 - 1（群馬の森公園内）	027-346-5522
おかいこステーション	370-3401	群馬県高崎市倉渕町権田 5344 - 1235	027-340-6060
群馬県立日本絹の里	370-3511	群馬県高崎市金古町 888 番地の 1	027-360-6300
富岡製糸場	370-2316	群馬県富岡市富岡 1 - 1	0274-64-0005
前橋市蚕糸記念館	371-0036	群馬県前橋市敷島町 262 番地（敷島公園バラ園内）	027-231-9875
織物参考館“紫（ゆかり）”	376-0034	群馬県桐生市東 4 丁目 2 番 24 号	0277-45-3111
桐生織物記念館（桐生織物協同組合）	376-0044	群馬県桐生市永楽町 6 - 6	0277-43-2510
コノドント館みどり市大間々博物館	376-0101	群馬県みどり市大間々町大間々 1030	0277-73-4123
たくみの里	379-1418	群馬県利根郡みなかみ町須川 784	0278-64-2211
片倉シルク記念館	360-0815	埼玉県熊谷市本石 2 丁目 135 番地	048-522-4316
ちちぶ銘仙館	368-0032	埼玉県秩父市熊木町 28-1	0494-21-2112
秩父ふるさと館	368-0044	埼玉県秩父市本町 3-1	0494-23-7300
きもの芸術館（一般財団法人国際文化きもの学会）	150-0002	東京都渋谷区渋谷 1-6-8 清水学園ビル 6F～8F	03-3400-0286
文化学園服飾博物館	151-8529	東京都渋谷区代々木 3 - 22 - 7	03-3299-2387
蚕糸科学研究所展示室	169-0073	東京都新宿区百人町 3-25-1	03-3368-4891
調布市郷土博物館	182-0026	東京都調布市小島町 3 - 26 - 2	0424-81-7656
東京農工大学科学博物館	184-8588	東京都小金井市中町 2 - 24 - 16	042-388-7163
絹の道資料館	192-0375	東京都八王子市鎌水 989 - 2	0426-76-4064
八王子市郷土資料館	192-0902	東京都八王子市上野町 33	042-622-8939

名 称	〒	住 所	電 話
町田市立博物館	194-0032	東京都町田市本町田 3562	042-726-7531
羽村市郷土博物館	205-0012	東京都羽村市羽 741	042-558-2561
シルク博物館	231-0023	横浜市中区山下町 1 番地シルクセンター内	045-641-0841
神奈川県立歴史博物館	231-0006	横浜市中区南仲通 5-60	045-201-0926
相模田名民家資料館	229-1124	相模原市田名 4853 番 2 (大杉公園隣り)	042-761-7118
小千谷織物工房 小千谷織物同業協同組合	947-0028	新潟県小千谷市城内 1-8-25 小千谷市総合産業会館サンブラザ内	0258-83-2329
手織りの館	947-0028	新潟県小千谷市城内 1 - 8 - 25	0258-83-4800
十日町市博物館	948-0072	新潟県十日町市西本町 1	0257-57-5531
塩沢つむぎ記念館 (織の文化館)	949-6408	新潟県南魚沼市塩沢 1227 - 14	0257-82-4888
白山工房 (織りの資料館)	920-2501	石川県白山市白峰村又 17	076-259-2859
はたや記念館ゆめおーれ勝山	911-0802	福井県勝山市昭和町 1 - 7 - 40	0779-87-1200
豊富郷土資料館	400-1513	山梨県中央市大鳥居 1619 - 1	055-269-3399
須坂市立博物館	382-0028	長野県須坂市臥竜 2 丁目 4 番 1 号臥竜公園内	026-245-0407
常田館 (絹の資料館)	386-0018	長野県上田市常田 1 - 10 - 3 笠原工業 (株) 内	0268-22-1230
繊維学部資料館	386-8567	長野県上田市常田 3-15-1 信州大学繊維学部内	0268-21-5454
上田市立博物館	386-0026	長野県上田市二の丸 3 番 3 号 (上田城跡公園内)	0268-22-1274
上田市丸子郷土博物館	386-0413	長野県上田市東内 2564 - 1	0268-42-2158
絹糸紡績資料館	386-0498	長野県上田市上丸子 1078 シナノケンシ (株) 内	0268-41-1800
長野県立歴史館	387-0007	長野県千曲市大字屋代字清水、科野の里歴史公園内	026-274-2000
海野宿歴史民俗資料館	389-0518	長野県東御市本海野 1098	0268-64-1000
日本司法博物館 (松本歴史の里)	390-0852	長野県松本市島立小柴 2196 - 1	0263-47-4515
岡谷蚕糸博物館 (シルクファクトおかや)	394-0021	長野県岡谷市郷田 1 丁目 4 番 8 号	0266-23-3489
駒ヶ根シルクミュージアム	399-4321	長野県駒ヶ根市東伊那 482 番地	0265-82-8381
安曇野市天蚕センター	399-8301	長野県安曇野市穂高有明 3618 - 24	0263-83-3835
美濃加茂市民ミュージアム	505-0004	岐阜県美濃加茂市蜂屋町上蜂屋 3299 - 1	0574-28-1110
石川繊維資料館	400-0886	愛知県豊橋市東小田原町 109 - 1	0532-52-5265
豊田市稲武郷土資料館ちゅーま	441-2524	愛知県豊田市黒田町南水別 713	0565-82-3439
豊橋市民俗資料収蔵室	440-0021	愛知県豊橋市多米町滝の谷 34-1-1	0532-63-2026
三重中央農協郷土資料館	515-2504	三重県津市一志町高野 1204 - 1	059-293-0010
手おりの里、金剛苑	529-1204	滋賀県愛知郡愛荘町蚊野外 514	0749-37-4131
織物文化館	601-1123	京都市左京区静市市原町 265 川島織物セルコン内	075-741-4120
西陣織会館	602-8216	京都市上京区堀川通り今出川南入	075-451-9231
織成館	602-8482	京都市上京区浄福寺通上立売上る大黒町 693 番地	075-431-0020
千總ギャラリー	604-8166	京都市中京区御倉町 80 番地千總本社ビル 2 階	075-211-2531
絹の白生地資料館	604-8176	京都市中京区龍池町 448 - 2 伊と幸ビル	075-254-5884
まゆ村	616-8384	京都市右京区嵯峨天龍寺造路町	075-882-0564
グンゼ博物苑	623-0011	京都府綾部市青野町 グンゼ (株) 周辺敷地内	0773-43-1050
織元田勇	629-3104	京都府京丹後市網野町浅茂川 112 田勇機業 (株) 内	0772-72-0307

名 称	〒	住 所	電 話
上垣守国（うえがきもりくに）養蚕記念館	667-0321	兵庫県養父市大屋町蔵垣 246 - 2	079-669-1580
デザイン・クリエイティブセンター神戸(KIITO)	651-0082	神戸市中央区小野浜町 1-4	078-325-2201
西予市野村シルク博物館	797-1212	愛媛県西予市野村町野村 8号 177 番地 1	0894-72-3710
蚕糸資料館	781-1301	高知県高岡郡越知町越知甲 1577 番地	0889-26-1002
藤村製絲記念館	781-6402	高知県安芸郡奈半利町乙 2630	0887-38-4711

蚕糸絹関係機関ホームページ一覧

【行政】

農林水産省
経済産業省

<http://www.maff.go.jp>
<http://www.meti.go.jp>

【蚕糸絹業関係団体】

(一財) 大日本蚕糸会
(一財) 大日本蚕糸会 ジャパンシルクセンター
(一社) 日本絹人織物工業会
(一財) 日本真綿協会
丹後織物工業組合
西陣織工業組合
T A F S (東京織物卸商業組合)
K O M S (京都織物卸商業組合)
(公財) 京都和装産業振興財団
(一財) 伝統的工芸品産業振興協会
蚕糸・絹業提携グループ全国連絡協議会

<http://www.silk.or.jp>
<http://www.silk-center.or.jp>
<http://www.kinujinsen.com>
<http://www.mawata.or.jp>
<http://www.tanko.or.jp>
<http://www.nishijin.or.jp>
<http://www.tafs.or.jp>
<http://www.fashion-kyoto.or.jp>
<http://www.wasou.or.jp/wasou/index.html>
<http://www.kougeihin.jp>
<http://takaraginu.com>

【大学・試験研究機関】

(国研) 農業・食品産業技術総合研究機構 <http://www.naro.affrc.go.jp>
(国) 北海道大学応用分子生物学分野応用分子昆虫学研究室 <http://www.agr.hokudai.ac.jp/rfoa/abs/abs2-1.html>
(国) 岩手大学農学部生命資源科学コース応用昆虫研究室 <http://news7a1.atm.iwate-u.ac.jp/department2/agri/life.html>
(国) 宇都宮大学農学部昆虫機能利用学研究室
http://shigen.mine.utsunomiya-u.ac.jp/insectbiotechnology/insect_physiology/seiri-research
(国) 東京大学大学院農学生命科学研究科生産・環境生物学専攻昆虫遺伝研究室
<http://papilio.ab.a.u-tokyo.ac.jp/igb/index-J.html>
(国) 東京農工大学農学部生物生産学科蚕学研究室 <http://www.tuat.ac.jp/~kaiko>
(国) 東京農工大学工学部生命工学科 <http://www.tuat.ac.jp/~seimei>
(国) 名古屋大学農学部 <http://www.agr.nagoya-u.ac.jp>
(国) 信州大学繊維学部 <http://www.tex.shinshu-u.ac.jp>
(国) 京都工芸繊維大学工芸科学部応用生物学課程 <http://www.bio.kit.ac.jp>
(国) 鳥取大学農学部生物資源環境学科昆虫機能学教育研究分野 <http://muses.muses.tottori-u.ac.jp>
(国) 山口大学農学部生物資源環境科学科 <http://www.agr.yamaguchi-u.ac.jp/bioenvi/research2.html>
(国) 九州大学大学院生物資源環境科学府蚕学研究室 <http://www.agr.kyushu-u.ac.jp/lab/sangaku>
群馬県蚕糸技術センター <http://www.pref.gunma.jp/07/p14710007.html>
群馬県繊維工業試験場 <http://www.pref.gunma.jp/07/p20210013.html>
京都府織物・機械金属振興センター <http://www.silk.pref.kyoto.jp/index-sub.html>
(地独) 京都市産業技術研究所 <http://www.tc-kyoto.or.jp>
(公財) 衣笠繊維研究所 <http://krf-textile.com>
(一財) 大日本蚕糸会 蚕糸科学研究所 http://www.silk.or.jp/silk_kagaku/index.html
(一財) 大日本蚕糸会 蚕業技術研究所 http://www.silk.or.jp/silk_gijyutu/index.html

【学会】

日本シルク学会
(一社) 日本蚕糸学会
日本野蚕学会

<http://jsst.sakura.ne.jp>
<http://jsss.or.jp>
<http://jswsmo.appspot.com>

【博物館】

(一財) シルクセンター-国際貿易観光会館 シルク博物館
群馬県立日本絹の里
愛媛県西予市野村シルク博物館
東京農工大学科学博物館

<http://www.silkcenter-kbkk.jp/museum>
<http://www.nippon-kinunosato.or.jp>
<http://www.city.seiyo.ehime.jp/soshiki/silkmuseum>
<http://www.tuat.ac.jp/~museum>

【博物館】

駒ヶ根シルクミュージアム

<http://www.cek.ne.jp/~shiruku>

織成館（京都市上京区）

<http://orinasukan.skr.jp>

高崎市染料植物園

<http://www.city.takasaki.gunma.jp/docs/2014011400979>

群馬県立歴史博物館

<http://grekisi.pref.gunma.jp>

岡谷蚕糸博物館（シルクファクトおかや）

<http://silkfact.jp>

はたや記念館ゆめおーれ勝山

<http://www.city.katsuyama.fukui.jp/hataya>

【富岡製糸場と絹産業遺産群】

富岡製糸場

<http://www.tomioka-silk.jp/hp/index.html>

群馬県 企画部 世界遺産課

<http://worldheritage.pref.gunma.jp/ja>

ぐんま絹遺産

<http://worldheritage.pref.gunma.jp/kinuisan>

上毛新聞社関連記事

http://jomo-news.co.jp/ns/series/silk_index.html

統計資料目次

<国内>

(1) 蚕糸絹業の概要	56
(2) 養蚕農家数の推移	57
(3) 繭生産数量の推移	58
(4) 蚕期別、都府県別養蚕農家戸数	59
(5) 蚕期別、都府県別繭生産数量	60
(6) 蚕品種別蚕種製造数量の推移	61
(7) 生糸需給及び絹糸・絹織物の輸出入状況	62
(8) 生糸の織度別生産数量の推移	63
(9) 絹需給の推移（生糸量換算試算）	64
(10) 品目別・二次製品輸入数量（生糸量換算試算）	65
(11) 製糸工場の原料繭需給	66
(12) 製糸工場の操業状況	67
(13) 生糸在庫数量の内訳	68
(14) 蚕糸関係品目別輸入状況	69
(15) 生糸の原産国別輸入数量	70
(16) 絹糸の原産国別輸入数量	71
(17) 生糸・絹糸の主要輸入国からの輸入数量と単価	72
(18) 絹織物生産数量	73
(19) 丹後・長浜・西陣の絹織物生産数量	74
(20) 全国全世帯被服類品目別消費支出状況	75

<海外>

(1) 世界主要国の家蚕繭生産数量	76
(2) 世界主要国の家蚕生糸生産数量	77
(3) 中国省別家蚕繭生産数量・生糸生産数量	78
(4) 中国省別家蚕繭生産数量の推移	79
(5) 中国繭絲綢交易市場における各種シルク現物価格	80
(6) 中国企業別従業員年間賃金総額及び対前年指数	81
(7) 中国企業別従業員年間平均賃金及びその対前年指数	82
(8) 中国産業別従業員年平均賃金の推移	83
(9) 中国省別従業員年平均賃金（2015年）	84
(10) ブラジルの繭・生糸生産数量の推移	85

一資料・国内一

(1) 蚕糸絹業の概要

Outline of Sericultural, Silk-Reeling, and Silk Fabric Industry in Japan

項目 item	養蚕業 Sericultural Industry			製糸業 Silk-Reeling Industry			絹業 Silk Fabric Industry	
	養蚕農家 戸数 Number of Silk- Raising Farmer	収繭量 Cocoon Production	1戸当 収繭量 Cocoon Production per Farmer	生糸 生産量 Raw Silk Production	運転 工場数 Number of Mills	稼働率 Operation ratio	絹人織機 設備台数 (保有台 数) Number of Silk Loom	絹織物 生産量 Silk Fabric Production
年次(暦年) Calendar year	戸 Number	トン t	kg	千俵 1,000 Bale of 60kg	工場 Number	%	千台 1,000	千㎡ 1,000 sq. meters
(平成)								
1997 (9)	6,310	2,516	399	31.5	18	67	81.6	52,031
1998 (10)	5,070	1,980	390	18.4	13	76	74.5	38,673
1999 (11)	4,030	1,496	371	10.8	8	73	67.4	33,425
2000 (12)	3,280	1,244	379	9.3	8	67	62.9	32,275
2001 (13)	2,730	1,031	378	7.2	8	63	56.8	29,801
2002 (14)	2,360	880	373	6.5	17	68	51.2	26,826
2003 (15)	2,070	780	377	4.8	14	64	48.7	23,935
2004 (16)	1,850	683	369	4.4	13	62	45.6	21,895
2005 (17)	1,591	626	393	2.5	10	62	43.7	19,816
2006 (18)	1,345	505	375	2.0	9	82	41.6	18,507
2007 (19)	1,169	433	370	1.8	8	83	40.0	15,466
2008 (20)	1,021	382	374	1.6	7	80	38.1	14,043
2009 (21)	915	327	357	1.2	7	60	33.6	9,955
2010 (22)	756	265	351	0.9	7	49	35.9	3,611
2011 (23)	627	220	351	0.7	7	52	34.7	3,152
2012 (24)	571	202	354	0.5	7	35	33.3	2,912
2013 (25)	486	168	346	0.4	7	31	32.0	2,940
2014 (26)	393	149	379	0.4	7	34	-	2,734
2015 (27)	368	135	367	0.4	7	30	-	2,316
2016 (28)	349	130	372	0.3	7	26	-	2,243
前年比(%) 2016/2015	94.8	96.3	101.5	75.0	100.0	86.7	-	96.8

資料 ・平成20年以前の養蚕業及び製糸業は、農林水産省調査によるものである。
 ・平成21年以降の養蚕業は、全国農業協同組合連合会及び(一財)大日本蚕糸会調査である。
 ・平成21年以降の製糸業は、中央蚕糸協会及び(社)日本生糸問屋協会調査である。
 ・平成20年以前の絹業は経済産業省調査であり、平成21年以降絹業は(一社)日本絹人織機物工業会調査である。
 平成18年以降の絹織物生産量は、絹紡織物を含む。
 ・平成23年以降の養蚕業は(一財)大日本蚕糸会調査である。
 (注) 製糸業の運転工場数及び稼働率は器械製糸工場の操業状況であるが、平成14年以降はすべての製糸工場のものである。

Source: ・Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries (MAFF) (Sericultural and Silk-Reeling, before 2008)
 ・National Federation of Agricultural Co-operative Associations and the Dainippon Silk Foundation (Sericultural Industry, after 2009)
 ・Central Raw Silk Association and Japan Raw Silk Dealer's Association (Silk-Reeling, after 2009)
 ・The Ministry of Economy Trade and Industry (Silk Fabric, before 2008)
 ・Japan Silk & Rayon Weaver's Association (Silk Fabric, after 2009)

Note: The number of operating mills and operation ratio are of machine reeling mills. (After 2002, all reeling mills)

(2) 養蚕農家数の推移

Farm households raising silk-worm

(単位：戸)
(Unit: number)

年次 Year	項目 Item	年間 Annual total	春蚕 Spring silk-worm	初秋蚕 Early autumn silk-worm	晩秋蚕 Late autumn silk-worm
1994		19,040	16,790	13,190	14,790
1995		13,640	12,450	9,560	9,580
1996		7,890	6,980	5,000	6,290
1997		6,310	5,650	4,420	5,120
1998		5,070	4,550	3,750	4,120
1999		4,030	3,600	2,710	3,280
2000		3,280	2,970	2,170	2,700
2001		2,730	2,410	1,870	2,270
2002		2,360	1,992	1,720	1,918
2003		2,070	1,875	1,503	1,751
2004		1,850	1,621	1,371	1,551
2005		1,591	1,420	1,061	1,345
2006		1,345	1,215	852	1,102
2007		1,169	1,052	726	988
2008		1,021	929	613	857
2009		915	814	647	755
2010		756	650	494	637
2011		627	562	358	531
2012		571	514	319	462
2013		486	422	260	399
2014		393	359	230	328
2015		368	323	221	313
2016		349	310	209	310
前年比(%) 2016/2015		94.8	96.0	94.6	99.0

資料：農林水産省統計情報部調査（～2001年）、全国農業協同組合連合会調査（2002年～2004年）、
農林水産省生産局調査（2005～2008年）、（一財）大日本蚕糸会調査（2009年～）。

Source : The Statistics and Information Department, Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries (～2001).
National Federation of Agricultural Co-operative Associations (2002～2004).
The Agricultural Production Bureau, Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries (2005～2008年).
The Dainippon Silk Foundation (2009年～)

(3) 繭生産数量の推移
Cocoon Production

年次 Year	項目 Item	年計 Annual total				1戸当り収繭量 Cocoon production per farm household raising silk-worm			
		年間 Annual total	春蚕 Spring silk-worm	初秋蚕 early autumn silk-worm	晩秋蚕 Late autumn silk-worm	年間 Annual total	春蚕 Spring silk-worm	初秋蚕 early autumn silk-worm	晩秋蚕 Late autumn silk-worm
		t	t	t	t	kg	kg	kg	kg
1994		7,724	3,036	2,044	2,644	406	181	155	170
1995		5,350	2,222	1,477	1,651	392	178	155	172
1996		3,021	1,184	747	1,090	382	170	149	173
1997		2,516	982	678	857	398	174	153	167
1998		1,980	769	588	623	390	169	157	151
1999		1,496	596	391	509	371	166	144	155
2000		1,244	500	320	424	379	169	148	157
2001		1,031	391	275	365	378	162	147	161
2002		880	330	231	320	373	166	134	167
2003		775	313	210	253	374	167	140	144
2004		675	256	176	243	369	158	128	157
2005		626	243	165	218	396	171	156	162
2006		505	209	122	173	375	172	143	157
2007		433	175	110	148	371	166	152	150
2008		382	147	96	139	374	158	157	162
2009		327	124	85	118	357	152	131	156
2010		265	107	60	98	351	165	121	154
2011		220	95	49	76	351	169	136	143
2012		202	79	50	73	354	155	156	159
2013		168	61	41	67	346	145	158	168
2014		149	55	36	58	379	153	157	176
2015		135	49	32	54	368	151	147	174
2016		130	47	32	50	372	153	155	162
前年比(%) 2016/2015		95.9	97.5	99.8	92.0	101.1	101.1	105.5	92.9
2016年 構成比(%)		100.0	36.5	25.0	38.6				

資料：農林水産省統計情報部調査（～2001年）、全国農業協同組合連合会調査（2002年～2004年）、
農林水産省生産局調査（2005～2008年）、（一財）大日本蚕糸会調査（2009年～）。

Source : The Statistics and Information Department, Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries (～2001).

National Federation of Agricultural Co-operative Associations (2002～2004) .

The Agricultural Production Bureau, Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries (2005～2008年) .

The Dainippon Silk Foundation (2009年～)

(4)蚕期別、都府県別養蚕農家戸数

Farm households raising silk-worm by prefectures

(単位:戸、%)

都府県名	春蚕期			初秋蚕期			晩秋蚕期			年間		
	27年	28年	前年対比	27年	28年	前年対比	27年	28年	前年対比	27年	28年	前年対比
青森県	-	1	-	-	1	-	1	2	200.0	1	2	200.0
岩手県	11	14	127.3	14	11	78.6	15	18	120.0	18	18	100.0
宮城県	11	9	81.8	10	10	100.0	13	13	100.0	16	15	93.8
山形県	7	6	85.7	5	5	100.0	8	7	87.5	10	8	80.0
福島県	34	34	100.0	36	36	100.0	40	37	92.5	44	41	93.2
茨城県	13	13	100.0	11	10	90.9	11	12	109.1	13	13	100.0
栃木県	22	23	104.5	14	16	114.3	23	23	100.0	23	23	100.0
群馬県	122	111	91.0	80	71	88.8	119	114	95.8	133	122	91.7
埼玉県	29	28	96.6	21	19	90.5	27	26	96.3	31	29	93.5
千葉県	6	6	100.0	5	4	80.0	6	6	100.0	6	7	116.7
東京都	4	4	100.0	-	-	-	4	3	75.0	5	4	80.0
新潟県	7	8	114.3	-	-	-	-	-	-	7	8	114.3
福井県	1	1	100.0	1	-	-	1	1	100.0	1	1	100.0
山梨県	7	10	142.9	5	4	80.0	8	10	125.0	9	11	122.2
長野県	14	15	107.1	9	12	133.3	15	14	93.3	16	18	112.5
岐阜県	8	7	87.5	-	-	-	5	5	100.0	8	7	87.5
愛知県	2	2	100.0	-	-	-	1	1	100.0	2	2	100.0
京都府	3	2	66.7	-	-	-	3	2	66.7	3	2	66.7
兵庫県	1	1	100.0	1	-	-	1	1	100.0	1	1	100.0
愛媛県	11	10	90.9	5	6	120.0	6	10	166.7	11	11	100.0
高知県	2	1	50.0	1	-	-	2	-	-	2	1	50.0
熊本県	4	-	-	-	-	-	-	-	-	4	-	-
宮崎県	1	1	100.0	-	-	-	1	1	100.0	1	1	100.0
鹿児島県	3	3	100.0	3	4	133.3	3	4	133.3	3	4	133.3
全国計	323	310	96.0	221	209	94.6	313	310	99.0	368	349	94.8

資料:(一財)大日本蚕糸会調査

Source:The Dainippon Silk Foundation

(5) 蚕期別、都府県別繭生産数量
Cocoon production by prefectures

都府県等	春 蚕 期			初 秋 蚕 期			晚 秋 蚕 期			年間		
	27年	28年	前年比	27年	28年	前年比	27年	28年	前年比	27年	28年	前年比
青森県	-	65.0	-	-	73.7	-	92.4	113.2	122.5%	92.4	251.9	272.6%
岩手県	1,470.0	1,395.1	94.9%	1,936.6	1,575.4	81.3%	1,926.8	1,969.5	102.2%	5,333.4	4,940.0	92.6%
宮城県	1,472.6	1,560.5	106.0%	1,880.1	1,367.4	72.7%	2,191.9	1,589.7	72.5%	5,544.6	4,517.6	81.5%
山形県	1,314.5	1,156.1	87.9%	809.2	608.6	75.2%	1,483.4	1,534.9	103.5%	3,607.1	3,299.6	91.5%
福島県	6,417.0	6,191.7	96.5%	5,598.4	7,105.0	126.9%	9,184.6	9,065.5	98.7%	21,200.0	22,362.2	105.5%
茨城県	2,147.4	2,068.9	96.3%	1,405.0	1,241.5	88.4%	1,858.3	1,840.2	99.0%	5,410.7	5,150.6	95.2%
栃木県	7,919.8	6,657.7	84.1%	3,240.3	3,959.0	122.2%	9,364.9	8,305.0	88.7%	20,525.0	18,921.7	92.2%
群馬県	16,881.6	17,773.8	105.3%	11,715.2	11,151.3	95.2%	18,863.3	16,902.9	89.6%	47,460.1	45,828.0	96.6%
埼玉県	3,278.6	3,110.6	94.9%	2,271.8	2,132.2	93.9%	3,085.0	3,039.1	98.5%	8,635.4	8,281.9	95.9%
千葉県	1,105.6	1,084.0	98.0%	452.1	484.7	107.2%	931.0	625.0	67.1%	2,488.7	2,193.7	88.1%
東京都	212.3	219.6	103.4%	-	-	-	168.5	75.4	44.7%	380.8	295.0	77.5%
山梨県	1,904.8	2,115.6	111.1%	754.9	704.0	93.3%	1,773.4	1,618.3	91.3%	4,433.1	4,437.9	100.1%
長野県	1,572.7	1,624.3	103.3%	1,039.4	950.9	91.5%	1,818.1	1,677.9	92.3%	4,430.2	4,253.1	96.0%
新潟県	113.5	108.6	95.7%	-	-	-	-	-	-	113.5	108.6	95.7%
福井県	54.1	59.1	109.2%	26.8	-	-	41.6	30.0	72.1%	122.5	89.1	72.7%
岐阜県	534.3	574.1	107.4%	-	-	-	457.0	419.5	91.8%	991.3	993.6	100.2%
愛知県	75.2	87.9	116.9%	-	-	-	35.0	25.5	72.9%	110.2	113.4	102.9%
兵庫県	45.0	68.8	152.9%	40.3	-	-	44.7	64.5	144.3%	130.0	133.3	102.5%
京都府	74.3	36.7	49.4%	-	-	-	59.3	26.8	45.2%	133.6	63.5	47.5%
愛媛県	1,591.7	1,263.9	79.4%	1,140.3	955.1	83.8%	864.9	1,033.7	119.5%	3,596.9	3,252.7	90.4%
高知県	103.4	13.9	13.4%	59.7	-	-	64.9	-	-	228.0	13.9	6.1%
熊本県	101.9	-	-	-	-	-	-	-	-	101.9	-	-
宮崎県	68.5	65.2	95.2%	-	-	-	58.7	35.6	60.6%	127.2	100.8	79.2%
鹿児島県	84.0	47.0	56.0%	93.2	105.0	112.7%	77.5	97.0	125.2%	254.7	249.0	97.8%
全国計	48,542.8	47,348.1	97.5%	32,463.3	32,413.8	99.8%	54,445.1	50,089.2	92.0%	135,451.2	129,851.1	95.9%

資料：(一財)大日本蚕糸会調査

Source: The Dainippon Silk Foundation

(6) 蚕品種別蚕種製造数量の推移

Production by Sort of Silk-Worm Eggs

Item	Year	2013年 (平成25年)		2014年 (平成26年)		2015年 (平成27年)		2016年 (平成28年)	
		箱 box	割合 rate %						
錦秋1号 × 鐘和1号		2,450	21.9	3,278	33.4	2,899	30.0	2,800	31.5
錦秋 × 鐘和月		3,221	28.8	1,754	17.9	1,946	20.1	1,606	18.1
春嶺 × 鐘月1号		1,871	16.7	1,116	11.4	1,242	12.8	1,100	12.4
ぐんま200		1,125	10.1	1,104	11.3	1,019	10.5	949	10.7
春嶺1号 × 鐘月1号		380	3.4	872	8.9	780	8.1	679	7.6
松岡 × 石丸		547	4.9	350	3.6	300	3.1	445	5.0
新小石丸		317	2.8	129	1.3	107	1.1	178	2.0
かいらょう × あけぼの		166	1.5	140	1.4	136	1.4	133	1.5
ぐんま × まま		47	0.4	126	1.3	95	1.0	101	1.1
小石丸		76	0.7	134	1.4	180	1.9	96	1.1
小石丸		48	0.4	52	0.5	93	1.0	82	0.9
プーチナポイ		76	0.7	128	1.3	58	0.6	66	0.7
白ぐんま黄麗金号		92	0.8	31	0.3	26	0.3	60	0.7
白蘭 × 細1		64	0.6	103	1.1	116	1.2	59	0.7
白朝日 × 東黄		85	0.8	92	0.9	39	0.4	59	0.7
朝大日 × 黄ど		67	0.6	58	0.6	110	1.1	58	0.7
大日 × 黄ど		63	0.6	23	0.2	41	0.4	55	0.6
い玉 × 小研11		111	1.0	76	0.8	134	1.4	52	0.6
蚕技 × 平蘭		17	0.2	20	0.2	39	0.4	49	0.6
太緑 × 長2		53	0.5	42	0.4	43	0.4	44	0.5
秋上世奄黄		49	0.4	8	0.1	43	0.4	42	0.5
世奄黄 × 龍絹二黄		41	0.4	18	0.2	22	0.2	39	0.4
上世奄黄 × 龍絹二黄				22	0.2	11	0.1	26	0.3
世奄黄 × 龍絹二黄		71	0.6	23	0.2	78	0.8	26	0.3
黄 × 龍絹二黄				4	0.0	4	0.0	17	0.2
黄 × 龍絹二黄		42	0.4	20	0.2	32	0.3	15	0.2
N5・N6 × TY40				4	0.0	8	0.1	12	0.1
山東3眠 × C5・507		7	0.1	33	0.3	33	0.3	12	0.1
Ok・ON × nBL								10	0.1
新青 × 支21						5	0.1	5	0.1
青極 × 支1		6	0.1	5	0.1	8	0.1	2	0.0
緑 × 支1		21	0.2	16	0.2	11	0.1		
支21 × 四川3眠		33	0.3			6	0.1		
支21 × 四川3眠		4	0.0	4	0.0	4	0.0		
Nk × Cu1				10	0.1				
白極 × 細2				8	0.1				
玉 × 細3				3	0.0				
鷹 × 細3				2	0.0				
支108号 × 青熟		9	0.1						
山東3眠 × C5・505		8	0.1						
青 × 中515号		4	0.0						
又 × 中515号		2	0.0						
又 × 中515号		1	0.0						
合計 Total		11,174	100.0	9,808	100.0	9,668	100.0	8,887	100.0

資料：(一財)大日本蚕糸会調査。

Source : The Dainippon Silk Foundation.

(7) 生糸需給及び絹糸・絹織物の輸出入状況

Raw Silk Supply / Demand Balance and Import/Export of Silk Yarn and Silk Fabric

項目 Item 年月 Year & Month	生 糸 Raw Silk					絹 糸 Silk Yarn		絹 織 物 Silk Fabrics		
	生産数量 Production (A)	輸入数量 Imports (B)	輸出数量 Exports (C)	国内引渡 数量 Domestic Deliveries (D)	期末在庫 数量 Ending Stocks (E)	輸入数量 Imports (F)	輸出数量 Exports (G)	輸入数量 Imports (H)	輸出数量 Exports (I)	
暦年 Calendar Year	俵 Bales of 60kg	俵 Bales of 60kg	俵 Bales of 60kg	俵 Bales of 60kg	俵 Bales of 60kg	俵 Bales of 60kg	俵 Bales of 60kg	1000SM	1000SM	
2005	2,508	22,017	4,125	26,429	8,178	32,700	609	15,928	8,261	
2010	882	12,207	595	13,220	3,329	16,306	324	8,930	6,302	
2011	731	9,323	578	10,349	2,456	17,526	427	8,422	6,229	
2012	506	10,032	419	10,274	2,180	16,179	320	7,218	5,545	
2013	409	9,332	292	9,919	1,712	15,844	426	6,662	5,431	
2014	446	8,235	14	8,726	1,653	14,820	330	6,098	5,125	
2015	378	6,479	0	7,194	1,410	14,051	302	5,468	5,085	
2016	317	6,548	0	6,869	1,406	12,094	177	5,207	4,940	
2014 —	1	30	776	0	679	1,839	1,579	13	684	324
	2	39	591	0	582	1,887	677	21	296	485
	3	35	1,055	10	976	1,991	1,338	15	487	511
	4	42	270	0	547	1,756	1,392	30	474	521
	5	41	927	0	725	1,999	1,332	26	570	486
	6	45	869	0	946	1,967	1,355	30	643	380
	7	39	599	0	728	1,877	1,311	45	553	429
	8	24	548	0	663	1,786	1,203	25	475	362
	9	32	591	0	681	1,728	1,411	41	422	359
	10	43	748	0	794	1,725	1,121	22	510	447
	11	34	667	0	784	1,642	1,008	36	446	392
	12	43	600	3	629	1,653	1,094	27	534	428
2015 —	1	35	722	0	663	1,747	1,422	14	449	380
	2	44	614	0	647	1,758	1,045	7	539	342
	3	37	802	0	686	1,911	693	17	271	469
	4	38	0	0	531	1,418	1,165	27	461	428
	5	29	822	0	719	1,550	1,591	50	530	479
	6	37	628	0	680	1,535	1,293	32	463	432
	7	30	572	0	638	1,499	1,283	40	484	442
	8	25	467	0	448	1,543	1,238	47	371	391
	9	23	479	0	557	1,488	1,152	30	364	380
	10	28	462	0	517	1,461	1,161	16	549	504
	11	25	530	0	509	1,507	1,024	6	522	403
	12	27	380	0	504	1,410	983	17	407	434
2016 —	1	23	423	0	513	1,343	1,101	35	468	354
	2	33	595	0	607	1,364	797	10	460	348
	3	38	636	0	401	1,637	911	15	384	523
	4	26	0	0	414	1,249	1,047	19	445	478
	5	24	726	0	529	1,470	900	20	493	364
	6	17	555	0	648	1,394	1,295	12	457	434
	7	26	642	0	630	1,432	1,072	8	442	443
	8	26	589	0	599	1,448	967	9	383	332
	9	30	520	0	620	1,378	946	5	374	426
	10	20	602	0	572	1,428	862	17	414	415
	11	28	664	0	700	1,420	1,161	22	493	407
	12	26	596	0	636	1,406	1,035	5	394	416
2017 —	1	23	552	0	538	1,443	1,314	7	522	249
	2	23	509	0	472	1,503	535	35	203	454
	3	23	805	1	694	1,636	1,376	21	456	469
	4	26	0	0	124	1,538	1,255	23	371	437
	5	36	997	0	1,011	1,560	1,389	14	466	411
	6	26	735	0	778	1,543	1,285	17	499	410
	7	24	437	0	493	1,511	960	18	388	441
	8	25	839	0	826	1,549	1,443	9	391	355
	9	35	664	0	588	1,660	1,259	12	395	381
	10		700	0			815	36	321	389

資料：(A)(C)(D)(E)農林水産省生産局調査(～2010.3)、中央蚕糸協会及び日本生糸問屋協会(2010.4～2012.3)、中央蚕糸協会(2012.12～)。(B)財務省関税局調査、ただし96年1月から08年3月までの輸入は、農畜産業振興機構調査の実需者輸入分と一般者輸入分を合わせた数値。(F)(G)(H)(I)財務省関税局調査。

備考：1. 国内引渡数量(D)=[前月在庫数量+(A)+(B)]-[(C)+(E)]。
2. kgを60kg俵に換算しているため、各月の計と合計とが一致しない場合がある。
3. (D)と(E)は2012年11月までと同年12月以降調査方法が変更したため連続性はない。

Source：(A)(C)(D)(E)The Agricultural Production Bureau, Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries(～2010.3)、Central Raw Silk Association and Japan Raw Silk Dealer's Association(2010.4～2012.11)、Central Raw Silk Association(2012.12～)。

(B)The Customs Bureau, Ministry of Finance. But the figures for raw silk imports have been based on date of the Agriculture & Livestock Industries Corporation since Jan.1996 until Mar.2008, excluding bonded silk.
(F)(G)(H)(I)The Customs Bureau, Ministry of Finance.

Remarks：1. Domestic deliveries(D)=[Stock at end of the previous month+(A)+(B)]-[(C)+(E)]。
2. Monthly volume may not add up the total volume due to round off.

(8) 生糸の織度別生産数量の推移
Raw Silk Production by Sizes

(単位：60kg俵)
(Unit: Bales of 60kg)

項目 Item	生 糸 Raw Silk					
	計 Total	18デニール以下 17/19or 17/19 finer	21デニール 20/22	27デニール 26/28	31デニール 30/32	その他 Others
暦 年 Calendar Year						
2006	1,956	4	240	531	653	523
2007	1,747	5	259	495	514	474
2008	1,588	4	289	421	368	503
2009	1,152	1	243	392	251	262
2010	882	1	179	316	86	300
2011	731	1	188	249	89	204
2012	506	0	109	202	73	82
2013	409	0	109	105	57	138
2014	446	0	114	116	62	155
2015	378	0	146	86	36	110
2016	317	0	98	103	38	78
2014 -						
1	30	—	9	3	2	16
2	39	—	10	4	0	25
3	35	—	14	6	6	9
4	42	—	7	11	7	17
5	41	—	9	17	5	10
6	45	—	13	12	5	15
7	39	—	13	8	8	10
8	24	—	1	15	0	8
9	32	—	9	10	1	12
10	43	—	10	8	11	14
11	34	—	9	12	9	4
12	43	—	10	10	8	15
2015 -						
1	35	—	10	12	6	7
2	44	—	6	12	12	14
3	37	—	17	11	4	5
4	38	—	16	2	8	12
5	29	—	13	4	0	12
6	37	—	15	6	2	14
7	30	—	13	6	0	11
8	25	—	8	9	0	8
9	23	—	14	3	1	5
10	28	—	8	12	0	8
11	25	—	12	5	2	6
12	27	—	14	4	1	8
2016 -						
1	23	—	7	11	0	5
2	33	—	10	7	4	12
3	38	—	9	12	11	6
4	26	—	6	12	1	7
5	24	—	3	7	2	12
6	17	—	11	3	0	3
7	26	—	10	10	0	6
8	26	—	7	9	6	4
9	30	—	7	12	1	10
10	20	—	8	4	3	5
11	28	—	10	11	3	4
12	26	—	10	5	7	4
2017 -						
1	23	—	5	8	4	6
2	23	—	13	3	0	7
3	23	—	6	12	0	5
4	26	—	9	10	0	7
5	36	—	9	7	10	10
6	26	—	8	6	4	8
7	24	—	10	2	3	9
8	25	—	11	7	1	6
9	35	—	11	13	3	8

資 料：農林水産省生産局調査（～2010.3）。中央蚕糸協会（2010.4～）。

備 考：kgを60kg俵に換算しているため、各月の計と合計とが一致しない場合がある。

Source : The Agricultural Production Bureau, Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries（～2010.3）。Central Raw Silk Association（2010.4～）。

Remarks : Monthly volume may not add up the total volume due to round off.

(9) 絹需給の推移 (生糸量換算試算)

Silk Supply and Demand Balance (Raw Silk Value Estimation)

(単位：千俵)

(Unit: 1,000Bales of 60kg)

項目 Item 曆年 Calendar Year	供給計 Supply Total ①								需要計 Demand Total ②=①-④						期末 在庫 Ending Stocks ④	
	期初 在庫 Opening Stocks	生 産 Produc- tion	輸 入 Import					輸 出 Export				内 需 Domestic Demand ②-③				
			計 Total	生 糸 Raw Silk	絹 糸 Silk Yarn	織 物 Fabrics	二 次 The Second	計 ③ Total	生 糸 Raw Silk	絹 糸 Silk Yarn	織 物 Fabrics		二 次 The Second			
1992	460	167	85	208	26	21	60	101	308	11	—	0	7	4	297	152
1993	483	152	71	260	25	38	65	132	345	11	—	0	7	4	334	138
1994	525	138	65	322	26	37	64	195	390	10	—	0	7	3	380	135
1995	515	135	54	326	30	31	61	204	377	11	0	1	8	2	366	138
1996	507	138	43	326	35	49	62	180	374	13	0	0	9	4	361	133
1997	401	133	32	236	34	35	43	124	270	14	0	0	11	3	256	131
1998	345	131	18	196	28	23	28	117	222	13	0	0	11	2	209	123
1999	361	123	11	227	41	28	31	127	242	13	0	0	11	2	229	119
2000	376	119	9	248	39	32	28	149	263	16	0	0	14	2	247	113
2001	350	113	7	230	30	23	25	152	237	17	0	0	15	2	220	113
2002	366	113	7	246	32	28	24	162	261	18	0	0	16	2	243	105
2003	361	105	5	251	31	33	25	162	261	20	2	0	17	1	241	100
2004	353	100	4	249	26	30	25	168	268	30	11	0	18	1	238	85
2005	354	85	3	266	22	33	30	181	270	27	4	1	21	1	243	84
2006	334	84	2	248	20	32	24	172	257	22	0	1	20	1	235	77
2007	293	77	2	214	13	19	21	161	222	21	0	1	18	2	201	71
2008	276	71	2	203	15	23	20	145	213	16	0	0	15	1	197	63
2009	237	63	1	173	12	16	15	130	190	16	0	0	15	1	174	47
2010	225	47	1	177	12	16	16	133	182	16	0	0	15	1	166	43
2011	227	43	1	183	9	18	14	142	180	16	0	0	15	1	164	47
2012	230	47	1	182	10	16	14	142	184	15	0	0	14	1	169	46
2013	248	46	0	202	9	16	13	164	203	14	0	0	13	1	189	45
2014	225	45	0	180	8	15	12	145	180	14	0	0	13	1	166	45
2015	221	45	0	176	6	14	11	145	176	13	0	0	12	5	163	45
2016	239	45	0	194	7	12	14	161	194	15	0	0	9	6	179	45
前年比(%) 2016/2015	108	100	—	110	117	86	127	111	110	115	—	—	75	120	110	100

資 料：蚕糸業需給・価格動向隔月報・繊維統計月報・日本貿易月報

注) 2013年から期末在庫を45千俵とする。

Source : "Silk balance and price situation monthly", "Trade Statistics"

(10) 品目別・二次製品輸入数量 (生糸量換算試算)

Breakdown of Silk Second Products Imports (Raw Silk Value Estimation)

(単位：千俵)

(Unit: 1,000 Bales of 60kg)

項目 Item	暦年 Calendar Year	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	前年比% y/y	構成比% ratio
	布 は く 製 Product made in cloth	男子用外衣類 Men's upper garments	2.8	2.2	2.4	3.1	3.4	2.4	2.2	91.7
女子用外衣類 Women's upper garments		38.4	51.2	50.0	63.5	53.4	65.6	73.9	112.7	46.0
うちブラウス Blouse of the inside		2.4	2.0	2.2	6.0	2.9	1.2	1.0	83.3	0.6
男子用下着・寝具衣料 Men's underwear・bedding cloth		1.0	1.4	1.5	1.9	2.0	1.3	1.9	146.2	1.2
女子用下着・寝具衣料 Women's underwear・bedding cloth		13.9	15.5	15.5	20.5	21.9	18.8	20.3	108.0	12.6
ハンカチ Handkerchief		0.3	0.5	0.3	0.4	0.3	0.3	0.2	66.7	0.1
ショール、スカーフ類 Shawl, scarves		2.2	2.2	2.3	2.2	2.0	1.9	1.5	78.9	0.9
ネクタイ類 Ties		18.1	14.5	12.8	11.9	9.7	7.8	7.9	101.3	4.9
メリヤス、クロセス編物 Knit. kurose knitting		17.9	18.6	22.7	26.1	20.4	17.9	23.2	129.6	14.5
その他の洋装類 Other western clothes		21.0	20.2	19.1	18.9	17.8	15.9	15.4	96.9	9.6
洋装類計 Western clothes subtotal	115.6	126.3	126.6	148.5	130.9	131.9	146.5	111.1	91.3	
和装類計 Japanese clothes subtotal	14.5	12.5	11.8	13.0	12.2	10.3	11.5	111.7	7.2	
うち絹製の帯小物等 Silk obi accessorys of the inside	12.5	10.1	10.1	11.0	10.1	8.6	10.1	117.4	6.3	
その他 Others	2.9	3.1	3.2	2.3	1.8	2.6	2.5	96.2	1.6	
合計 Total		133.0	141.9	141.6	163.8	144.9	144.7	160.5	110.9	100.0

資料：財務省「日本貿易月報」

注)：ラウンドにより合計が一致しないことがある。

Source: The Customs Bureau, Ministry of Finance "Trade Statistics"

Note: Total may not added up due to round off.

(11) 製糸工場の原料繭需給

Balance of Cocoons as Raw Materials by Reeling Mills

(単位：生繭. t)

(Unit: Ton by fresh weight)

年 月 Year & Month	項 目 Item	総 計 Grand Total		
		受入数量 Receipts	消費数量 Put in Process	期末在庫数量 Ending Stocks
暦 年 Calendar Year				
	2007	548	581	505
	2008	393	518	378
	2009	308	385	313
	2010	240	299	263
	2011	189	162	237
	2012	185	209	183
	2013	142	137	188
	2014	128	158	158
	2015	116	159	115
	2016	115	110	120
2015 —	1	0	13	145
	2	0	14	131
	3	0	12	119
	4	0	13	106
	5	0	11	95
	6	22	13	104
	7	29	11	122
	8	14	8	128
	9	12	37	103
	10	34	9	128
	11	5	9	124
	12	0	9	115
2016 —	1	0	8	107
	2	0	11	96
	3	0	13	83
	4	0	9	74
	5	0	8	66
	6	23	6	83
	7	24	10	97
	8	10	8	99
	9	7	10	96
	10	39	8	127
	11	12	10	129
	12	0	9	120
2017 —	1	1	8	113
	2	0	9	104
	3	0	8	96
	4	1	9	88
	5	0	12	76
	6	22	9	89
	7	25	9	105
	8	12	9	108
	9	1	12	97

資 料：農林水産省生産局調査(～2010.3)。中央蚕糸協会及び(社)日本生糸問屋協会(2010.4～2012.11)。
中央蚕糸協会(2012.12～)。

備 考：1. 本表は上繭及び玉屑繭の合計である。
2. 受入数量=本月末在庫数量+消費数量-前月末在庫数量。
3. 2015年9月の消費数量は焼失分29tを含む。

Source：The Agricultural Production Bureau, Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries(～2010.3).
Central Raw Silk Association and Japan Raw Silk Dealer's Association(2010.4～2012.11).
Central Raw Silk Association (2012.12～).

Remarks：1. This table includes reelable, doupion and waste cocoons.
2. Receipts=(Ending stocks of the current month)+(put in process)-(Ending stocks of the preceding month).

(12) 製糸工場の操業状況
Activities of Reeling Mills

年 月 Year & Month	項 目 Item	運転工場数 Operating Reeling Mills	設 備 数(台) Reeling Machines		運 転 率 (%) Operating Ratio	操業日数 Days Operated	従業者数 Number of Workers
			運転可能 Operable	運 転 Operating			
暦 年 Calendar Year							
	2007	8	112	93	83	266	100
	2008	6	112	90	80	266	90
	2009	6	118	71	60	259	82
	2010	7	118	58	49	247	73
	2011	7	110	57	52	252	65
	2012	7	110	39	35	243	56
	2013	9	110	38	31	249	58
	2014	9	110	38	34	261	58
	2015	8	110	33	30	263	53
	2016	7	110	29	26	267	55
2014 -	1	6	110	38	35	20	57
	2	6	110	37	34	23	57
	3	6	110	37	34	22	57
	4	7	110	37	34	23	57
	5	7	110	37	34	22	57
	6	9	110	38	35	23	62
	7	9	110	39	35	20	62
	8	6	110	26	24	23	50
	9	7	110	38	35	19	58
	10	8	110	38	35	23	62
	11	8	110	37	34	21	62
	12	7	110	38	35	22	58
2015 -	1	7	110	37	34	20	57
	2	7	110	39	35	21	57
	3	6	110	38	35	23	61
	4	6	110	38	35	23	60
	5	7	110	37	34	20	60
	6	8	110	39	35	23	60
	7	8	110	35	32	22	60
	8	6	110	26	24	20	48
	9	6	110	23	21	23	48
	10	6	110	25	23	23	53
	11	7	110	27	25	22	53
	12	7	110	27	25	23	53
2016 -	1	7	110	25	23	19	53
	2	6	110	34	31	22	57
	3	6	110	36	33	23	57
	4	7	110	31	28	23	58
	5	6	110	21	19	21	50
	6	7	110	20	19	23	49
	7	8	110	31	28	23	63
	8	7	110	31	28	21	59
	9	7	110	30	27	23	58
	10	8	110	30	27	24	61
	11	8	110	29	26	22	61
	12	8	110	30	27	23	55
2017 -	1	7	110	33	30	19	51
	2	7	110	31	28	22	51
	3	6	110	19	17	23	42
	4	6	110	21	19	23	48
	5	7	110	33	30	23	58
	6	8	110	32	29	23	62
	7	7	110	21	19	24	52
	8	6	110	35	32	22	48
	9	7	110	38	35	23	59

資 料 : 農林水産省生産局調査(～2010.3)。中央蚕糸協会及び(社)日本生糸問屋協会(2010.4～2012.11)。
中央蚕糸協会及び(一財)大日本蚕糸会(2012.12～)。

備 考 : 1. 設備数中の運転可能及び運転台数は毎月の算術平均である。
2. 運転率は運転可能台数に対する運転台数の比率である。
3. 従業者数は期末現在の在籍従業員数である。

Source : The Agricultural Production Bureau, Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries(～2010.3).
Central Raw Silk Association and Japan Raw Silk Dealer's Association(2010.4～).
Central Raw Silk Association(2012.12～)

Remarks : 1. The number of operable and operating reeling machines is arithmetic means of monthly figures.
2. Operating ratio means ratio of operating machines in operable machines.
3. Number of workers are those on payroll as of end of period.

(13) 生糸在庫数量の内訳
Breakdown of Raw Silk Stocks

(単位：60kg俵)
(Unit: Bales of 60kg)

項目 Item	総計 Grand Total	一 般 在 庫 Stock in markets					農畜産業振興機構 Stock of Agriculture & Livestock Industries Corporation		
		計 Total	製糸工場 Filatures Mills	生糸市場 売買業者 Dealers	生糸市場外 売買業者 Domestic Dealers	生糸輸出 入業者 Ex and Importers	受入 数量 Accepts	引渡 数量 Deliveries	在庫数量 Ending Stocks
暦年 Calendar Year									
2005	8,178	8,178	721	139	7,008	310	22,017	26,142	0
2006	9,356	9,356	446	50	8,606	254	19,974	19,974	—
2007	8,080	8,080	359	20	7,358	343	12,601	12,601	—
2008	4,584	4,584	310	15	3,536	723	1,459	1,459	—
2009	4,055	4,055	355	10	3,162	528			
2010	3,329	3,329	319	—	2,354	656			
2011	2,456	2,456	288	—	1,651	517			
2012	2,180	2,180	124	—	2,056				
2013	1,712	1,712	110	—	1,602				
2014	1,653	1,653	78	—	1,575				
2015	1,410	1,410	94	—	1,316				
2016	1,406	1,406	130	—	1,276				
2015 — 1	1,747	1,747	74	—	1,673				
2	1,758	1,758	77	—	1,681				
3	1,911	1,911	80	—	1,831				
4	1,418	1,418	75	—	1,343				
5	1,550	1,550	83	—	1,467				
6	1,535	1,535	88	—	1,447				
7	1,499	1,499	89	—	1,410				
8	1,543	1,543	87	—	1,456				
9	1,488	1,488	89	—	1,399				
10	1,461	1,461	87	—	1,374				
11	1,507	1,507	79	—	1,428				
12	1,410	1,410	94	—	1,316				
2016 — 1	1,343	1,343	93	—	1,251				
2	1,364	1,364	97	—	1,267				
3	1,637	1,637	119	—	1,518				
4	1,249	1,249	116	—	1,133				
5	1,470	1,470	114	—	1,356				
6	1,394	1,394	111	—	1,283				
7	1,432	1,432	107	—	1,325				
8	1,448	1,448	111	—	1,337				
9	1,378	1,378	118	—	1,260				
10	1,428	1,428	110	—	1,318				
11	1,420	1,420	123	—	1,297				
12	1,406	1,406	130	—	1,276				
2017 — 1	1,443	1,447	129	—	1,318				
2	1,503	1,500	127	—	1,373				
3	1,636	1,634	124	—	1,510				
4	1,538	1,538	112	—	1,426				
5	1,560	1,555	123	—	1,432				
6	1,543	1,543	116	—	1,427				
7	1,511	1,510	107	—	1,403				
8	1,549	1,549	107	—	1,442				
9	1,660	1,660	119	—	1,541				

資料：農林水産省生産局調査(～2010.3)。中央蚕糸協会及び(社)日本生糸問屋協会(2010.4～2012.11)。中央蚕糸協会(2012.12～)
Source: The Agricultural Production Bureau, Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries(～2010.3).
Central Raw Silk Association and Japan Raw Silk Dealer's Association(2010.4～2012.11).
Central Raw Silk Association (2012.12～).

(14) 蚕糸関係品目別輸入状況

Breakdown of Silk-Related Products Imports

	単位 Unit	平成29年(2017)		平成22年 (2010)	平成23年 (2011)	平成24年 (2012)	平成25年 (2013)	平成26年 (2014)	平成27年 (2015)	平成28年 (2016)	28年/27年 2016/2015 (%)
		(10月) Oct.	(累計) Accumulat ed Total								
生糸・玉糸計 Raw Silk and Doupion Silk	俵 Bale s of 60kg	700	6,239	12,207	9,323	10,032	9,332	8,235	6,479	6,546	101.0
絹糸 Silk Yarn	俵 Bale s of 60kg	815	11,630	16,306	17,526	16,179	15,844	14,820	14,051	12,094	86.1
野蚕糸 Wild Raw Silk	俵 Bale s of 60kg	0	38	82	62	81	169	48	33	41	124.2
繭 Cocoon	kg	4,400	6,400	13,158	4,050	6,250	8,300	10,200	6,800	7,000	102.9
くず繭 Waste Cocoon	kg	578	6,153	9,395	10,885	6,457	13,314	11,728	8,860	4,602	51.9
その他の絹 くず Other Silk Waste	kg	1,030	52,301	134,852	98,732	107,023	92,024	101,655	89,984	53,737	59.7
絹のくず計 Silk Waste Total	kg	1,608	58,454	144,247	109,617	107,022	105,338	113,383	98,844	58,339	59.0
絹紡糸 Spun silk yarn from silk waste other than noil	kg	28,759	255,012	451,219	394,920	482,523	438,786	453,450	343,101	331,100	96.5
絹紡細糸 Spun silk yarn from noil silk	kg	19,762	100,377	104,374	118,404	140,188	152,749	141,707	148,796	121,788	81.8
絹織物 Silk Fabrics	m ²	321,480	4,013,972	8,930,391	8,422,094	7,218,094	6,661,585	6,097,501	5,468,177	5,206,131	95.2

資料：財務省関税局

備考：絹ノイルと真綿の統計は、平成21年1月より廃止された。

Source: The Customs Bureau, Ministry of Finance

(15) 生糸の原産国別輸入数量
Raw Silk Imports

(単位：60kg 俵)
(Unit: Bales of 60kg)

国名 Country	計 Total	中国 China	ブラジル Brazil	ベトナム Vietnam	タイ Thailand	その他 Others
年 月 Year & Month						
暦年 Calendar Year						
2007	12,858	8,804	3,848	-	206	-
2008	15,242 (137)	10,969 (102)	4,152 (35)	-	122	-
2009	12,085 (72)	8,170 (51)	3,855 (21)	-	41	-
2010	12,209 (65)	8,411 (40)	3,706 (25)	-	32	-
2011	9,323 (63)	7,170 (32)	2,136 (30)	-	5	-
2012	10,032 (49)	8,628 (36)	1,403 (13)	-	-	-
2013	9,332 (98)	8,047 (59)	1,275 (34)	10 (5)	-	-
2014	8,241 (90)	7,001 (75)	1,143 (15)	70	7	20
2015	6,479 (58)	5,569 (49)	887 (9)	20	2	-
2016	6,546 (52)	5,378 (44)	1,142 (8)	24	2	-
2015 - 1	722	510	212	-	-	-
2	614 (2)	589 (2)	15	10	-	-
3	802 (2)	769	33 (2)	-	-	-
4	-	-	-	-	-	-
5	822 (3)	689 (3)	133	-	-	-
6	628 (23)	572 (23)	47	10	-	-
7	572 (15)	534 (10)	36 (5)	-	2	-
8	467 (6)	417 (6)	50	-	-	-
9	479	364	115	-	-	-
10	462 (6)	366 (6)	96	-	-	-
11	530 (2)	444	86 (2)	-	-	-
12	380	315	65	-	-	-
2016 - 1	423 (10)	299 (10)	124	-	-	-
2	595	493	102 (3)	-	-	-
3	636	596	40	-	-	-
4	-	-	-	-	-	-
5	726 (15)	557 (15)	167	-	2	-
6	555 (10)	503 (5)	52 (5)	-	-	-
7	642 (7)	523 (7)	118	1	-	-
8	589	499	88	2	-	-
9	520 (5)	447 (5)	73	-	-	-
10	602 (2)	442 (2)	160	-	-	-
11	664	599 (10)	64	-	-	-
12	596	421	154	21	-	-
2017 - 1	552 (7)	453 (7)	99	-	-	-
2	509 (8)	443 (8)	66	-	-	-
3	805	636	137	30	2	-
4	-	-	-	-	-	-
5	997 (9)	708 (8)	289 (0)	-	-	-
6	735 (5)	591 (5)	117	27	-	-
7	437 (1)	321	85 (1)	32	-	-
8	839 (8)	653 (6)	186 (2)	-	-	-
9	664 (4)	584 (4)	81	-	-	-
10	700 (17)	603 (17)	94	3	-	1

資料：財務省関税局調査

備考：1. kgを60kg俵単位に換算してあるので、国別の計と合計が一致しない場合がある。
2. () 書きは、玉糸の輸入数量で内数である。

Source：The Customs Bureau, Ministry of Finance.

Remarks：1. Country volume may not add up the total volume due to round off.

2. Figures in parenthesis indicate the break down for dupion silk imports.

(16) 絹糸の原産国別輸入数量
Silk Yarn Imports

(単位：60kg俵)
(Unit: Bales of 60kg)

年月 Year & Month	国名 Country	計 Total	韓 国 S Korea	中 国 China	ベトナム Vietnam	イタリア Italy	アメリカ USA	ブラジル Brazil	その他 Others
暦 年 Calendar Year									
2008		22,636	143	12,513	6,865	12	—	3,204	12
2009		16,647	—	9,656	5,096	12	—	1,742	137
2010		16,306	—	9,675	4,161	16	—	1,716	205
2011		17,526	—	10,384	5,129	7	—	1,131	212
2012		16,179	—	9,924	4,908	15	—	1,109	223
2013		15,844	—	9,148	5,783	33	—	878	3
2014		14,820	—	8,190	5,733	8	—	867	22
2015		14,051	—	7,928	5,586	4	0	531	2
2016		12,094	—	7,289	4,074	16	0	711	4
2015 —	1	1,422	—	788	529	—	—	105	—
	2	1,045	—	573	461	0	0	11	—
	3	693	—	405	268	—	0	21	—
	4	1,165	—	745	332	—	—	87	1
	5	1,591	—	951	610	—	—	31	—
	6	1,293	—	679	564	1	0	48	—
	7	1,283	—	697	568	—	—	17	—
	8	1,238	—	732	490	—	—	15	1
	9	1,152	—	692	401	—	—	59	—
	10	1,161	—	528	594	—	—	39	—
	11	1,024	—	536	431	1	—	56	0
	12	983	—	601	339	2	—	41	—
2016 —	1	1,101	—	564	476	—	—	62	—
	2	797	—	468	292	0	0	35	2
	3	911	—	579	289	—	—	42	—
	4	1,047	—	659	357	—	—	30	1
	5	900	—	538	255	4	—	102	—
	6	1,295	—	802	442	—	—	51	—
	7	1,072	—	573	423	—	—	76	—
	8	967	—	566	332	—	—	69	—
	9	946	—	598	294	2	—	51	—
	10	862	—	548	250	—	—	62	2
	11	1,161	—	783	295	7	0	76	—
	12	1,035	—	610	368	1	—	55	—
2017 —	1	1,314	—	931	326	2	—	54	—
	2	535	—	199	307	3	—	26	—
	3	1,376	—	725	540	0	—	111	—
	4	1,255	—	630	595	—	—	30	—
	5	1,389	—	844	423	—	0	121	—
	6	1,285	—	821	397	—	—	67	—
	7	960	—	493	426	0	—	40	—
	8	1,443	—	795	534	1	—	112	—
	9	1,259	—	838	371	—	—	50	0
	10	815	—	459	313	2	0	41	—

資 料：財務省関税局調査。

備 考：kgを60kg俵単位に換算してあるので、国別の計と合計が一致しない場合がある。

Source : The Customs Bureau, Ministry of Finance.

Remarks : Country volume may not add up the total volume due to round off.

(17) 生糸・絹糸の主要輸入国からの輸入数量と単価

Raw Silk and Silk Yarn Imports in Major Countries

単位：俵、円/Kg
Unit: bale of 60kg, yen/kg

項目 Item	輸入生糸（通関ベース） Raw Silk Imprt				輸入絹糸（通関ベース） Silk Yarn Import					
	中国 China		ブラジル Brazil		中国 China		ブラジル Brazil		ベトナム Vietnam	
	俵 bales	単価 a unit price	俵 bales	単価 a unit price	俵 bales	単価 a unit price	俵 bales	単価 a unit price	俵 bales	単価 a unit price
暦年 Calendar Year										
2000	30,147	2,655	11,772	3,340	13,769	2,789	5,712	3,543	6,255	3,168
2005	17,327	2,638	5,308	2,903	18,977	3,105	5,767	3,301	7,550	2,933
2006	14,739	3,736	6,181	4,188	17,019	4,172	5,675	4,543	8,706	3,643
2007	8,793	3,321	3,846	3,778	11,726	3,586	2,930	4,305	4,744	3,972
2008	12,190	3,104	4,153	3,490	12,627	3,361	3,204	3,989	6,865	3,220
2009	8,120	2,740	3,965	3,059	9,656	2,840	1,742	3,611	5,116	3,034
2010	8,411	3,667	3,706	3,773	9,675	3,730	1,706	4,161	4,606	3,411
2011	7,170	4,469	2,136	5,492	10,384	4,707	1,722	5,398	5,429	4,402
2012	8,628	4,293	1,404	5,290	9,924	4,383	1,110	6,078	4,908	4,493
2013	8,047	5,954	1,275	7,420	9,148	6,150	878	8,409	5,783	6,091
2014	6,925	6,449	1,127	8,362	8,190	6,609	867	9,480	5,743	6,794
2015	5,520	6,803	879	8,199	7,928	6,908	531	9,261	5,586	7,283
2016	5,334	5,614	1,134	6,164	7,289	5,764	711	6,654	4,074	5,946
2015 -										
1	510	6,969	212	8,872	788	7,186	105	10,172	529	7,406
2	587	6,961	15	9,151	573	6,820	11	10,531	461	7,339
3	769	6,896	31	8,760	405	7,053	21	9,943	268	7,931
4	-	-	-	-	745	7,049	87	9,508	332	7,773
5	686	6,836	133	8,493	951	6,794	31	9,392	610	7,325
6	549	6,983	47	8,388	679	7,044	48	9,397	564	7,224
7	524	6,801	31	8,836	697	7,053	17	9,483	568	7,673
8	412	7,056	50	8,072	732	6,853	15	9,407	490	7,285
9	364	6,760	115	7,593	692	6,854	59	8,577	401	7,007
10	360	6,381	96	7,553	528	6,625	39	8,424	594	6,948
11	444	6,338	84	7,827	536	6,825	56	8,506	431	6,872
12	315	6,496	65	7,091	601	6,665	41	8,132	339	6,821
2016 -										
1	289	6,176	124	6,937	564	6,281	62	7,798	476	6,358
2	493	6,000	99	7,188	468	6,279	35	7,786	292	6,422
3	596	5,838	40	5,973	579	5,969	42	7,248	289	6,056
4	-	-	-	-	659	5,668	30	6,711	357	6,090
5	542	5,541	167	6,027	538	5,636	102	6,759	255	5,730
6	498	5,497	47	5,933	802	5,641	51	6,361	442	5,777
7	516	5,332	118	5,566	573	5,360	76	6,157	423	5,419
8	499	5,370	88	5,194	566	5,549	69	6,104	332	5,340
9	442	5,217	73	5,565	598	5,395	51	6,087	294	5,636
10	440	5,276	160	6,069	548	5,420	62	6,122	250	5,883
11	599	5,575	64	5,460	783	5,716	76	6,425	295	6,101
12	421	6,156	154	6,884	610	6,382	55	7,049	368	6,480
2017 -										
1	446	6,355	99	6,513	931	6,657	54	7,305	326	6,623
2	435	5,944	66	6,352	199	6,385	26	7,265	307	6,541
3	636	6,287	137	6,509	725	6,585	111	7,301	540	6,641
4	-	-	-	-	630	6,213	30	6,987	595	6,115
5	700	6,219	288	6,363	844	6,551	121	7,397	423	6,382
6	586	6,234	117	6,654	821	6,398	67	7,331	397	6,364
7	321	6,457	84	6,742	493	6,743	40	7,527	426	6,781
8	647	6,313	184	6,645	795	6,611	112	7,221	534	6,577
9	580	6,629	81	6,485	838	6,760	50	7,240	371	6,703
10	586	6,996	94	6,847	459	7,011	41	7,433	313	6,907

資料：財務省調査。通関統計による、単価はC I F価格である。

Source : The customs Bureau, Ministry of Finance

Remarks : A unit price is CIF price.

(18) 絹織物生産数量

Production of Silk Fabrics

(単位 : 1,000㎡)
(Unit : 1,000sq. meters)

品 種 Type of Fabrics	総 数 Grand Total	絹・絹紡織物 Silk and Spun Silk Fabrics							
		広 巾 織 物 Double Width				小 巾 織 物 Single Width			その他の 後練(後染) Other Piece Dyed Silk Fabrics
		計 Total	羽二重類 Habutae	クレープ類 Crepe	先 練 (先染) Dyed Yarn	計 Total	ちりめん類 Silk crape	先 練 (先染) Dyed Yarn	
年 月 Year & Month									
暦 年 Calendar Year									
2010	3,611	1,379	871	66	442	1,538	630	908	694
2011	3,152	1,438	786	62	591	1,003	562	441	711
2012	2,912	1,357	738	54	565	879	429	449	677
2013	2,940	1,428	813	46	569	809	397	412	703
2014	2,734	1,441	803	40	599	665	298	367	628
2015	2,316	1,228	664	35	529	630	283	347	458
2016	2,243	1,191	620	38	533	603	266	337	449
2014 —									
1	226	120	67	3	50	51	23	28	55
2	236	121	68	3	50	57	25	32	58
3	240	125	75	4	46	57	26	31	58
4	244	125	73	4	48	61	29	32	58
5	249	134	70	4	61	57	24	33	57
6	252	137	72	4	61	57	25	32	58
7	238	125	67	3	55	55	24	31	57
8	195	104	63	3	38	47	20	27	43
9	207	111	66	3	43	53	24	29	43
10	222	112	63	3	45	58	27	31	52
11	212	112	61	3	48	56	26	31	44
12	214	113	57	3	53	56	26	30	45
2015 —									
1	191	98	60	3	36	52	22	30	41
2	182	86	57	2	27	53	25	29	43
3	192	94	60	3	31	57	27	30	41
4	208	110	57	2	51	58	29	29	40
5	182	99	52	3	43	50	22	28	33
6	217	121	57	3	61	54	24	30	42
7	206	111	53	3	54	55	23	33	40
8	161	84	54	3	28	44	20	24	32
9	183	99	53	3	43	49	23	26	36
10	198	105	56	3	45	54	24	30	40
11	193	106	52	3	52	52	23	29	35
12	200	115	52	3	59	50	21	29	36
2016 —									
1	172	94	54	3	37	44	18	26	34
2	173	85	53	3	30	51	24	28	37
3	190	99	56	3	39	52	23	29	39
4	214	117	53	3	61	58	24	34	39
5	204	117	52	3	61	51	20	31	36
6	213	114	53	3	58	54	25	29	45
7	181	89	50	4	35	50	23	28	41
8	160	81	48	3	30	45	21	24	35
9	171	87	49	3	35	49	22	27	35
10	187	98	50	3	45	52	23	29	37
11	190	104	52	3	49	50	23	27	36
12	188	106	50	3	53	47	21	25	35
2017 —									
1	161	86	49	4	38	43	19	24	32
2	171	85	52	4	29	49	24	25	37
3	186	96	56	4	36	51	23	28	39
4	187	99	53	4	42	51	24	27	37
5	182	100	51	4	45	50	22	27	33
6	205	113	53	4	55	54	25	29	38
7	182	102	56	5	41	48	22	25	32
8	162	88	51	4	33	43	20	24	31
9	168	87	53	5	29	48	22	26	34

資 料 : (一社) 日本絹人織織物工業会。

備 考 : 絹紡と交織を含む。単位以下四捨五入。

Source : Japan Silk & Rayon Weaver's Association.

Remarks : Spun and mixed fabrics included .

Fractions of 0.5 and over counted as a whole number and the rest disregarded.

(19)丹後・長浜・西陣の絹織物生産数量

Production of Silk Fabrics in Tango, Nagahama and Nishijin

項目 Item	絹織物生産数量 Silk Fabrics Production		丹後 Tango (白生地) (White Fabrics)		長浜 Nagahama (白生地) (White Fabrics)		西陣 Nishijin (帯) (Sash)	
	数量 Quantity (千㎡) (1,000㎡)	前年(月)比 Ratio to previous year	生産数量 Production (反) (Roll)	前年(月)比 Ratio to previous year	生産数量 Production (反) (Roll)	前年(月)比 Ratio to previous year	推定出荷数量 Estimated Shipments (本)	前年(月)比 Ratio to previous year
暦年 Calendar Year								
2006	18,504	93.4	912,027	86.2	132,448	78.1	598,040	86.4
2007	15,466	83.6	712,560	78.1	97,204	73.0	977,719	163.5
2008	14,043	90.8	656,919	92.2	88,401	90.8	867,490	88.7
2009	9,955	70.9	503,365	76.6	73,681	84.0	746,538	86.1
2010	3,611	36.3	515,721	102.5	84,023	110.0	859,244	115.1
2011	3,152	87.3	475,989	92.3	70,803	84.3	692,943	80.6
2012	2,912	92.4	451,503	94.9	62,910	88.9	645,679	92.9
2013	2,940	101.0	433,451	96.0	55,792	88.7	630,586	97.7
2014	2,734	93.0	400,192	92.3	53,174	95.3	600,917	95.3
2015	2,313	84.6	351,309	87.8	41,893	78.8	526,417	87.6
2016	2,243	97.0	310,271	88.3	38,063	90.9	488,144	92.7
2014 —								
1	226	94.6	24,533	98.0	4,530	101.7	50,063	91.7
2	236	97.5	38,740	92.4	4,396	94.9	54,843	105.0
3	240	96.8	33,931	91.4	4,903	113.9	62,781	112.6
4	244	94.6	34,069	87.6	4,841	88.1	53,582	86.7
5	249	101.2	33,576	96.2	4,241	88.5	50,515	84.8
6	252	98.4	36,794	90.0	4,980	106.1	47,469	96.3
7	238	90.5	33,951	92.5	4,374	87.1	47,632	103.3
8	195	93.3	30,098	98.0	3,355	94.1	42,905	99.4
9	207	95.0	34,688	88.8	4,908	98.7	50,566	108.9
10	222	85.7	31,587	98.2	4,417	89.1	50,476	94.3
11	212	84.5	35,611	90.5	4,179	100.2	44,217	77.8
12	214	85.6	32,614	88.9	4,050	85.7	45,868	88.6
2015 —								
1	191	84.5	23,759	96.8	3,624	80.0	47,602	95.1
2	182	77.1	34,789	89.8	3,895	88.6	43,469	79.3
3	192	80.0	31,168	91.9	4,472	91.2	49,386	78.7
4	208	85.2	31,316	91.9	4,117	85.0	50,797	94.8
5	182	73.1	29,814	88.8	3,105	73.2	43,367	85.8
6	217	86.1	31,254	84.9	4,011	80.5	41,884	88.2
7	206	86.6	28,297	83.3	3,545	81.0	45,889	96.3
8	161	82.6	27,192	90.3	3,122	93.1	34,886	81.3
9	183	88.4	28,540	82.3	3,270	66.6	43,982	87.0
10	198	89.2	28,745	91.0	2,808	63.6	44,298	87.8
11	193	91.0	30,007	84.3	3,138	75.1	37,921	85.8
12	200	93.5	26,428	81.0	2,786	68.8	43,936	95.8
2016 —								
1	172	90.1	22,012	92.6	2,707	74.7	39,031	82.0
2	172	94.5	28,277	81.3	3,482	89.4	44,351	102.0
3	190	99.0	25,517	81.9	3,284	73.4	49,298	99.8
4	214	102.9	29,177	93.2	3,167	76.9	47,090	92.7
5	204	112.1	24,051	80.7	3,228	104.0	43,230	99.7
6	213	98.2	26,552	85.0	3,393	84.6	43,263	103.3
7	181	87.9	26,799	94.7	3,169	89.4	36,125	78.7
8	161	100.0	21,611	79.5	3,302	105.8	32,724	93.8
9	171	93.4	26,624	93.3	3,175	97.1	36,533	83.1
10	187	94.4	26,625	92.6	3,356	119.5	38,158	86.1
11	190	98.4	24,839	82.8	3,244	103.4	39,561	104.3
12	188	94.0	28,187	106.7	2,556	91.7	38,780	88.3
2017 —								
1	161	93.6	19,191	87.2	2,721	100.5	40,302	103.3
2	171	99.4	25,321	89.5	2,680	77.0	37,708	85.0
3	186	97.9	23,533	92.2	3,134	95.4	42,381	86.0
4	187	87.4	28,368	97.2	3,153	99.6	42,281	89.8
5	182	89.2	22,784	94.7	3,158	97.8	43,917	101.6
6	205	96.2	28,370	106.8	3,096	91.2	43,127	99.7
7	182	100.6	26,213	97.8	3,217	101.5	35,048	97.0
8	162	100.6	19,448	90.0	2,652	80.3	30,977	94.7
9	168	98.2	26,458	99.4	3,039	95.7	39,274	107.5
10			25,167	94.5	3,164	94.3		
11			23,926	96.3	3,049	94.0		

資料：絹織物生産数量は(一社)日本絹人織織物工業会調査。主要3産地の生産量、出荷数量は各産地組合の発表による。

備考：1. 2006年1月以降の西陣の帯生産数量には、帯裏地等を含む。

2. 2009年から調査対象が変更された。

Source : Japan Silk & Rayon Weaver's Association

Remarks : Since Jan. 2006, sash linings are included in sash production.

(20) 全国全世帯被服類品目別消費支出状況

Consumption Expenditures of Total Households

項目 Item	消費支出総額 Total		被服及び履物 Clothing & footwear		和服 Japanese clothing		洋服 Clothing		シャツ・セーター Shirts & sweaters		下着類 Underwear	
	(円) Yen	前年比 (%)	(円) Yen	前年比 (%)	(円) Yen	前年比 (%)	(円) Yen	前年比 (%)	(円) Yen	前年比 (%)	(円) Yen	前年比 (%)
暦年 Calendar Year												
2006	294,943	▲ 2.0	12,776	▲ 1.0	342	▲ 7.8	5,007	▲ 2.6	2,694	▲ 0.9	1,184	3.9
2007	297,782	1.0	12,933	1.2	345	0.9	5,066	1.2	2,727	1.2	1,164	▲ 1.7
2008	296,932	▲ 0.3	12,523	▲ 3.2	299	▲ 13.3	4,890	▲ 3.5	2,598	▲ 4.7	1,133	▲ 2.7
2009	291,737	▲ 1.7	11,994	▲ 4.2	261	▲ 12.7	4,622	▲ 5.5	2,468	▲ 5.0	1,098	▲ 3.1
2010	290,244	▲ 0.5	11,499	▲ 4.1	245	▲ 6.1	4,459	▲ 3.5	2,353	▲ 4.7	1,069	▲ 2.6
2011	282,966	▲ 2.5	11,382	▲ 1.0	270	10.2	4,273	▲ 4.2	2,403	2.1	1,100	2.9
2012	286,169	1.1	11,453	0.6	246	▲ 8.9	4,305	0.7	2,410	0.3	1,087	▲ 1.2
2013	290,455	1.5	11,756	2.6	177	▲ 28.3	4,583	6.4	2,504	3.9	1,066	▲ 2.0
2014	291,194	0.3	11,983	1.9	227	28.3	4,617	0.7	2,518	0.6	1,097	3.0
2015	287,374	▲ 1.3	11,363	▲ 5.2	165	▲ 27.0	4,451	▲ 3.6	2,389	▲ 5.1	994	▲ 9.4
2016	282,188	▲ 1.8	10,878	▲ 4.3	128	▲ 22.8	4,225	▲ 5.1	2,283	▲ 4.5	1,006	1.2
2015 - 1	289,847	▲ 2.4	12,881	▲ 12.6	188	▲ 70.3	5,921	▲ 7.8	2,332	▲ 18.7	1,102	0.2
2	265,632	▲ 0.4	8,788	4.8	117	6.4	3,885	8.7	1,711	15.3	610	▲ 8.3
3	317,579	▲ 8.1	13,185	▲ 11.8	104	▲ 38.1	6,179	▲ 8.0	2,341	▲ 7.6	810	▲ 30.5
4	300,480	▲ 0.5	12,493	10.5	155	96.2	4,759	9.9	2,532	2.3	881	1.7
5	286,433	5.5	12,499	2.9	101	▲ 57.6	4,191	6.8	2,975	2.1	1,127	▲ 0.5
6	268,652	▲ 1.5	10,737	▲ 11.6	155	▲ 51.9	3,603	▲ 12.8	2,750	▲ 1.3	987	▲ 16.6
7	280,471	0.1	11,552	2.6	144	▲ 59.1	4,135	13.0	2,923	▲ 1.5	1,103	▲ 7.0
8	291,156	3.2	8,996	▲ 3.3	179	▲ 20.8	2,890	▲ 6.9	2,058	▲ 4.1	977	▲ 0.4
9	274,309	▲ 0.3	9,269	1.0	288	70.4	3,310	3.5	2,082	▲ 3.3	805	▲ 0.5
10	282,401	▲ 2.1	11,468	▲ 4.3	179	▲ 19.0	4,481	▲ 3.6	2,459	▲ 4.3	1,008	▲ 4.3
11	273,268	▲ 2.5	12,390	▲ 12.2	351	195.0	5,116	▲ 14.1	2,291	▲ 16.6	1,160	▲ 12.4
12	318,254	▲ 4.2	12,099	▲ 15.3	22	▲ 73.2	4,938	▲ 13.9	2,214	▲ 14.0	1,356	▲ 20.3
2016 - 1	280,973	▲ 3.1	12,332	▲ 4.3	42	▲ 77.7	5,401	▲ 8.8	2,374	1.8	1,137	3.2
2	269,774	1.6	8,435	▲ 4.0	63	▲ 46.2	3,755	▲ 3.3	1,495	▲ 12.6	669	9.7
3	300,889	▲ 5.3	11,815	▲ 10.4	129	24.0	5,509	▲ 10.8	1,997	▲ 14.7	752	▲ 7.2
4	298,520	▲ 0.7	11,452	▲ 8.3	130	▲ 16.1	4,232	▲ 11.1	2,486	▲ 1.8	866	▲ 1.7
5	281,827	▲ 1.6	13,167	5.3	317	213.9	4,653	11.0	3,057	2.8	1,151	2.1
6	261,452	▲ 2.7	10,717	▲ 0.2	194	25.2	3,523	▲ 2.2	2,717	▲ 1.2	1,001	1.4
7	278,067	▲ 0.9	10,995	▲ 4.8	149	3.5	3,781	▲ 8.6	2,724	▲ 6.8	1,223	10.9
8	276,338	▲ 5.1	8,024	▲ 10.8	100	▲ 44.1	2,693	▲ 6.8	1,923	▲ 6.6	876	▲ 10.3
9	267,119	▲ 2.6	8,129	▲ 12.3	86	▲ 70.1	2,919	▲ 11.8	1,791	▲ 14.0	752	▲ 6.6
10	281,961	▲ 0.2	11,581	1.0	63	▲ 64.8	4,658	4.0	2,493	1.4	1,021	1.3
11	270,848	▲ 0.9	11,860	▲ 4.3	69	▲ 80.3	4,748	▲ 7.2	2,186	▲ 4.6	1,309	12.8
12	318,488	0.1	12,025	▲ 0.6	189	759.1	4,822	▲ 2.3	2,147	▲ 3.0	1,317	▲ 2.9
2017 - 1	279,249	▲ 0.6	12,730	3.2	88	109.5	5,754	6.5	2,376	0.1	1,071	▲ 5.8
2	260,644	▲ 3.4	8,092	▲ 4.1	239	279.4	3,459	▲ 7.9	1,467	▲ 1.9	594	▲ 11.2
3	297,942	▲ 1.0	12,149	2.8	492	281.4	5,711	3.7	1,908	▲ 4.5	733	▲ 2.5
4	295,929	▲ 0.9	11,639	1.6	131	0.8	4,174	▲ 1.4	2,567	3.3	904	4.4
5	283,056	0.4	11,451	▲ 13.0	142	▲ 55.2	3,933	▲ 15.5	2,670	▲ 12.7	1,079	▲ 6.3
6	268,802	2.8	9,897	▲ 7.7	275	41.8	3,277	▲ 7.0	2,361	▲ 13.1	929	▲ 7.2
7	279,197	0.4	11,687	6.3	588	294.6	3,957	4.7	2,740	0.6	1,249	2.1
8	280,320	1.4	7,924	▲ 1.2	51	▲ 49.0	2,525	▲ 6.2	1,814	▲ 5.7	816	▲ 6.8
9	268,802	0.6	8,315	2.3	156	81.4	2,942	0.8	1,783	▲ 0.4	792	5.3
10	282,872	0.3	11,306	▲ 2.4	19	▲ 69.8	4,656	▲ 0.0	2,327	▲ 6.7	1,042	2.1

資料:総務省統計局「家計調査報告」。2人以上で構成される8,000世帯を集計。

備考:「被服及び履物」は右に並ぶ内訳4項目以外の費目も含む。年数値は月平均。

Source:Family Income and Expenditure Survey by Statistics Bureau, MIC.

Added up 8,000 two-or-more-person households.

Remarks:Clothing&footwear includes japanese clothing ,clothing ,shirts&sweaters and other items.

Year value is mean of the each month

—資料・海外—

(1)世界主要国の家蚕繭生産数量

Domesticated Silkworm Cocoon Production in Major Countries

区 分		2010年	2011年	2012年
		トン	トン	トン
日本	Japan	265	220	202
中国	China	621,000	661,000	655,000
インド	India	131,924	139,871	144,434
ウズベキスタン	Uzbekistan	23,942	24,667	25,012
イラン	Iran	9,780	10,208	10,637
タイ	Thailand	4,650	4,580	4,580
ブラジル	Brazil	4,439	3,037	2,620
ベトナム	Vietnam	2,570	2,500	2,500
北朝鮮	North Korea	1,016	900	900
トルコ	Turkey	126	151	134
ブルガリア	Bulgaria	75	48	73
インドネシア	Indonesia	161	143	143
シリア	Syria	3.0	5	6.0
主要国の計	Total	799,951	847,330	846,241

区 分		2013年	2014年	2015年
		トン	トン	トン
日本	Japan	168	149	135
中国	China	643,000	641,000	628,000
インド	India	142,487	164,538	157,524
ウズベキスタン	Uzbekistan	26,455	25,000	27,237
イラン	Iran	11,065	11,493	12,538
タイ	Thailand	4,755	4,839	4,881
ブラジル	Brazil	2,608	2,563	2,544
ベトナム	Vietnam	2,500	2,495	2,515
北朝鮮	North Korea	900	857	937
トルコ	Turkey	121	80	75
ブルガリア	Bulgaria	73	65	65
インドネシア	Indonesia	114	71	57
シリア	Syria	5.0	5.0	3.0
主要国の計	Total	834,251	853,155	836,511

注1 日本は(一財)大日本蚕糸会、中国は中国絲綢(シルク)協会、インドはインド繊維省中央蚕糸局(CSB)、ブラジルはブラジル製糸協会(ABRASSEDA)の統計値をそれぞれ使用、それ以外の国は国際養蚕委員会(ISC)及びFAOの統計値を使用した。

注2 生糸生産量からの推計を含む。

Note:1 Figures of Japan are based on the data of the Dainippon Silk Foundation.

Figures of China are based on the data of the China Silk Association.

Figures of India are based on the data of the Central Silk Board (CSB), Ministry of Textiles in India.

Figures of Brazil are based on the data of the Brazil Filature Association (ABRASSEDA).

Others than these countries, based on the data of International Sericulture Commission (ISC).

2 As the figures of Vietnam (since 2004) is not reported, that is taken as the same amount as previous year because that constitute high proportion of total.

(2)世界主要国の家蚕生糸生産数量

Domesticated Raw Silk Production in Major Countries

区 分		2010年		2011年		2012年	
		トン	俵	トン	俵	トン	俵
日本	Japan	53	882	44	731	30	506
中国	China	96,000	1,600,000	104,000	1,733,333	126,000	2,100,000
インド	India	16,360	272,667	18,272	304,533	18,715	311,917
ウズベキスタン	Uzbekistan	940	15,667	940	15,667	940	15,667
タイ	Thailand	665	11,083	655	10,917	655	10,917
ブラジル	Brazil	770	12,833	558	9,300	440	7,333
ベトナム	Vietnam	460	7,667	448	7,467	448	7,467
イラン	Iran	75	1,250	120	2,000	123	2,050
北朝鮮	North Korea	102	1,700	90	1,500	90	1,500
トルコ	Turkey	18	300	22	367	19	317
インドネシア	Indonesia	20	333	20	333	20	333
ブルガリア	Bulgaria	9.2	153	5.9	98	9.0	150
シリア	Syria	0.6	10	0.5	8	0.5	8
主要国の計	Total	115,473	1,924,545	125,175	2,086,254	147,490	2,458,164

区 分		2013年		2014年		2015年	
		トン	俵	トン	俵	トン	俵
日本	Japan	25	409	27	446	23	378
中国	China	125,000	2,083,333	125,000	2,083,333	122,000	2,033,333
インド	India	19,476	324,600	21,390	356,500	20,474	341,233
ウズベキスタン	Uzbekistan	980	16,333	1,100	18,333	1,200	20,000
タイ	Thailand	680	11,333	692	11,533	698	11,633
ブラジル	Brazil	440	7,333	433	7,217	463	7,717
ベトナム	Vietnam	448	7,467	447	7,450	450	7,500
イラン	Iran	123	2,050	110	1,833	120	2,000
北朝鮮	North Korea	90	1,500	86	1,433	94	1,567
トルコ	Turkey	17	283	11	183	11	183
インドネシア	Indonesia	16	267	10	167	8	133
ブルガリア	Bulgaria	9.0	150	8	133	8	133
シリア	Syria	0.7	12	0.5	8	0.3	5
主要国の計	Total	147,305	2,455,071	149,315	2,488,571	145,549	2,425,816

注1 日本は(一財)大日本蚕糸会、中国は中国絲綢(シルク)協会、インドはインド繊維省中央蚕糸局(CSB)、ブラジルはブラジル製糸協会(ABRASSEDA)の統計値をそれぞれ使用、それ以外の国は国際養蚕委員会(ISC)及びFAOの統計値を使用した。

Note:1 Figures of Japan are based on the data of the Dainippon Silk Foundation.

Figures of China are based on the data of the China Silk Association.

Figures of India are based on the data of the Central Silk Board (CSB), Ministry of Textiles in India.

Figures of Brazil are based on the data of the Brazil Filature Association (ABRASSEDA).

Others than these countries, based on the data of International Sericulture Commission (ISC).

(3)中国省別家蚕繭生産数量・生糸生産数量

Domesticated Cocoon Production, Raw Silk Production, and Number of Filatures in China

省 Province	区分	家蚕繭生産量 Domesticated Cocoon Production (トン、%)(MT, %)				生糸生産量 Raw silk Production (トン、%)(MT, %)			
		2011	2012	2013	2014	2011	2012	2013	2014
山 西	Shanxi	6,675	6,001	4,945	4,872	64	55	65	61
河 北	Hebei								
遼 寧	Liaoning					4,184	2,463	2,310	4,504
江 蘇	Jiangsu	65,618	66,537	54,501	52,645	13,003	19,493	20,949	29,738
浙 江	Zhejiang	50,885	46,728	45,256	38,442	5,748	6,688	14,293	15,505
安 徽	Anhui	25,185	21,601	18,286	16,488	5,040	8,139	8,909	9,101
江 西	Jiangxi	9,179	9,216	9,121	9,072		3,021	4,653	6,225
山 東	Shandong	20,000	22,000	21,200	20,800	3,613	5,452	4,949	3,414
河 南	Henan	10,023	10,003	9,608	7,984			1,972	2,160
湖 北	Hubei	17,300	16,850	16,550	16,450	437	572	1,007	1,683
湖 南	Hunan	2,596	2,336	2,595	2,988				
広 東	Guangdong	75,066	45,000	36,523	35,659	1,183	1,548	1,726	2,312
広 西	Guangxi	231,005	256,000	271,000	279,500	8,312	27,834	35,425	40,645
重 慶	Chongqing	17,144	16,716	15,711	15,733	3,811	3,402	3,653	4,730
四 川	Sichuan	74,008	74,600	76,000	77,000	27,742	27,268	29,065	38,096
貴 州	Guizhou	2,410	2,226	2,226	2,161	182	128	234	291
雲 南	Yunnan	40,000	43,000	44,648	46,016	2,108	2,777	2,814	3,433
陝 西	Shaanxi	17,999	11,080	12,014	12,500	4,391	4,642	5,067	5,386
甘 肅	Gansu	373	385	364	348				
寧 夏	Ningxia	575	610	826	578				
新 疆	Xinjiang	100	150	100	100				
内 蒙 古	Inner Mongolia								
合 計	Total	667,240	654,990	643,024	641,006	79,817	113,478	137,090	167,284

資料：中国絲綢年鑑による

注：合計はラウンドの関係で一致していない。

Source: China Silk Association

Note: Total may not add up due to round off.

(4) 中国省別家蚕繭生産数量の推移

Domesticated Cocoon Production in China

(単位：万トン) (Unit: 10,000ton)

地域	Area	2000年	2001年	2002年	2003年	2004年	2005年	2006年	2007年	2008年	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年
北 京	Beijing																
天 津	Tianjin																
河 北	Hebei	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.0
山 西	Shanxi	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	0.5	0.5	0.6	0.5	0.5	0.6	0.6	0.6	0.6	0.6
内 蒙 古	Inner Mongolia																
遼 寧	Liaoning														0.0	0.0	0.0
吉 林	Jilin																
黒 龍 江	Heilongjiang																
上 海	Shanghai																
江 蘇	Jiangsu	9.0	10.1	11.9	10.7	11.7	10.6	12.3	11.2	9.9	7.9	7.9	7.1	6.8	5.9	5.7	5.0
浙 江	Zhejiang	9.5	11.0	9.9	7.9	8.4	8.5	9.6	9.6	8.2	6.8	6.4	6.5	6.1	5.5	4.7	4.0
安 徽	Anhui	2.5	2.7	2.8	2.6	3.0	3.1	3.6	3.9	3.8	2.9	3.3	3.2	3.3	3.2	3.1	3.0
福 建	Fujian														0.0		
江 西	Jiangxi	0.3	0.5	0.7	0.8	0.8	0.9	1.1	1.0	0.8	0.8	0.8	0.7	0.7	0.7	0.7	0.7
山 東	Shandong	5.3	6.9	6.9	6.7	6.6	6.3	7.0	6.8	6.1	5.2	4.2	3.6	3.3	3.1	2.5	2.2
河 南	Henan	1.3	1.5	1.7	1.1	1.4	1.5	1.6	1.8	2.2	2.2	2.1	1.9	1.9	1.8	1.7	1.8
湖 北	Hubei	1.2	1.2	1.3	1.2	1.1	1.1	1.2	1.2	1.2	0.6	0.7	0.8	0.8	0.8	0.6	0.7
湖 南	Hunan		0.1	0.1	0.2	0.1									0.0	0.1	0.1
広 東	Guangdong	3.1	4.5	5.3	5.2	5.7	6.5	7.5	8.4	8.4	8.6	9.1	9.6	9.7	10.2	10.5	11.0
広 西	Guangxi	3.0	5.6	7.4	8.7	10.7	14.8	19.7	23.3	22.3	22.5	26.5	29.6	31.6	32.3	34.0	36.1
海 南	Hainan													0.1	0.0	0.1	0.1
重 慶	Chongqing	3.0	3.2	3.4	2.8	2.9	3.1	2.7	2.9	2.4	1.9	2.0	2.0	2.1	1.8	1.8	1.8
四 川	Sichuan	8.7	9.2	9.3	9.3	9.7	9.8	9.8	10.9	10.6	10.7	11.1	11.2	11.4	11.3	11.3	11.2
貴 州	Guizhou	0.1	0.2	0.2	0.1	0.1	0.1	0.1	0.2	0.1	0.1	0.1			0.0	0.0	0.0
雲 南	Yunnan	0.7	0.9	1.1	1.3	2.6	1.9	2.4	3.0	2.9	2.7	2.5	2.9	2.6	2.8	3.2	3.1
チベット	Tibet																
陝 西	Shaanxi	1.5	1.6	1.7	1.9	2.1	2.3	2.6	3.0	3.3	2.6	2.5	3.5	1.9	1.3	1.2	1.2
甘 肅	Gansu														0.0	0.0	0.0
青 海	Qinghai																
寧 夏	Ningxia																
新 疆	Xinjiang	0.3	0.3	0.2	0.1												
合 計	Total	50.1	60.2	64.5	61.1	67.7	71.3	82.0	87.9	83.1	76.1	80.0	83.6	83.1	81.7	81.9	82.4

資料：中国国家統計局「中国統計年鑑」

Source: "China Statistical Yearbook" National Bureau of Statistics of China

(5) 中国繭絲綢交易市場における各種シルク現物価格
Spot Price of Various Silk Goods

2017年9月 平均 (month average)

区分 (item)	商品名称 (goods name)	規格 (size)	価格幅(元/kg) (price range)	価格幅(円/kg) (price range)
1	乾繭(dried cocoon)		135.25 ~ 159.50	2,299 ~ 2,712
2	玉繭(double cocoon)		117.73 ~ 131.25	2,001 ~ 2,231
3	キビソ(frison)	(自動機)automatic reel	120.50 ~ 150.50	2,049 ~ 2,559
4	ビス(bisu)		114.00 ~ 127.80	1,938 ~ 2,173
5	生糸(raw silk)	21d、工場検査	444.55 ~ 452.15	7,557 ~ 7,687
6	生糸(raw silk)	21d、検驗局検査	443.50 ~ 451.50	7,540 ~ 7,676
7	生糸(raw silk)	42d、工場検査	429.93 ~ 439.63	7,309 ~ 7,474
8	玉糸(doupion silk)	110d	444.50 ~ 460.25	7,557 ~ 7,824
9	土糸(native silk)	110d	436.50 ~ 460.25	7,421 ~ 7,824
区分 (item)	商品名称 (goods name)	規格 (size)	価格幅(元/メートル) (price range)	価格幅(円/メートル) (price range)
10	羽二重(habutae)	45吋(inch)10匁(mom)	36.00 ~ 39.00	612 ~ 663
11	羽二重(habutae)	45吋(inch)8匁(mom)	29.67 ~ 34.33	504 ~ 584
12	シャンタン(shantung)	45吋(inch)16匁(mom)	37.05 ~ 40.05	630 ~ 681
13	サテン(satin)	45吋(inch)16匁(mom)	57.38 ~ 61.38	975 ~ 1043
14	クレープデシン(crepe de chine)	45吋(inch)13.5匁(mom)	48.33 ~ 51.00	822 ~ 867
15	クレープデシン(crepe de chine)	45吋(inch)12匁(mom)	41.67 ~ 44.33	708 ~ 754

注:1元=17円

2017年10月 平均 (month average)

区分 (item)	商品名称 (goods name)	規格 (size)	価格幅(元/kg) (price range)	価格幅(円/kg) (price range)
1	乾繭(dried cocoon)		136.75 ~ 161.00	2,325 ~ 2,737
2	玉繭(double cocoon)		118.40 ~ 131.80	2,013 ~ 2,241
3	キビソ(frison)	(自動機)automatic reel	120.25 ~ 146.50	2,044 ~ 2,491
4	ビス(bisu)		115.25 ~ 128.40	1,959 ~ 2,183
5	生糸(raw silk)	21d、工場検査	456.10 ~ 463.50	7,754 ~ 7,880
6	生糸(raw silk)	21d、検驗局検査	462.40 ~ 468.15	7,861 ~ 7,959
7	生糸(raw silk)	42d、工場検査	434.18 ~ 452.63	7,381 ~ 7,695
8	玉糸(doupion silk)	110d	448.25 ~ 461.50	7,620 ~ 7,846
9	土糸(native silk)	110d	440.00 ~ 462.25	7,480 ~ 7,858
区分 (item)	商品名称 (goods name)	規格 (size)	価格幅(元/メートル) (price range)	価格幅(円/メートル) (price range)
10	羽二重(habutae)	45吋(inch)10匁(mom)	38.50 ~ 42.38	655 ~ 720
11	羽二重(habutae)	45吋(inch)8匁(mom)	30.84 ~ 36.17	524 ~ 615
12	シャンタン(shantung)	45吋(inch)16匁(mom)	37.55 ~ 40.79	638 ~ 693
13	サテン(satin)	45吋(inch)16匁(mom)	59.38 ~ 63.79	1009 ~ 1084
14	クレープデシン(crepe de chine)	45吋(inch)13.5匁(mom)	51.33 ~ 54.67	873 ~ 929
15	クレープデシン(crepe de chine)	45吋(inch)12匁(mom)	43.67 ~ 46.67	742 ~ 793

注:1元=17円

資料:中国繭絲綢交易市場(浙江省嘉興市)発表

Source:China Silk Exchange(Zhejiang Sheng Jia Xing)

(6) 中国企業別従業員年間賃金総額及び対前年指数

Total Wage Bill of Employed Persons in Urban Units and Related Indices

年次 Year	賃金総額 (億元) Total Wage Bill (100million yuan)				対前年指数 Indices (preceding year=100)			
	全体 Total	国有企業 State- owned Units	集団企業 Urban Collective -owned Units	その他企業 Units of Other Types of Ownership	全体 Total	国有企業 State- owned Units	集団企業 Urban Collective -owned Units	その他企業 Units of Other Types of Ownership
1995年	8,055.8	6,172.6	1,210.6	672.6	119.0	117.4	115.6	142.2
1997年	9,602.4	7,323.9	1,283.9	994.5	103.8	106.2	101.1	124.0
1998年	9,540.2	6,934.6	1,054.9	1,550.7	99.4	94.7	82.2	155.9
1999年	10,155.9	7,289.9	995.8	1,870.1	106.5	105.1	94.4	120.6
2000年	10,954.7	7,744.9	950.7	2,259.1	107.9	106.2	95.5	120.8
2001年	12,205.4	8,515.2	898.5	2,791.7	111.4	109.9	94.5	123.6
2002年	13,638.1	9,138.0	863.9	3,636.2	111.7	107.3	96.1	130.3
2003年	15,329.6	9,911.9	867.1	4,550.6	112.4	108.5	100.4	125.1
2004年	17,615.0	11,038.2	876.2	5,700.6	114.9	111.4	101.0	125.3
2005年	20,627.1	12,291.7	906.4	7,429.0	117.1	111.4	103.4	130.3
2006年	24,262.3	13,920.6	983.8	9,357.9	117.6	113.3	108.5	126.0
2007年	29,471.5	16,689.1	1,108.1	11,674.3	121.5	119.9	112.6	124.8
2008年	35,289.5	19,487.9	1,203.2	14,598.4	119.7	116.8	108.6	125.0
2009年	40,288.2	21,862.7	1,273.3	17,152.1	114.2	112.2	105.8	117.5
2010年	47,269.9	24,886.4	1,433.7	20,949.7	117.3	113.8	112.6	122.1
2011年	59,954.7	28,954.8	1,737.4	29,262.4	126.8	116.3	121.2	139.7
2012年	70,914.2	32,950.0	1,990.4	35,973.8	118.3	113.8	114.6	122.9
2013年	93,064.3	33,359.6	2,195.8	57,508.9	131.2	101.2	110.3	159.9
2014年	102,817.2	36,106.6	2,302.7	64,408.0	110.5	108.2	104.9	112.0
2015年	112,007.8	40,387.9	2,239.4	69,380.5	108.9	111.9	97.3	107.7

資料： 中国統計年鑑 (2016)

Source: China Statistical Yearbook 2015

(7) 中国企業別従業員年間平均賃金及びその対前年指数

Average Wage of Employed Persons in Urban Units and Related Indices

年次 Year	年平均賃金 (元) Average Wage (yuan)				対前年指数 Indices(preceding year=100)							
					名目賃金Average Wage				実質賃金Average Real Wage			
	全体Total	国有企業 State-owned Units	集団企業 Urban Collective- owned Units	その他企業 Units of Other Types of Ownership	全体Total	国有企業 State-owned Units	集団企業 Urban Collective- owned Units	その他企業 Units of Other Types of Ownership	全体Total	国有企業 State-owned Units	集団企業 Urban Collective- owned Units	その他企業 Units of Other Types of Ownership
1995年	5,348	5,553	3,934	7,728	118.9	117.3	121.1	119.9	101.8	100.4	103.7	102.6
1997年	6,444	6,679	4,516	9,092	107.8	107.6	104.7	106.7	104.5	104.4	101.6	103.5
1998年	7,446	7,579	5,314	9,241	115.5	113.5	117.7	101.6	116.2	114.2	118.4	102.3
1999年	8,319	8,443	5,758	10,142	111.7	111.4	108.4	109.8	113.2	112.9	109.8	111.2
2000年	9,333	9,441	6,241	11,238	112.2	111.8	108.4	110.8	111.3	110.9	107.5	109.9
2001年	10,834	11,045	6,851	12,437	116.1	117.0	109.8	110.7	115.3	116.2	109.0	109.9
2002年	12,373	12,701	7,636	13,486	114.2	115.0	111.5	108.4	115.4	116.2	112.6	109.5
2003年	13,969	14,358	8,627	14,843	112.9	113.0	113.0	110.1	111.9	112.0	112.0	109.1
2004年	15,920	16,445	9,723	16,519	114.0	114.5	112.7	111.3	110.3	110.9	109.1	107.7
2005年	18,200	18,978	11,176	18,362	114.3	115.4	114.9	111.2	112.5	113.6	113.1	109.4
2006年	20,856	21,706	12,866	21,004	114.6	114.4	115.1	114.4	112.9	112.7	113.4	112.7
2007年	24,721	26,100	15,444	24,271	118.5	120.2	120.0	115.6	113.4	115.0	114.8	110.6
2008年	28,898	30,287	18,103	28,552	116.9	116.0	117.2	117.6	110.7	109.8	111.0	111.4
2009年	32,244	34,130	20,607	31,350	111.6	112.7	113.8	109.8	112.6	113.7	114.8	110.8
2010年	36,539	38,359	24,010	35,801	113.3	112.4	116.5	114.2	109.8	108.9	112.9	110.7
2011年	41,799	43,483	28,791	41,323	114.4	113.4	119.9	115.4	108.6	107.7	113.9	109.6
2012年	46,769	48,357	33,784	46,360	111.9	111.2	117.3	112.2	109.0	108.3	114.3	109.2
2013年	51,483	52,657	38,905	51,453	110.1	108.9	115.2	111.0	107.3	106.1	112.2	108.2
2014年	56,360	57,296	42,742	56,485	109.5	108.8	109.9	109.8	107.2	106.6	107.6	107.5
2015年	62,029	65,296	46,607	60,906	110.1	114.0	109.0	107.8	108.5	112.3	107.4	106.2

資料：中国統計年鑑2016

Source: China Statistical Yearbook 2016

(8)中国産業別従業員年平均賃金の推移

Average Wage of Employed Persons in Urban Units by Sector

(単位:元)(yuan)

産業別 Sector	2005年	2006年	2007年	2008年	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年
農、林、牧、漁業 Agriculture, Forestry, Fishery	8,207	9,269	10,847	12,560	14,356	16,717	19,469	22,687	25,820	28,365	31,947
採掘業 Mining	20,449	24,125	28,185	34,233	38,038	44,196	52,230	56,946	60,138	61,677	59,404
製造業 Manufacturing	15,934	18,225	21,144	24,404	26,810	30,916	36,665	41,650	46,431	51,369	55,324
電力、ガス、水道業 Production/Distribution of Electricity, Gas and Water	24,750	28,424	33,470	38,515	41,869	47,309	52,723	58,202	67,085	73,339	78,886
建築業 Construction	14,112	16,164	18,482	21,223	24,161	27,529	32,103	36,483	42,072	45,804	48,886
交通、運輸、倉庫、郵便業 Transport, Storage and Post	20,911	24,111	27,903	32,041	35,315	40,466	47,078	53,391	57,993	63,416	68,822
情報通信コンピューターサービス Information Transmission, Computer Service and Software	38,799	43,435	47,700	54,906	58,154	64,436	70,918	80,510	90,915	100,845	112,042
卸売、小売業 Wholesale and Retail Trades	15,256	17,796	21,074	25,818	29,139	33,635	40,654	46,340	50,308	55,838	60,328
ホテル、飲食業 Hotels and Catering Services	13,876	15,236	17,046	19,321	20,860	23,382	27,486	31,267	34,044	37,264	40,806
金融業 Financial Intermediation	29,229	35,495	44,011	53,897	60,398	70,146	81,109	89,743	99,653	108,273	114,777
不動産業 Real Estate	20,253	22,238	26,085	30,118	32,242	35,870	42,837	46,764	51,048	55,568	60,244
賃貸、リース業 Leasing and Business Services	21,233	24,510	27,807	32,915	35,494	39,566	46,976	53,162	62,538	67,131	72,489
科学研究、技術サービス業 Scientific Research, Technical Services	27,155	31,644	38,432	45,512	50,143	56,376	64,252	69,254	76,602	82,259	89,410
水利、環境管理業 Manage of Water Conservancy, Environment and Public Services	14,322	15,630	18,383	21,103	23,159	25,544	28,868	32,343	36,123	39,198	43,528
家庭サービス業 Services to Households and Other Services	15,747	18,030	20,370	22,858	25,172	28,206	33,169	35,135	38,429	41,882	44,802
教育 Education	18,259	20,918	25,908	29,831	34,543	38,968	43,194	47,734	51,950	56,580	66,592
衛生、社会保障、社会福祉業 Health, Social Securities and Entertainment	20,808	23,590	27,892	32,185	35,662	40,232	46,206	52,564	57,979	63,267	71,624
文化、スポーツ、娯楽業 Culture, Sports and Entertainment	22,670	25,847	30,430	34,158	37,755	41,428	47,878	53,558	59,336	64,375	72,764
公共機関、社会团体 Public Management and Social Organization	20,234	22,546	27,731	32,296	35,326	38,242	42,062	46,074	49,259	53,110	62,323
合計 Total	18,200	20,856	24,721	28,898	32,244	36,539	41,799	46,769	51,483	56,360	62,029

(出所)中国統計年鑑2016

Source: China Statistical Yearbook 2016

上記を円(Yen)換算

産業別 Sector	2005年	2006年	2007年	2008年	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年
製造業 Manufactur	212,560	273,375	317,160	366,060	375,340	401,908	476,645	541,450	835,758	976,011	1,051,156
合計 Total	242,788	312,840	370,815	433,470	451,416	475,007	543,387	607,997	926,694	1,070,840	1,178,551
年別円yen/人民元yuanレート	13.34	15.00	15.00	15.00	14.00	13.00	13.00	13.00	18.00	19.00	19.00

(9) 中国省別従業員年平均賃金(2015年)

Average Wage of Employed Persons Urban Units by Region

省(区)別 Region		年平均賃金 (単位:元)(yuan)	円換算 (円) (yen)	全国平均比(%) Indices(average=100)	
北	京	Beijing	111,390	2,116,410	179.58
天	津	Tianjin	80,090	1,521,710	129.12
河	北	Hebei	50,921	967,499	82.09
山	西	Shanxi	51,803	984,257	83.51
内	蒙	Inner Mongolia	57,135	1,085,565	92.11
遼	寧	Liaoning	52,332	994,308	84.37
吉	林	Jilin	51,558	979,602	83.12
黒	龍	Heilongjiang	48,881	928,739	78.80
上	海	Shanghai	109,174	2,074,306	176.00
江	蘇	Jiangsu	66,196	1,257,724	106.72
浙	江	Zhejiang	66,668	1,266,692	107.48
安	徽	Anhui	55,139	1,047,641	88.89
福	建	Fujian	57,628	1,094,932	92.90
江	西	Jiangxi	50,932	967,708	0.03
山	東	Shandong	57,270	1,088,130	92.33
河	南	Henan	45,403	862,657	73.20
湖	北	Hubei	54,367	1,032,973	87.65
湖	南	Hunan	52,357	994,783	84.41
広	東	Guangdong	65,788	1,249,972	106.06
広	西	Guangxi	52,982	1,006,658	85.41
海	南	Hainan	57,600	1,094,400	92.86
重	慶	Chongqing	60,543	1,150,317	97.60
四	川	Sichuan	58,915	1,119,385	94.98
貴	州	Guizhou	59,701	1,134,319	96.25
雲	南	Yunnan	52,564	998,716	84.74
西	蔵	Tibet	97,849	1,859,131	157.75
陝	西	Shaanxi	54,994	1,044,886	88.66
甘	肅	Gansu	52,942	1,005,898	85.35
青	海	Qinghai	61,090	1,160,710	98.49
寧	夏	Ningxia	60,380	1,147,220	97.34
新	疆	Xinjiang	60,117	1,142,223	96.92
全	国	Average	62,029	1,178,551	100.00

(出所) 中国統計年鑑2016 Source: China Statistical Yearbook 2016

(注) 1元=19円 Note: 1yuan=19yen

(10)ブラジルの繭・生糸生産数量の推移
Cocoon and Raw Silk Production in Brazil

シルク年度 Silk Year (9～8月) (Sep-Aug)	繭生産量 Cocoon Production (トン)(Ton)
1995/96	15,368 (95%)
1996/97	14,811 (96%)
1997/98	14,594 (99%)
1998/99	10,305 (71%)
1999/2000	8,473 (82%)
2000/01	9,916 (117%)
2001/02	10,238 (103%)
2002/03	9,966 (97%)
2003/04	8,005 (80%)
2004/05	7,146 (89%)
2005/06	8,051 (113%)
2006/07	8,617 (107%)
2007/08	6,266 (73%)
2008/09	4,835 (77%)
2009/10	4,439 (92%)
2010/11	3,037 (68%)
2011/12	2,620 (86%)
2012/13	2,608 (99%)
2013/2014	2,563 (98%)
2014/2015 〔見込み〕 〔Estimate〕	2,764 (108%)

暦年 Calendar Year	生糸生産量 Raw Silk Production (kg)	生糸生産量 Raw Silk Production (俵換算) (Bale value)
1995	2,467,524 (97%)	41,125
1996	2,242,000 (91%)	37,367
1997	2,120,129 (95%)	35,335
1998	1,820,745 (86%)	30,346
1999	1,553,722 (85%)	25,895
2000	1,389,356 (89%)	23,156
2001	1,484,905 (107%)	24,748
2002	1,607,485 (108%)	26,791
2003	1,562,563 (97%)	26,043
2004	1,512,133 (97%)	25,202
2005	1,284,510 (85%)	21,409
2006	1,387,289 (108%)	23,121
2007	1,219,562 (88%)	20,326
2008	1,176,885 (97%)	19,615
2009	811,020 (69%)	13,517
2010	769,903 (95%)	12,832
2011	557,633 (72%)	9,294
2012	439,504 (79%)	7,325
2013	440,301 (100%)	7,338
2014	432,500 (98%)	7,208
2015 〔見込み〕 〔Estimate〕	435,500 (101%)	7,258

資料：ブラタク製糸株式会社

注：()内は対前年比

[]内の見込みは2015年4月現在

Source: Fiação de Seda Brtac S.A

Note: Figures in parenthesis are compared to the previous year.

Estimates are as of April 2015.

※「シルクレポート」の記事と統計データは、下記のホームページでもご覧になれます。

<http://www.silk-teikei.jp>

シルクレポート 2018年1月号 NO.56 平成30年1月1日発行

編集 / 発行

一般財団法人大日本蚕糸会

〒100-0006 東京都千代田区有楽町1-9-4 蚕糸会館6階

TEL : 03-3214-3500

FAX : 03-3214-3511

URL:<http://www.silk-teikei.jp>

製本 / 印刷

株式会社正大印刷社

無断転載禁ず